

秘



法律取調
委員 会

民法草案議事筆記

自第三百十四條
至第六百條

日本學術振興會

民法草案議事錄記 二回

日本學術振興會

XB300
N 2
4 a

日本學術振興會

第二部 人權即チ債權及ヒ義務一般

前置條例

第三百十四條 第五百三條ニ義務シタル如キ人權即チ債權ハ常ニ義務ト對當ス

義務ハ一人又ハ數人ヲ他ノ定マリタル一人又ハ數人ニ對シ或ル物ヲ與ヘ又ハ或ル事ヲ爲シ若クハ爲サル、コトニ關東スル人定法又ハ自然法ノ繩索ナリ

義務ヲ負フ者ハ之ヲ債務者ト名ツケ義務ニ因テ利益ヲ得ル者ハ之ヲ債權者ト名ツク

本條ハ報告委員ニテ一項ノ第五百三條ニ義務シタル如キノ十三字ヲ刪リ「數人ヲ」ノ下「シテ」ノ二字ヲ加ヘ又「關東スル」ノ四字ヲ刪リ「服從セシムル」ノ六字ヲ置キ又「繩索」ノ二字ヲ屬紳ニ換フ（清岡）天然ノ義務ト自然ノ義務ト差別アルカ（栗

塚)差別ナシ(委員長)法律上ヨリ云へバ自然ト云ヒドロワー
 ヨリ云へバ天然ト云フニ定メタレバ如何(栗塚)反譯局ニテハ
 法律上ヨリ云へバ自然法ト云ヒドロワーナチユルヨリ云へハ天
 然法ト云フニ定メタリ此點ハ天然法トスルモ別ニ差支ナキモ尙
 ホ反譯局ニ協議スベシ(松岡)自然法ノ繩索ト云フハ如何(栗
 塚)自然法ノ繩索トハ自然義務ト云フカ如シ此レハ學者ノ説ハ
 鬼モ角成文法ニハ別ニ要用ナシ(委員長)財産ハ權利ナリト云
 フ定義ヲ示シタル位ナレバ此所モ自然法ノ文字ナカルヘカラズ
 (栗塚)然リ此區別ハ人定法ハ最初ニ斷權アリ自然法ハ權利者
 斷權アラサルモ義務者ハ其義務ヲ甘ンシ償還スレバ之ヲ取戻ス
 コトヲ得サルモノナリト報告委員修正ハ可決セラル

第三百十五條 人定法ノ義務即チ法定ノ義務ハ法律及ヒ官憲ノ總テ
 ノ方法殊ニ裁判上ニ於ケル訴ノ方法ニ因リ其執行ニ債務者ヲ強要

スルコトヲ得ルモノナリ
 天然ノ義務ハ裁判上ノ斷權ヲ生セス其効力ハ此第二部ノ附録ニ規
 定ス
 法律ハ純然タル道德ノ義務ノ執行ニ於テモ又宗教ノ本分ノ履行ニ
 於テモ干渉セス

本條ハ報告委員ニテ法律及ヒ官憲ノトアルヲ法律ノ總シタル方
 法ト修正シタリ(清岡)法律ノ總シタルモノニシテ官憲ニアラ
 サルコトナシ(栗塚)公正證書ノ如キ官ノ威力ヲ藉ル場合ヲ示
 スニアリ(栗塚)報告委員ノ修正シタル應ノ字ハ許ノ字ニ替ヘ
 ラレタシ(清岡)此點ハ法律及ヒ法律ノ許シタル方法トシタシ
 法律ト云へハ体ニ屬シ法律ノ許シタル方法ト云へハ其作用上ニ
 屬スルモノナレバナリ(栗塚)此條ハ裁判所ノ判決ト又公證人
 ノ公正證書ノ如キ裁判所ノ判決ヲ用ヒサルモノ、如キヲ指ス(清

同) 租税ヲ徵收サル、義務ノ如キハ此ニ當ラサルカ(栗塚) 此
法ハ私法ナレバ公法ハ包入セサルモ人定法トアルニ依リ公法ノ
如キニモ適用セントスレバ適用セラザラズ(南部)
ソレハ三百十六條ノ各號中何レノ項ヨリ其義務ノ生スルモノト
スルカ(栗塚) 第四ヨリ生スルモノトセララルヘシ(委員長) 官
憲ト云フ字ハ國際ノ條約上ニモ推及スルヲ得ヘキヤ(栗塚) 官
憲ハ法律以内ノ官憲ナルヲ以テ憲兵トカ檢察トカ云フカ如キモ
ノニハ適用サル、モ國際條約上ニ屬スル如キハ否ラサルベシ(清
岡) 本分ト云フコトハ信仰上ノ本分ト云フコトナルカ(栗塚)
然ラズ宗教上ノ心務トカ云フ如キモノナリ(清岡) 然ラハ心務
トカ本務トカニシテハ如何(栗塚) 尙ホ反譯局ニ於テ妥當ノ文
字ヲ精撰スベシ

第一章 義務ノ原由即チ本源

前置條例

第三百十六條 義務ハ左ノ諸件ヨリ生ス

第一 合意又ハ契約

第二 不當ナル即チ正當ノ原由ナキ利得

第三 有意ユテ又ハ不戒愼ニ因リ加ヘタル不當ノ損害

第四 法律ノ條例

(栗塚) 合意又ハト云フ又ハノ字ハ即チノ誤リナリ(清岡) 不
當ナルノナルヲ圖ルベシ(栗塚) 之ヲ圖リテハ不可ナリ(渡)
不戒愼ト云ハンヨリ不注意トシテハ如何不戒愼ハ受身的ニ屬シ
不注意ト云ヘハ行爲的ニ屬ス況ンヤ有意ニ對スルヲ以テ不注意
ト云フチ可トス(委員長) 此字ハ反譯局ニ於テ定メサレバ他ニ
モ差響ヤアラン即チ反譯局ノ詮議ニ付ス

第一節 合意及ヒ契約

第三百十七條 合意ハ物權ト人權トヲ間ハス一箇ノ權利ヲ創設シ改
據シ又ハ之ヲ消滅セシムルヲ目的トスル二人又ハ數人ノ意思ヲ合
致ナリ

合意カ人權又ハ義務ノ創設ヲ主タル目的トスルトキハ其合意ハ契
約ナル特別ノ名稱ヲ取ル

(松岡)是ノ如ク法定スレバ裁判上用語トナルベシ(南部)然
ルニ契約ノ所ヲ合意トスルコトアルモ根元ヲ詮議スレハ區別ア
リ(松岡)如是ナレハ土地ノ賣買ハ契約ト云ハス合意ト云フヘ
キニ至ラン何故ニ契約ト云フヲ得サルカ(栗塚)財産ハ權利ナ
リト云フカ如ク財産ト物トヲ分テタルカ如シ家屋ノ賣買ノ如キ
ハ合意ヲ以テ權利ヲ讓與セリ若シ其代價ヲ拂ハサル場合ニハ人
權即チ義務成立ス(委員長)目的トスルトキハトハ如何(栗塚)
之ヲ目的物ト云ハサルハ物事ヲ包スルヲ以テナリ(松岡)契約

ハ創設ノミニ關シテ改據ニハ關ラサルカ(栗塚)權利ヲ目的ト
シタルモノハ契約ニアラス義務ノ目的ナリ(松岡)人權ノ改據
トハ如何ナルモノカ(栗塚)人權ニハ改據ナシ物權ノミ改據ア
リ(村田)擔保義務ヲ保證義務トシタルトキハ人權ノ改據ナル
ヘシ(南部)一個ノ義務ヲ變更スルコトヲ改據トスヘキモノニ
シテ一分ノ義務ヲ變シタルヲ云ハス(尾崎)金拂ノ契約ヲ米拂
トスレバ改據ナリ(委員長)物權ニ於テハ契約ト云フベカラサ
ルニアラサルモ合意ト云フヘキモノカ(栗塚)然リ

第一款 合意又ハ契約ノ諸書類

第三百十八條 契約ハ雙務ノモノタリ又ハ片務ノモノタリ

當事者互相ニ義務ヲ負フトキハ契約ハ雙務即チ雙務ノモノタリ
一人又ハ數人ノ當事者カ一人又ハ數人ノ他ノ當事者ニ對シ互相ナ
ラスシテ義務ヲ負フトキハ契約ハ片務ノモノタリ(第千百二條、

第一千三百三條

合意又ハトアル又ハチ即チト修正ス（村田）諸種類ノ諸ノ字ハ
不用ナリ（清岡）及務ニハ一人若クハ數人ノ字ナキハ如何（栗
塚）互相ト云ヘルヲ以テナリ

第三百十九條 契約ハ有價名義ノモノタリ又ハ無價名義ノモノタリ
當事者ノ各自カ他ノ當事者ノ爲ノ又ハ第三者ノ爲ノ捐給ヲ爲スト
キハ契約ハ有價名義即チ利益ニ係ルモノタリ

當事者ノ一方カ自己ノ方ヨリ何等ノ利益ヲモ給セスシテ他ノ一方
ヨリ利益ヲ受タルトキハ契約ハ無價名義即チ恩惠ノモノタリ（第
千百五條、第一千百六條、伊民第一千百一條）

（尾崎）捐給トハ如何（栗塚）犧牲ト云フ意ニシテ双方共ニ品
物ヲ集合フト云カ如シ（鶴田）他ノ當事者ト云フ語ハ種カナラ
ズ（清岡）各自ノ外ニ他ノ當事者アルニ似タリ（栗塚）當事者

各自トハ認ムヘカラサルカ（村田）捐給ノ上ニ他ノ當事者トス
レハ可ナリ（委員長）契約ハ各當事者カ他ノ當事者云々トシテ
ハ如何（南部）原被告ノ一方カ他ノ一方ト云フカ如シ（松岡）
各當事者トスレバ八百一條ニモ其例アルヲ以テ明了ナルヘシ（村
田）捐給ノ上ニ互ノ字ヲ挿入スレハ明了ナルヘシ（南部）互ノ
字ヲ挿入スレバ各當事者カ互ニ又ハ第三者ノ爲ノ云々トスルヲ
可トス（委員長）一ノ當事者カ他ノ當事者ノ爲ノトシテハ如何
違ニ各當事者カ互ニ他ノ當事者ノ爲ノト云フニ修正ス

第三百二十條 契約ハ諾成ノモノタリ又ハ給物ノモノタリ
契約カ其作成ニ付キ當事者ノ承諾ノミヲ要スルトキハ契約ハ諾成
ノモノタリ

契約カ承諾ノ外目的タル旨ノ引渡ヲ要スルトキハ契約ハ給物ノモ
ノタリ

(鶴田)作成ト云フハ成立ト云フ譯カ(栗塚)成立ハ生存ノ意ナルモ作成ハ目ヲ形成スルノ意ナリ(委員長)此字ハ組成ト云テ可トスルニアラズヤ(栗塚)組成ハ集合シテ爲シタルノ意トナルテ以テ作成トシタリ又末項目的ノ上ニ其ノ字ヲ加フルテ可トス原案可決ス

第三百二十一條 契約ハ有式ノモノタリ又ハ無式ノモノタリ

承諾カ公ノ即チ公正ノ證書ニ於テ與ヘラルヘキトキハ契約ハ有式ノモノタリ

其他總テノ場合ニ於テハ契約ハ無式ノモノタリ

(栗塚)有式無式ハ權當ノ譯字ニアラサルモ外ニ恰當ノ字ナシ

(清岡)公ノ即チチ公即チトシタシ

第三百二十二條 契約ハ堅定ノモノタリ又ハ射俸ノモノタリ

契約ノ成立及ヒ其効力カ合意ノ時ヨリ的確ナルトキハ契約ハ堅定

ノモノタリ

契約ノ成立又ハ其効力ノ全部若クハ一分カ偶然ニ係ル事件ニ屬シタルトキハ契約ハ射俸ノモノタリ

(松岡)射俸ト云ヘハ米相場ノ如キカ(栗塚)然リ俸俸ヲ目的

ニスルコトナリ(松岡)俸俸ト云ヘバ不正ノ嫌ヒアラサルカ(南

部)俸俸ト云フモ不正ニ限ルモノニアラス

第三百二十三條 契約ハ主タルモノタリ又ハ從タルモノタリ

契約ノ成立カ他ノ契約ノ成立ニ不關係ナルトキハ契約ハ主タルモノタリ

反對ノ場合ニ於テハ契約ハ從タルモノタリ主タル契約ノ無効ハ從

タル契約ノ無効ヲ惹起ス但從タル契約ヲ主タル契約ノ無効ヲ補フ

テ目的トスルトキハ此限ニ在ラス(第千二百二十七條)

從タル契約ノ無効ハ主タル契約ノ無効ヲ惹起セス但當事者カ其二

個ノ契約ヲ不可分ナリト看做シタルトキハ此限ニ在ラス

(鶴田)事實ノ關係アル契約ハ何レヲ主トスルカ明カナラサレハ共ニ從タラサルベカラサルカ如シ例ハ貸金ノ契約ニハ抵當ノ契約アルヘシ相互ニ關係スルモノナレハ主從ヲ分ツベカラス(南部)貸金ハ抵當ナキモ成立セサルニアラズ然レバ貸金ノ成立ハ抵當ニ關係セサルナリ(清岡)末項ノ但以下ハ如何ノ場合ナルカ(栗塚)甲者乙者ノ地面ヲ買フニ此地面ハ要役地ニナリトシテ買ヒシニ其地役ナカリシトキハ其契約ハ不過分ノ爲ノ無効トナル

第三百二十四條 契約ハ有名ノモノタリ又ハ無名ノモノタリ

有名ノ契約ハ固有ノ名稱アリテ此法律又ハ商法ニ於テ特別ナル條例ノ目的タルモノナリ又有名ノ契約ハ之ニ關スル條例ヲ以テ格別ニ規定セサルニ付テハ此第二部ノ規則ヲ以テ之ヲ管知

ス

無名ノ契約ハ此一般ノ規則ニ從フ又有名ノ契約ノ特別ナル規則ハ其有名ノ契約ト最モ類似スル無名ノ契約ニ適用スルコトヲ得(第一千百七條)

本條二項管知ハ第六百二十三條ノ修正ハ例ニヨリ支配ト修正ス(清岡)之ニ關スル條例ト云フハ右記ノ條例ト同シカルヘキニ之ニ關スルト云ヘハ其意味却テ曖昧ナリ(南部)有名ノ契約ト云フニハ例ハ賣買契約トカ交換契約トカ云フ固有ノ名稱アリソハ民法及商法ニ特示シ其有名ノ契約ニシテ賣買契約交換契約等ニ規定セサルトキハ云々スベシト云フノ意ナリ此所ハ有名ノ契約ハ右ノ條例ヲ以テ格別ニ云々トシテハ如何可決ス(清岡)此一般ト云フハ何レヲ指スカ(尾崎)第二部ノ規則ヲ云ヒシナリ(清岡)此部ニ掲ケタルトシテハ如何末尾ノ契約ニ適用スルヲ

得ノ契約ノ下ニ反譯上ニテ之ヲノ二字ヲ入ル

第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ條件

第三百二十五條 一 般ニ合意ノ成立ニ付テハ左ノ三箇ノ條件ヲ必要トス

第一 當事者又ハ其代人ノ承諾

第二 的確即チ定マリテ各箇人カ處分權ヲ有スル目的

第三 眞實ニシテ且合法ナル理由

有式ノ合意即チ有式ノ契約ハ右ノ外要用ナル法式カ遵守セラレタルトキニアラサレハ成立セス又給物ノ契約ハ返還セララルヘキ物ノ引渡アリタルトキニアラサレバ成立セス(第千八百八條)

(尾崎)給物契約ハ返還セララルヘキ物ノ引渡アリタルトキニアラサレバ成立セストハ如何(栗塚)給物契約ハ使用貸借消費貸借寄託及ヒ質ノ四種外ニ成立セス此四種ハ皆返還スベキモノナ

ルヲ以テ云稱スルナリ

第三百二十六條 合意ノ成立ニ必要ナル條件ニ關セス其有効ニ付キ

左ニ掲クル他ノ二箇ノ條件ヲ要ス

第一 承諾ニ瑕疵ヲ付スル錯誤又ハ強暴ノ無キコト(第千九百九條)

第二 當事者ノ能力アルコト又ハ其有効ニ代理セラレタルコト(第千九百九條)

折損ハ法律ヲ以テ定メタル場合ニアラサレバ合意ニ瑕疵ヲ付セス

本條ハ報告委員ニテ條件ニ關セスヲ條件ノ外トス(鶴田)折損トハ何ソ(栗塚)土地賣買及ヒ分派等ノトキニ損害ヲ被ルコト賣者十分ノ七分派ハ四分ノ一ノ損害アル等ノ如キヲ云フ折損トハ此二様ノ場合ニシカ使用セサルヲ損害トカ損失トカ云フ文字ヲ用ユルハ宜シカラズト云フニテ折損トセリ

第三百二十七條 承諾ハ利害ノ關係アル者トシテ合意ニ加ハル總テ

ノ當事者ノ意思ノ合致ナリ

當事者ノ一人ノ承諾ナキコトハ他ノ當事者ノ間ニ於テモ合意ノ成
ルコトヲ妨ク但之ニ異ナル意思ノ證アルトキハ此限ニ在ラス

(松岡)本條二項ハ三人アルヲ想像シタルカ(南部)然リ

第三百二十八條 承諾ハ書面ニテ又ハ口頭ニテ又然ノミナラス態様
ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ得但此終ノ場合ニ於テ同意ノ他ノ方式ニ
妨礙アリ且當事者ノ充分ナル意思ノ的確ナル證アルコトヲ要ス
又承諾ハ情況ニ因リ默示タルコトヲ得

(委員長)默示トハ如何ノ場合カ(栗塚)買ハントシタルトキ
默シテ代價ヲ渡シタルカ如シ(鶴田)默示タルコトヲ得トハ緊
需ナラズ(清岡)默示スルヲ得トスレバ可ナリ元來示ノ字ニ弊
アリ(栗塚)暗黙ニ與ヘラル、コトヲ得トスレバ宜シカルヘキ
モ默示ト云フ字ハ慣用ニ關シタルヲ以テ此儘ヲ可ナリトセン又

曰默示ニテ與フルコトヲ得トシテハ如何(南部)然ラバ默示ニ
テ之ヲ與フルコトヲ得トセサルベカラサルナリ率口原案ヲ可ト
セン(委員長)默示ト云フ固定シタルモノアルトセバ原案ニテ
不都合ナシ(栗塚)尙ホ反譯局ニ協議スベシ

第三百二十九條 提供即チ言込ハ之ヲ受ケタル者ニ知ラシメテ言消
サ、ル間ハ受諾セラル、コトヲ得

提供即チ言込ヲ爲シタル者ガ死亡シ又ハ契約スルノ無能力ニ陥リ
タルトキハ他ノ當事者ノ受諾ハ其未タ此事實ヲ知ルニ至ラサル間
ハ有効ナリ

若シ受諾ノ爲ノ期間カ指定セラレタルトキハ提供ハ此期間ノ滿了
ノミニ因テ終ル

郵便又ハ電信ノ錯誤ハ差出人ノ負擔トス但官署ニ對スル求債權ア
ルトキハ之ヲ行フコトヲ妨ケス

（栗塚）舊案ニハ「之ヲ受ケタル者ニ知ラシメテ取消等ノ文字」アラサルモカーカードノ注意ヲ以テ起案者此文字ヲ挿入シタリ又此條ハ商法ト抵觸スルニ付若シ此條議定シタレバ商法ハ此ニ關スル點ニ付テ其抵觸ヲ改メサルベカラズ（尾崎）抵觸トハ何處ノ所カ（今村）民法ノ主義ハ甲ノ商人カ乙商人ニ書面ヲ以テ賣買契約ナスルニハ乙之ヲ承知シ受諾ヲ發シタリトセンニ此場合ハ契約成立ス即チ該契約カ社會ニ成立シタルカ故ナリ商法ノ主義ハ受諾ノ返事ヲ發スルモ其返事未着ノ間ハ日後電信ヲ以テ其契約ヲ取消スヲ得ヘシ（委員長）佛國法ニハ此點ハ如何アルカ（栗塚）佛國民法ニハ明文ナシ（松岡）此點ハ民事上ヨリモ商事上ニ關スル場合多カルヘシ（松岡）商事上ノ通例ハ書信ヲ發スルモ電信ヲ以テ取消スヲ得ヘキモノナリシモ本條第一項ハ何ニシテモ不適合ナキニアラズヤ（栗塚）ボアソナードハ受諾者受諾

民事二ノ一〇

ノ返報ニ接セサルモ契約成立スルナリロヘスレールハ之ヲ受諾スルモ返報ニ接セサル間ハ其契約成立セサルニ付キ取消スヲ得ヘシトセリ（委員長）民法ニハ此場合爾ナルカ商法ニハ類屬ナルベシ故ニ商事上ニ關シテハボアソナードノ意見及ヒロヘスレールノ意見トニ付キ可否決ヲ取ルベシ（尾崎）先ニ到着シタル申込ヲ以テ受諾スルモノナレハ夫ヲ以テ契約ノ合致トスベシ（松岡）初發ノ書面ヨリ後發ノ電信先着スルヲ以テ先着ノ書信ヲ以テ受諾スルモノナレハ電報ニ係ル受諾ヲ以テ合致トセサルヘカラズ（南部）發信ハ之ヲ近所間ノモノト想像セハ先言カ先聽スルニアラズヤ故ニ初信ヲ以テ契約成立ノ端トナサ、ルヘカラズ（栗塚）ボアソナードノ意見ハ提供者ヲ自在ニシテ受諾者ヲ束縛セリロヘスレールハ受諾者ハ自由ニテ提供者ヲ束縛スロヘスレールハ提供者申込ト同時若クハ未着ノ間ハ取消スヲ得ヘシボ

アソナードハ受諾者一旦發シタル受諾ハ之ヲ取消スヲ得ズトシ
タレバ此束縛ハ双方互角フモノナリ要スルニ此點ハ受諾カ何時
成立スルカヲ示シタルナリ(鶴田)提供ヲ受タル者ハ受諾ノ旨
未タ提供者ニ達セサル前又ハ達スル同時迄ニ取消スコトヲ得ト
シテハ如何(委員長)先鶴田委員ノ修正説ヲ取り他日ボアソナ
ードヨリ商法ニ付キ回答アル前此可否ヲ決スベシ(今村)先日
ノ雨水溜ト云フハボアソナードノ意ニテハ淨水溜ニシテ雨水ニ
アラズト(榮塚)三項ハ幾箇ノ代價物ヲ買取スベキニ付キ何日
間ノ後ニ於テ取引スト云ヘバ何日間ノ期限ハ之ヲ守ラサルヘカ
ラズ(松岡)代價ヲ守ルノ義務トハ如何(榮塚)ロヘスレール
ノ意見ハ代價ヲ變スルコトヲ得サルコトナリ

第三十三條 當事者ガ錯誤ニ因リ同一ノ合意ヲ爲スノ意ナリ又ハ
同一ノ目的若クハ同一ノ原由ニ着服セサリシトキハ承諾ナシ

民草二ノ一一

合意ノ緣由ニ付テノ錯誤ハ其レノミニテハ決シテ無効ノ原由タラ
ス但當事者ノ一方ノ行ヒタル詭論ニ付キ定ムル所ノモノハ此限ニ
在ラス

共同契約者ノ人ニ付テノ錯誤ハ恩惠ノ契約ニ於ケル如ク人ニ付テ
ノ着目カ決意ノ原由タリシトキハ合意ノ絕對ノ無効ヲ惹起ス(第
千百十條第二項)

債務者ノ無資力ノ危險又ハ物ヲ保存スルノ義務ヲ惹起スル有價名
義ノ契約ニ於ケル如ク人ニ付テノ着目カ合意ノ附隨ノ原由ノミナ
ルトキハ合意ハ人ニ付テノ錯誤ノ爲メ單ニ取消スコトヲ得ヘキモ
ノタリ(同上)

(榮塚)一項ハ買フヘキト借ルヘキト意思相違シタルトキハ同
一ノ合意ニアラス又黒字ヲ得ヘキ目的カ白字ニテアリシトキハ
目的ノ異ルナリ原由ト云フハ目的ト表裏シタルモノニシテ一方

ニ目的トスレバ一方ノ元由トナルベシ又一方ノ原由トナレバ他
 ノ一方ノ目的トナル(委員長)例バ丈ヲ贈付スルハ目的ニシテ
 其手立ハ原因ナラン(南部)目的ハ丈ノ黑白ニアルモ其丈力賣
 者ノ所有ニアラサルトキハ原由ノ目的ノ異ナルモノナリ(委員
 長)承諾ナシト云フハ「ナシ」トシテモ不可ナキカ(松岡)「ナ
 キモノトス」トセバ可ナリ可決ス(栗塚)二項緣由トハ家屋賣
 買力願望ノ爲ノトカ云フカ如キハ緣由ナリ(清岡)緣由ハ緣因
 トシテハ如何(松岡)遠因トシテハ如何(栗塚)原語ハモチ
 ブナルヲ以テ緣由ニ外ナラズ三項ハ共同事業ハ某人ニ限り共同
 ナ希望シタルトカ或ハ某人ニ書書ヲ依頼スルトカハ恰モ恩惠契
 約ノ如ク誰レト限リシニ其決意ニ錯誤アリタルトキハ合意ハ無
 効ナリ絶對ハ對等ト相對シ無双ノ意ニシテ一般ニ向テ成立セス
 對等トハ其人ニ限り無効ナリト云フ意ナリ(松岡)共同ノ字仲

民草二ノ一二

間ノ如キ意アルヲ以テ圖ルベシ可決ス(委員長)共同ヲ圖レハ
 相互トシテハ如何(栗塚)其錯誤ハ人ノ上ニ付テノ間違ナリ衆
 中ニ付テ誰某ハ財產家ト思ヒシニ異レリト云フ意ニアラス四項
 ハ有價契約ナレバ對手人誰ニテモ差圖ヘナカルヘキモノナルニ
 否ラズ例ヘハ某人ヨリ借家ノ來談アリシヲ以テ之ヲ諾シタルニ
 住家者ハ其人ニアラズシテ外人ナルトキハ其危險ヲ慮シ又保續
 上ノ損害タランコトヲ危ミ之ヲ借サ、ルベシ即チ貸家ノ合意ニ
 附隨ノ原由タル人違ヒナルトキハ單ニ之ヲ取消シ得ベシ是對等
 ノ無効ナリ

第三百三十一條 物ニ付テノ錯誤カ當事者ノ其物ニ存在スト借セシ
 主タル品質ニシテ且其物ヲ要約若クハ諾約スルコト又ハ得取若ク
 ハ移付スルコトニ付キ當事者ヲ決意セシムルニ助成シタルモノ、
 一箇又ハ數箇ニ存スルトキハ錯誤ハ單ニ承諾ニ瑕疵ヲ付ス

物ノ原質タル品質ハ反對ノ證アルマテ當事者ノ意思ニ於テ主タル品質ト看做シタルモノト推定セラル

右ニ反シテ物ノ原質タラサル品質ハ主タル品質ト看做サレヌ但當事者ノ意思カ此事ニ付キ明示セラレ又ハ明カニ情況ヨリ見ハル、トキハ此限ニ在ラス

時代、出處又ハ用方ノ如キ物ノ無形ナル即チ原理學上ノ品質ニ付テモ亦同シ

算數、名稱、日附又ハ場所ノ錯誤ハ第五百八十二條ニ之ヲ規定ス
 (栗塚)本條ハ報告委員ニテ文字ヲ修正セシモ其修正ハ採用セラレサルヲ望ム凡テ反譯ノ方ニ於テハ最初ノ反例トハ異ニシテ追々直譯体ニナリタル商法ノ如キハ最モ多シトス之ヲ報告委員ニテ修正シタルハ文ヲ明了ニスルトカ成ハ難シク變クルトカ云フニ過キス元來報告委員中ニテ修正スベキ所ハ當初反譯上ニテ

圓滑ニ反譯スルヲ得ルモノナレハ反譯ノ際之ヲ訂正スルコトニスヘシ又曰一項ハ目的物ハ異ナラズ例セバ其馬定アラヒヤ種ト思考シ購買シタルニ其馬アラビヤニアラズ一個加フルニ猶ホ牛蹄點モ相違シタルトキハ即チ數箇ノ錯誤タリ(委員長)契約ト諾約トハ何ノ差アルカ(栗塚)負ハシメントスルハ要約買ハントスルハ諾約ナリ(鶴田)主タル原質トハ何カ(栗塚)例ハ金煙管ヲ求メタシト云フトキハ金カ主タル原質ナク又金銀何レニテモ彫刻アル煙管ヲ求メタシト云ヘハソハ原質ニアラサルモ刻物カ主タル品質トナル(鶴田)反對ノ證アルマテトハ何フ(今村)三項ノ如キ原質ニアラサルモノヲ目的トシタルトキハ反對證ナク(松岡)如此錯誤カ契約ノ瑕疵タルニ過キサルカ(栗塚)然リ如此ハ絕對ノ無効タリト云フベカラズ(委員長)二項ノ物ノ主タル品質ハ云ハストモ知ルベキニアラズヤ(今村)此ノ明

記ナクンバ主タル品質ヲ定ムルニ苦ム（松岡）原質ト目的ノ差
 ハ如何（栗塚）例ハ金ノ縁頭ト云フハ縁頭カ目的ニシテ金ト云
 ヒ銀ト云フハ原質ナリ（鶴田）此點ハ主タル品質ハ原質ト否ト
 ニ拘ハラサルヲ示シタリ（委員長）四項ノ思想上トアル修正ハ
 尙ホ反譯屬ニモ協議スベシ本條ハ報告委員修正ニテ「推定セラ
 ル」ヲ「推定ス」ト「看做サレス」ヲ「看做サス」ト「原理學
 上」ヲ「思想上」ト修正ス

第三百三十二條 法律ノ錯誤ハ或ハ合意ノ本性其適法ノ効力又ハ其
 原由ニ存スルトキ或ハ物又ハ人ノ適用ノ品質若クハ分限ニ存シテ
 其品質若クハ分限カ全部又ハ一分ニ付キ決意ヲ爲サシノシモノタ
 ルトキハ其法律ノ錯誤ハ事實上ノ錯誤ノ如ク承諾ヲ排除シ又ハ之
 ニ瑕疵ヲ付ス

然レトモ裁判所ハ樂リ謹慎シ且情況ニ隨ヒ錯誤ヲ宥恕スルコトヲ

得ヘキトキニアラサレハ法律ノ錯誤ノ爲ノ合意ノ無効ヲ認許スル
 コトヲ得ス

法律ノ錯誤ハ實則ニ對シ、時期ヨリ生スル適法ノ失權ニ對シ又ハ
 證書ニ付キ定ノタル方式ノ違背ヨリ生スル無効ニ對シテモ又一般
 ニ公ノ秩序ニ係ル法律又ハ規則ノ條例ノ不知ニ關スルトキニ於テ
 モ決シテ當事者ヲ覆越セシムル爲ノニ認許セラレス

本條ハ報告委員ニテ一項法律ノ錯誤ハテカト改ム或ハ物ノ下又
 ハ人ノ三字ヲ削リ品質ノ下若クハノ三字ヲ又ハトレ其又ハノ下
 ヘ「人ノ適法ノ」五字ヲ加入ス末項認許セラレヌヲ認許セスト
 修正ス（栗塚）合意ノ本性ノ錯誤ハ使用貸借ナリト思惟シタル
 モノ質貸借ナル場合ノ如キナリ適法ノ効力ト云フハ賣者ハ其賣
 物ニ擔保スル如キヲ云フ原由ニ存スルトハ義務ノ更改ニ依リ賣
 金ヲ證書ニ更改セントスル際其物ハ已ニ義務相殺ヲ以テ済了

ニ屬シタル如キモノナリ物ノ適法ノ品質ノ錯誤ハ公有物ノ賣ルヘカラサルモノヲ賣ルカ如キモノナリ人ノ適法ノ分限ハ能力アル人間ノ如キ是ナリ(松岡)公有物ノ賣買ハ元來不成立ノモノナルニ之ヲ瑕疵ノミトスルハ如何(福田)本條ハ末項ヲ初項ニ換置スヘシ初項及ヒ二項ハ其論點ヲ示シタルニ過キス(清岡)事實上ノ錯誤ハ元ト之ヲ許ストシ法律上ノ錯誤モ此場合ニハ之ヲ許スト云フ譯ナリ(委員長)法律ノ錯誤ハノ下或ハ本性ノ下ニ轉置シテハ如何(栗塚)其ト云フ字ヲ以テ合意ヲ受タルヲ以テナリ(委員長)其品質若クハ分限カチノトシテハ如何(栗塚)全部又ハ一分ハ合意ノ全部若クハ一分ナルヲ以テナリ(委員長)謹慎ハ如何(栗塚)無妄ナル意ナリ(委員長)率口注意シトスルヲ可ナリトスベキモ文字上ノ議論ナルヲ以テ反譯局ニ附ス(栗塚)注意ト改メタシト即チ修正ス(松岡)三項條例ノ

字ヲ刪リタシ成立セズ

第三百三十三條 誑誑ハ承諾ヲ排除セス又ハ之ニ瑕疵ヲ付セス但其誑誑力前三條ニ記載セル如ク特立シテ承諾ヲ排除シ又ハ之ニ瑕疵ヲ付スルノ効力アル錯誤ノ一ヲ惹起シタルトキハ此限ニ在ラス其他ノ場合ニ於テハ誑誑ハ之ヲ行ヒタル者ニ對スル損害賠償ノ訴權ノミヲ生スルコトヲ得然レトモ若シ誑誑ヲ行フ者カ一方ノ契約者其者ニシテ且詐術カ若シ其詐術ナクハ欺カレタル他ノ一方ノ者ニ於テ契約セサルヘカリシ程ノモノタルトキハ其欺カレタル者ハ補償ノ名義ニテ合意ノ取消ヲ得又損害アルトキハ其賠償ヲモ得ルコトヲ得此場合ニ於テ合意ノ取消ハ善意ナル第三者ヲ害スルコトヲ得ス(第一千百十六條第一項)

報告委員ニテ誑誑ヲ行フ者トアルヲ本人ト改メ「取消ヲ得」ヲ

求ノトシ「得ル」ヲ得テ求ムルヲ得トス（栗塚）二項ノ得ルコトヲ得ハ報告委員ニテ求ムルコトヲ得ルトシテ差障ナシト云フニ付キ修正シタリ又曰其他ノ場合トハ排除セズ瑕疵ヲ付セスノ外ヲ指ス（鶴田）補償名義ニテトハ如何（村田）人權ヲ以テ取消スト云フコトナリ（栗塚）補償名義ヲ以テト云フハ第三者ニハ及ブベカラズ對人權ヲ以テスルノ意ナリ（清岡）譲渡ノ本人カ一方ノ契約者其者ニシテトアルハ晦暗ナルニアラスヤ

第三百三十四條 強暴ハ當事者ノ一人ノ合意ニ付テノ同意力其者ノ抗抵スルコトヲ得サリシ暴行ニ因テ迫取セラレタルトキハ承諾ヲ排除ス

人ニ熱慮スル繼テノ能力ヲ失ハシムル抗抵スルコトヲ得サル力ニ出テタル危難ト雖モ一個ノ急迫ナル危難ヲ避ル爲ノ其人カ過度若クハ無慮ナル約務ヲ契約シ又ハ無分別ナル移付ヲ爲シタルトキ

モ亦同シ

暴行、脅迫又ハ危害ノ抗抵ス可カラサルニアラスト雖モ或ハ當事者ノ身體又ハ其財産ノ爲ノ或ハ他人ノ身體又ハ其財産ノ爲ノ即時若クハ切迫ナル一層重大ノ害ヲ避ル爲ノ當事者ヲシテ契約スルコトニ決意セシノタルトキハ強暴ハ承諾ノ瑕疵タルノミ（第一千百十二條）

（栗塚）二項反譯上抗抵スルコトヲ得サルヲ不可抗力トシ報告委員ニテ一個ノ二字ヲ刪リ又三項ノ危害ヲ危難ト修正ス（鶴田）二項ノ不可抗力ニ出テタル危難ト雖モトハ如何（栗塚）強暴ニアラサル場合ト雖モト云フ意ナリ（鶴田）三項ハ強暴脅又ハ危難ノ外ヲ云フ乎（栗塚）此點ハ取テ格闘セス契約シタルトキヲ云フ（委員長）一項合意ニ付テノ同意トアルハ日本文ニテハ讀難キニアラズ先此條ニ附ス

第三百三十五條 強暴又ハ脅迫ニ因リ身體又ハ財産ヲ危害ニ付セラレタル第三者カ契約者ノ配偶者、其直系ノ親屬又ハ姻屬ナルトキハ強暴ハ常ニ契約者其者ニ加ヘラレタリト看做サル（第一千百十三條）

條）
親屬ナルト姻屬ナルト又ハ外人ナルトヲ問ハス其他ノ人ニ付テハ裁判所ハ此等ノ者ニ對シテ爲サレタル脅迫カ契約者ノ承諾上ニ及ホシタル影響ヲ其情況ニ隨ヒテ査定ス（伊民第千百十三條）

原案通

第三百三十六條 強暴ハ上ニ爲シタル區別ニ從ヒ承諾ヲ排除シ又ハ之ニ瑕疵ヲ付ス但其強暴力他ノ一方ノ所爲ニ出ツルト又ハ通謀ナキモ第三者ノ所爲ニ出ツルトヲ區別スルコトヲ要セス（第一千百十一條）

異議ナシ

第三百三十七條 強暴ヲ受ケタル一方ノ者カ契約ノ無効ヲ得ルコトヲ得ル場合ニ於テ其者ハ強暴ヲ行ヒタル者ニ對シ損害賠償ノミヲ請求シテ其契約ヲ維持スルコトヲモ得

強暴力合意ヲ決定セシメタルニアラスシテ不利ノ條件ヲ受諾セシメタルノミナルトキハ其合意ハ維持セラル但賠償ヲ求ムルコトヲ妨ケス

本條ハ報告委員ニテ契約ノ無効ヲ得ルコト云々ヲ契約ヲ無効ト爲スヲ得云々トス又末項維持セラルチ無効トナラスト修正ス（果）
（一）二項ハ不利益ノ契約ヲ爲シタルトキハ其合意ハ無効トラス
惟賠償ヲ求ムルヲ得ベシ（鶴田）馬ニ金幣ヲ含マシメタルトキ
其金幣ヲ希望ニシテ其馬ヲ買ハント契約シ金幣ヲ附スベシト強
令シタルトキ賣者ハ其馬ヲ賣ルト共ニ金幣ヲ附スルトキハ賣者
ノ損害ナルヲ以テ賠償ヲ求ムベシト云フ譯ナラズヤ（松岡）家

屋ヲ賣ルヲ契約セシ二三日ノ後ニアラザレバ此家ヲ引渡スヲ得
ズ然ルニ買者強テ直チニ之ヲ引渡サシムルトキハ賣者ハ大ニ損
害ヲ被ルモノナリ即チ其合意ハ無効トナラズシテ損害ハ賠償セ
ラル、ヲ得ヘシ

第三百三十八條 強暴ノ態テノ場合ニ於テ裁判所ハ人ノ年齢、體性、
身體並ニ精神ノ形狀及ヒ互相ノ身分ヲ斟酌スベシ(第千百十二條)
然レトモ卑屬親ノ尊屬親ニ對シ及ヒ婦ノ夫ニ對スル尊敬ノ畏懼ノ
ミニテハ合意ヲ取消サシムルニ足ラス(第千百十四條)

(編田) 尊敬ノ畏懼ハ其德ニ服スル點ヨリ云フモノニシテ親又
ハ夫ト雖トモ強暴ヲ用ヒシトキニ此條ニ當ラス(清岡) 體性身
體トハ如何(栗塚) 體性トハ男女ト云フカ如シ身軀トハ身軀ノ
強弱ヲ云フ

第三百三十九條 錯誤、強暴、誑誘、損失及ヒ無能力ハ推定セラレ

民事二ノ一八

ス之ヲ援唱スル者ニ因テ廢セララル、コトヲ要ス(第千百十六條第
二項)

當事者雙方ニ關スル無効ノ方法ハ互ノ非理ニ基ツクトキト雖モ互
ニ消滅セス但損害アルトキハ其賠償ノ相殺ヲ妨ケス

(栗塚) 本條ハ反譚上ニテ損失ハ折損ト修正シ消滅ハ毀滅ト修
正ス報告委員ニテ無能力ノ下ヘ之ヲノ二字ヲ加ヘ推定セラレス
ヲ推定セストシ「之ヲ援唱」ト云フ上ニ即チヲ加ヘ援唱スル者
ニ因テトアルヲ者ヨリトシ廢セララル、ヲ證スルコトト修正ス(鶴
田) 二項ノ意ハ如何(栗塚) 互ニ無能力者ナルトキヲ互ノ非理
ト云ヒ毀滅セスハ互ニ無効トナルヲ以テ互ニ取消スヲ得ベシ(鶴
田) 互ニノ下ヘ之ヲノ二字ヲ挿入スルヲ可トス(栗塚) 互ニ之
ヲ申立ツルコトヲ得トシテハ如何(南部) 如是シテハ爲スモ爲
サ、ルモ自由トナル故不都合ナリ(栗塚) 相殺トシテハ如何(鶴

田) 或減ヨリハ相殺ヲ可トス(南部) 相殺トスルモ妥當ナラズ
(清岡) 無効トナスノ方法トシテハ如何結局此儘ニ附ス

第三百四十條 前數條ニ定メタル場合ニ於ケル無効ノ斷權ハ無能力
者又承諾ニ瑕疵アル者ノミニ屬ス(第千二百二十五條第二項)

然レトモ處刑言渡ヨリ生スル無能力ハ處刑言渡ヲ受ケタル者ト約
定シタル者ヨリ推唱セラル、コトヲ得(伊民第千百七條)

報告委員ニテ然レトモ處刑トアル下ヘノ、字ヲ加フ無能力ハノ
下處刑ノ二字ヲ刪リ其ノ字ヲ加フ「者ヨリ」ノ下ヘ之ヲ加ヘ按
唱セラル、チスルト修正ス(栗塚) 馬ヲ賣買セント云フトキ應
テ付與シタルトキハ契約成立セサルニ付キ何レヨリモ無効トス
ルヲ得ルモ若シ合意アリタルトキハ被害者ヨリ取消スベシ又此
無効ハ絶對力對等カト云ヘバ對等ノ無効チ云ヘリ(南部) 單ニ
無効ト云ヘバ取消ノコトナリ(委員長) 無効ノ中ニハ瑕疵モ包

含セルカ(栗塚) 然リ(委員長) 排除ハ絶對力(栗塚) 然リ(
委員長) 對等ハ何々ノ場合カ(栗塚) 取消ノトキ即チ瑕疵無能
力折損ノ三者ニ關ス特ニ受刑ノ無能力者ニ關シテハ相手方ヨリ
無効ヲ主張スベシ

第三百四十一條 若シ取消スコトヲ得ヘキ合意カ第三章第七節ニ定
メタル期間ニ於テ攻撃セラレサルトキハ默示ニテ認定セラレタリ
ト看做サル

其他默示ノ認定ノ場合及ヒ明示ノ認定ノ方式ハ右同節ニ之ヲ規定
ス(第千二百十五條)

本條ハ報告委員ニテ合意カテ合意ヲトシ攻撃セラレサルヲ攻撃
セサルト修正ス即チ可決ス

第三百四十二條 合意ハ未來ノ物ニシテ且成立ノ不的確ナルモノヲ
目的トスルコトヲ得此場合ニ於テ諾約者ハ其約束ノ實施ヲ妨ケ又

ハ制限スル何等ノ事ヲモ爲サ、ルコトヲ要ス

又諾約者ハ其實施ニ便スルコトヲ得ヘキ何等ノ事ヲモ放却シ又ハ
懈怠セサルコトヲ要ス

然レトモ開始セサル相續ニ付テノ權利ヲ與ヘ又ハ棄フノ合意ハ相
續セラル、者ノ承諾アリト雖モ決シテ之ヲ爲スコトヲ得ス但法律
ヲ以テ明確ニ取除キタル場合ハ此限ニ在ラス(第一千三百三十條)

(果塚)實施ニ便ニスルトハ其實施ヲ容易ニスルヲ云フ(清岡)
法律ヲ以テ取除ク場合トハ如何(果塚)假令ハ我子ニ財產ヲ分
配スル如キ財產ニ付キ其部分ノミ早ク贈遺スベキヲ云フ(清
岡)相續セラル、モノハ父ヲ指ス如クナルモ日本ノ習慣ニテハ
セラル、ト云ヘバ子ニ屬セサルベカラス(果塚)此字ハ被相續
人即チ相續ヲ與ヘル人ヲ云フ(清岡)相續セラル、ト云フニテ
ハ通スヘカラス(果塚)然ラハ相續ヲ與フル者トカ讓レモノト

カシテハ如何(南部)此點ハ人事篇ヲ讀スルニ至ルマテ假リニ
相續ヲ與フルモノトスヘシ可決ス(清岡)父承諾スルモ子ハ父
ノ死後ニ付キ約束スルヲ得サルカ(果塚)然リ(清岡)父自分
ノ死後ニ於テ其子ニ讓付セサルヲ以テ之ヲ他人ニ讓付スベシト
シテ契約スルヲ得ルカ(委員長)如是ハ相續篇ニ於テ議定スベ
シ

第三百四十三條 合意カ不法又ハ不能ノ所爲又ハ封止ヲ目的トスル
トキハ其合意ハ無効タリ(第一千七百七十二條)

第三者ノ所爲又ハ封止ノ約束カ合法又ハ可能ナリト雖モ若シ其第
三者ニ對シ諾約者カ威權ヲ有セサルニ於テハ諾約者ニ在テ不能ノ
所爲ノ約束ト看做サル(第一千百十九條)

然レトモ何人ニテモ第三者ノ所爲又ハ封止ニ付キ明示ニテ擔保人
タルコトヲ得此場合ニ於テハ諾約者ハ保證人ノ義務ニ從フ(第一千

百二十條 伊民第千二百二十九條

又何人ニアモ第三者カ自己ノ爲ノ爲サレタル約束ヲ履行セサル場
合ニ對シ過意約款ノ履行ニ從フコトヲ得

若シ諾約者カ第三者ノ名ヲ以テ爲シタル約務ノ確認ヲ得セシムル
コトノミチ約シタルトキハ其第三者ノ確認シタル時ヨリ諾約者ハ
其義務ヲ免カル(同上)

(村田) 三項ノ第三者ノ所爲又ハチ若クハトセサルベカラス(栗
塚) 其所ハ反譯ニ協議スベシ(清岡) 目的トハ封止ノミチ云フ
カ(栗塚) 所爲封止ニ關ス此所ハ不法ノ所爲又ハ封止不能ノ所
爲又ハ封止ト云フ義ニシテ此條ハ第三者ヲ東縛スルヲ得スト云
フ譯ナリ(委員長) 二項ハ如何(栗塚) 後見人ノ如キ減力アル
モノハ之ヲ爲スヲ得ヘシ(委員長) 三項ハ如何(栗塚) 第三者
ノ爲ヲ約スルヲ得サルモ擔保人トナリテ第三者ニ爲サシムベシ

民事二ノ二二

ト云フヲ得若シ爲サ、ルトキハ其擔保人之レカ實ニ當ル即チ一
ノ義務ヲ負ヘバナリ(清岡) 二項ノ場合ハ契約ノ保タルモノナ
リ例ハ甲乙ニ關テ曰ク丙ニ何ノ所爲ヲナサシムベシ若シ之ヲ爲
サ、ルトキハ余其實ヲ任スベシト云フ丙其所爲ヲ乙ニ爲サ、ル
トキハ乙ハ丙ヲ相手取ルヲ得ズ必ラズ甲ノ擔保人ニ係ルベシ其
時ハ從タル契約カ主タル契約ノ無効ヲ補フヲ目的トスルトキ
ニ但シ從タル契約カ主タル契約ノ無効ヲ補フヲ目的トスルトキ
ハ其限ニ在ラズト云フニ當ル(清岡) 過意約款ノ履行ニ從フコ
トヲ得トアル得ノ字ハ不都合ナリ(尾崎) 過意約款ヲ履行スベ
シトスベカラサルカ(栗塚) 過意約款ニ從テ得ト云フハ尙ホ報
告委員ニテ不都合ナキヤ否ヲ調査シタル其議ニ決ス(尾崎) 五
項ハ如何(栗塚) 第三者ニ代リ契約シタルトキ第三者之ヲ追認
シタルトキハ代人ハ其實ヲ免ル(委員長) 此點ハ代理ト云フ程

ニモアラズ仲人ニ立テ爲シタル所爲ニ過キズ（委員長）第三者ノ名ヲ以テト云フハ第三者ノ名ニ於テスベシト可決ス

第三日四十四條 合意ハ要約者カ其合意ニ付キ正當ニシテ且金銭ニ見積ルコトヲ得ヘキ利害ヲ有セサルトキハ原由ナキ爲ノ無効タリ

（第一千百三十一條）

要約カ第三者ノ利益ニ於テ爲サレ且之ニ過意約款ノ伴ハサルトキハ其要約ハ要約者ノ爲ノ金銭ニ見積ルコトヲ得ヘキ利害ナキモノト看做サル（第一千百十九條）

然レトモ他人ノ利害ニ於ケル要約ハ要約者カ自己ノ爲ノ爲シタル要約又ハ諸約者ニ爲シタル贈與ノ從タル條件タルトキハ其要約ハ有効タリ（第一千百二十一條第一項）

右二個ノ場合ニ於テ其從タル條件ノ不執行ハ要約者ニ合意解除ノ訴權又ハ要約セラレタル過意約款ノ踐行ノ訴權ノミヲ與フ

民事二ノ二二

本條ハ報告委員ニテ第二項要約カト云フヲ要約ヲトシ、爲サレテ爲シトシ、看做サルヲ看做ストシ、第四項ノ要約セラレタルヲ要約シタルト修正ス（清岡）金銭ニ見積ルコトヲ得ヘキ云々ト云フハ若シ金銭ニ見積ルコトヲ得サルトキハ如何（栗塚）利害アラサレバ訴權ヲ生セス（清岡）世上ニ金銭ニ見積ルヲ得サルモノナキニアラズ然ルニ之ヲ無効ニ歸スルハ如何（栗塚）利害ヲ有セサレハ合意成立セス其利害ハ正當ナルヲ要シ金銭ニ見積ルヲ得ヘキヲ要スト云フコトナリ（村田）利害ハ不可ナリ須ク利益ナルヘキ管ニアラズヤ（清岡）決シテ金銭ニ見積ルニアラサレバ利害トナラズト云フ譯ニハアラス（尾崎）利害ニ金銭ノ附隨セサルモノナシ（松岡）民事上ノ行爲ハ要スルニ金銭ニ歸セサルモノナシ（清岡）利害ヲ金銭上ニ限ルハ範圍狹少ナルニ失ス（委員長）何カ根據アルニアラザレバボアソナードカ特

ニ明記スル管ナカルベシ（栗塚）人ト約束スルニ利害アラサル
コトハ殆ントナカルヘシ金銀ニ見積ルト云フモ價額ヲ定ルノミ
ニアラズ惟損益ノアルト云フニ止マルナリ（松岡）評價スベキ
トシテハ如何（委員長）此金銀ニ見積ルト云フハ漠然タラサル
根據ヲ示シタルモノナラン（清岡）名譽上ノ如キハ金銀ニ關セ
サルモノナリ假令ハ自己ノ名譽ヲ害センコトヲ恐レ或ル者ニ約
シテ自己ノ履歷ヲ語セサラシム然ルニ或ル者其約束ヲ守ラサル
モ其損害ハ之ヲ金銀ニ見積ルコト能ハズ（渡）之ヲ有價ナルト
シテモ金銀ニ積ルヘキトシテモ異聞同實ナレバ別ニ反譯屬ニ於
テ至當ノ文字アレバ協議ヲ乞フ即チ其議ニ付ス（尾崎）二項ハ
如何（栗塚）假令ハ自分カ貴細君ニダイヤモントチ與ヘント約
ス然シテ自分之ヲ履行セサルトキハ貴細君ハ之ヲ知ラサリシニ
依リ之ヲ斷ルヲ得ス又貴君ハ利益ヲ得ル者ニアラサレバ又之ヲ

斷フルヲ得ス（輔田）三項ハ如何（南部）自己ノ爲ノ爲シタル
要約ノ條件諾約者ニ爲シタル贈與ノ從タル條件ト云フ譯ナリ（清
岡）諾約者ニ爲シタル贈與ノ從タルトハ如何（栗塚）甲丙ニ向
ヒ自己ノ地面ヲ賣ラントス果シテ其地面ヲ賣リシトキハ乙ニ其
地役ヲ與ヘヨト約スルカ如シ其契約ノ如ク丙其地役ヲ乙ニ與ヘ
サレバ甲ハ其約束ヲ解除シ又過意約款アレバ其約款ヲ履行スル
ヲ得ルナリ（委員長）此點ハ從タル條件ノ強大ナルニアラズヤ
第三者ノ利益ノ爲ノニハ契約スルヲ禁シタルヲ以テ末項ニ於テ
其裏面ヲ表出スルニ至ル即チ此ニ至テ從カ主ヲ打碎スルニアラ
スヤ要約者ニ此權ヲ有セシムレバ諾約者ニモ些少ナクトモ權利
ヲ與ヘキニアラズヤ（村田）諾約者ニ權利ヲ與ル場合ナシ（委
員長）右二個トハ要約ト贈與チ指スカ（南部）然リ

利シテ他ノ相續人ヲ害スルコトヲ許ス限度及ヒ條件ニ從ヒ常ニ要約者ノ相續人ノ一人又ハ數人ノ利益ニ於テ爲サル、コトヲ得右ニ均シク主タリ又ハ從タル約束ハ諾約者ノ相續人ノ一人又ハ數人ノ負擔ニ於テ爲サル、コトヲ得（第千二百二十一條第四號）（松岡）此ニテ相續法ニ關及スルハ不都合ナリ（南部）限度ニ從フテ以テ可ナリ服従シテ爲サル、コトヲ得ト云テ之ヲ爲スヲ得トス

第三百四十六條 前二條ニ定メタル場合ニテ他人ノ利害ニ於テ爲サレタル要約ハ得益者ノ之ヲ受諾セサル間ハ要約者ノ利益ニ於テ廢絶セラレ又ハ要約者ヨリ他人ニ轉移セラル、コトヲ得（第千二百二十一條第二項）

本條ハ報告委員ニテ廢絶セラレトアルヲ廢絶シトシ轉移セラル、ヲ轉移スルコトトシ爲サレタルヲ爲シタルトス（村田）乙ノ

民事二ノ二四

物ヲ丙ニ贈ラントス即チ丙其第三者ノ受諾セサル間ハ合意成立セサルニ付ニ廢絶スルヲ得ベシ

第三百四十七條 合意ヲ證明スルニ供シタル證書ニ理由ヲ明示シタルト否トテ問ハス其理由ノ成立セサルコト又ハ其處妄若クハ不法ナルコトヲ證スルハ被告ノ責トス他又若シ理由カ明示セラレザリシトキハ被告ハ債權者カ其合意ノ如何ナル理由ニ基ツキタリト主張スルヤテ陳述スルコトニ付キ之ニ備答スルコトヲ得但其理由ヲ争フコトアルヘキトキハ之ヲ争フコトヲ妨ケス（第千二百三十二條 伊民第千二百二十一條）

本條ハ報告委員ニテ他又ノ二字ヲ刪リ理由カ明示セザレザリシトキトアルヲ理由ヲ明示セザリシトキト修正ス（栗塚）英法ニハ括弧アルモ此法ハ之ヲ置カサルヲ以テ此條ノ如キハ甚煩雜ナリ若シ括弧ヲ附スルヲ得バ實ニ見易キナリ

第三款 合意ノ効力

第一則 合意ノ當事者及ヒ其承継人ニ對スル効力

第三百四十八條 適法ニ成リタル合意ハ之ヲ爲シタル者ニ對シ法律ニ代ル

其合意ハ當事者ノ交互ノ承諾アルニアラサレハ廢止セラル、コトヲ得ス但法律カ一方ノ意ヲ以テスル廢止ノ訴ヲナス場合ハ此限ニ在ラス(第千三百三十四條第一項及ヒ第二項)

本條ハ報告委員ニテ廢止セラル、トアルチ之ヲ廢止スルコトヲト修正ス(清國)法律ニ等シトアリ(栗塚)原告ノ註ニ合意ハ當事者及方ノ間ニハ法律トナルトアリ是ニ原告通ニ決ス

第三百四十九條 何人ニテモ特別ノ合意ヲ以テ普通法ニ外ツレ又ハ其効力ヲ増減スルコトヲ得但公ノ秩序ニモ又善良ナル風俗ニモ觸レサルコトヲ要ス(第六條第千三百八十七條)

民事二ノ二五

(清國)普通法ニ成定シタルモノヲ概シテ其法律ヲ外ツレテモ可ナリト云フハ何ノ意ソヤ(南部)但書ニ反セサル以上ハ之ヲ爲スヲ得ルモノナリ(清國)秩序ニ觸レルト云フハ範圍廣過キルニアラスヤ(栗塚)秩序ニ觸ル、ト云フ法ハ特示アルニ付キ此特記ニ反セサレバ爲スヲ得ベシ(清國)此點ハ佛法ノ如クセバ別ニ異論ナカルベシ(委員長)普通法トセサレバ外ノ法モ入ル故不都合ナリ原告ニ決ス

第三百五十條 合意ハ當事者カ明示シタル効力及ヒ其默示ノ意思ニ包含セラレタル効力ノミナラス尙ホ公義、慣習又ハ法律カ合意ノ本性ニ關ヒ之ニ附屬セシメタル効力ヲモ生ス(第千三百三十五條第千六百十條)

合意ハ善意ヲ以テ執行セラル、コトヲ要ス(第千三百三十四條第三項)

本條ハ報告委員ニテ當事者カトアルチ當事者ノトシ包含セラレタルヲ包含シトシ執行セラル、コトト云フチ執行スルコトト修正ス（栗塚）公議トハ公道ト云カ如シ

第三百五十一條 動産ト不動産トチ間ハス各箇ニ定マリタル物即チ特定物ヲ有償又ハ無償ノ名義ニテ與フルノ合意ハ即時ニ且引渡ニ關セス要約者ニ所有權ヲ轉移ス但合意ニ耐關スルコトアルヘキ停止ノ未必條件ニ付キ下ニ定ムヘキモノヲ訪ケス（第千五百三十八條 第千五百八十三條）

本條ハ報告委員ニテ即時ニ且ノ四字ヲ刪リ引渡ニ關セスノ下ヘ即時ノ二字ヲ入ル（栗塚）所有權轉移ハ特定物ナレバ引渡シニ關セス合意ノ即時ニ成立ツチ云フ

第三百五十二條 代補物又ハ數量尺度ヲ以テ見稱リタル物ヲ與フルノ合意ハ諸約者ヲシテ其約束シタル物ヲ合意セラレタル本性品質

及ヒ分量ニテ其物ノ所有權ヲ要約者ニ轉移スルノ義務ヲ負ハシム此物合ニ於テ所有權ハ引渡ニ因リ又ハ當事者立會ノ上爲シタル指定ニ因リ轉移ス（第千五百八十五條）

本條ハ報告委員ニテ其約束シタル物云々トアルチ其約束シタル物ノ所有權ヲ合意シタルト修正ス且ツ其物ノ所有權ヲノ數字ヲ刪ル（委員長）代補物トナレバ何種類ナルモ引渡シテ要スルカ（栗塚）然リ代補物ハ人權ヲ生スルノミ（委員長）數量尺度ヲ以テスルモノハ現物ヲ要スルカ（栗塚）又ハトアルハ即チトセザルヘカラス代補物ハ即チ數量尺度ヲ以テスルモノナリ（村田）代補物ト數量物トハ決シテ同物ニアラス（南部）代補物ニアラサル量定物ハ如何（栗塚）此點ハ代補物即チト云フ意ナリ依テ又ハノ字ハ反譯上ノ修正トスベシ（松岡）松林ノ辭ヲ賣ラント云フ其松ハ何レノ山ニモアルチ以テ代補物トナルベシ代補物ハ

己ニ存在スルモ其中何貫目ヲ買ハント約スレバ數量トナルベシ
（南部）本條ハ量定物ト云ヘバ明了ナルベシ（清岡）見積リタル物ヲ與フルトアルハ見積ルベキモノヲ與フルトセサルヘカラズ（松岡）代補物中數量尺度ヲ以テスル場合ハ其見積リタル物ヲ與フル譯ナリ（清岡）見積ルヲ定ムトスレバ可ナリ（松岡）代補物ナレバ定ムト云フモ可ナルヘキモ數量物ハ見積リタル物トナルベシ

第三百五十三條 前二條ノ場合ニ於テハ與ヘラレ又ハ約束セラレタル物カ合意セラレタル時日及ヒ場所ニ於テ諾約者ノ注意及ヒ費用ニテ引渡サル、コトヲ要ス（第一千三百三十六條）
引渡ノ費用ハ要約者ノ負擔トス（第一千六百八條）
證書ノ費用ハ若シ所爲カ有價ナルトキハ當事者雙方ノ負擔トシ又所爲カ無價ナルトキハ利益者ノ負擔トス（第一千五百九十三條）

民事二ノ二七

不動産ノ引渡ハ證書ノ交付及ヒ場所ノ明渡ニ因テ爲サル但簡短ノ引渡及ヒ占有ノ代辨ニ付キ第七百三條ニ記載シタルモノヲ訪ケス（第一千六百五條）
債權ノ引渡ハ證書ノ交付ニ因テ爲サル（第一千六百八十九條）
若シ引渡ニ付キ何等ノ期限ヲモ定メサリシトキハ引渡ハ即時ニ要求セラル、コトヲ得
若シ引渡ノ場所ヲ定メサリシトキハ確定物ニ關シテハ合意ノ時其物ノ在リシ場所ニ於テ爲サレ又代補物ニ關シテハ其物ノ指定ヲ爲シタル場所ニ於テ爲サレ其他ノ場合ニ於テハ債務者ノ住所ニ於テ爲サル（第一千二百四十七條）

本條ハ報告委員ニテ文字上ノ修正アリ（松岡）取引ハ要約者ノ實ナルカ（栗塚）然リ（鶴田）特定物ト確定トハ異ルカ（南部）例シキナリ（村田）占有ノ代辨ハ如何（栗塚）改設ノ如キナリ

(欄田) 證書ノ費用ハ有償ナルトキハ當事者双方ノ負擔ト云ヘ
バ證書ニ印紙ヲ貼用スルモ双方ノ負擔タルベキト云ハンカ特別
法ニ於テハ賣者ニ貼用セシムルモノトナレリ(南部) 賣者カ貼
用シテ其價ヲ取テ可ナリ(尾崎) 特別法アレバ民法ニ依ルチ得
サルヘシ(村田) 其他ノ場合トハ如何(栗塚) 物ノ所在不明且
ツ指定シタル場所ナキ時ノ如シ

第三百五十四條 諾約者ハ特定物ノ引渡マテ善良ナル管理者ノ注意
ヲ以テ其物ヲ保存スヘシ懈怠又ハ惡意ノ場合ニ於テハ其損害賠償
ノ責ニ任ス(第千百三十六條、第千百三十七條)

然レトモ無償ノ移付ニ關シテハ諾約者ハ其物ノ看守ニ付キ自己ニ
屬スル物ニ加フルト同一ナル注意ヲ加フルノ責ニ任スルノミ
其他債務者カ右同一ノ注意ノミヲ負擔スル場合ハ前項ニ掲ケタル
例外ヲ許ス契約ノ事項ニ付キ之ヲ規定ス(第千百三十六條、第千

百三十七條

(委員長) 前項ニ掲ケタル例外トハ何ソ(南部) 此例外ト云フ
ハ即チ前項ヲ云フ前項ハ例外ヲ許ス場合ニ於テスベシ(村田)
前項ハ前二項共ニ之ヲ指スカ(栗塚) 否チ前二項ノミチ云
フ(委員長) 負擔スル他ノ場合ハ其例外ヲ許ストスベシ(栗塚)
債務者カ右ト同一ノ注意ノミチヲ負擔スル他ノ場合ハ其例外ヲ許
ス云ルトスベシ可決ス

第三百五十五條 與フルノ合意ノ目的タル物カ各個ニ定メラレタル
總テノ場合ニ於テハ意外ノ事又ハ抗拒スルコトヲ得サルカニ出タ
ル滅失又ハ損壞ハ要約者ノ損ニ歸ス但諾約者カ危險ヲ負擔シタル
場合及ヒ停止ノ未必條件ニ付キ記載シタルモノハ此限ニ在ラス
右ニ均シク物ノ總テノ増加ハ要約者ノ益ニ歸ス

然レトモ若シ諾約者カ物ヲ引渡スノ遲滞ニ在リ且物カ引渡サレタ

リシ場合ニ於テハ必ス滅失セサルヘク又ハ毀損ヲ受ケサルヘカリ
シトキハ其損失ハ諸約者ノ負擔ニ歸ス（第千百三十八條、第千百
四十八條、第千三百二條）

本條報告委員ニテ第一項ニ修正シ與フル合意ノ目的カ特定物ナ
ル總テノ場合ニ於テハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ出タル滅失又ハ
損壞ハ諸約者カ危險ヲ負擔シタル時及ヒ停止ノ未必條件ニ付キ
記載シタルモノヲ除クノ外要約者ノ損ニ歸ス右ニ均シク物ノ總
テノ増加ハ要約者ノ益ニ歸ストス第二項ハ引渡サレタリシノタ
リヲ關ル（松岡）此條ハ諸約者カ危險ヲ負擔シタルトキ及ヒ未
必條件ヲ除クノ外皆要約者ノ負擔ニ屬スルヲ云フナラン（南
部）然リ（栗塚）物カ各個ニ定メテラレタルトハ特定物ノコトナ
リ（村田）右ニ均シクハ又ト云フカ如キモノナリ（栗塚）引渡
スノ遲滞ニ在リトハ催告シタル後ヲ云フ（松岡）如是債務者ヲ

保護スルハ佛國ノ特法ニシテ大陸諸國ノ法ニアラズ

第三百五十六條 諸約者又ハ其他總テノ債務者ハ或ハ定期到來ノ後
ニ爲シタル裁判所エノ請求又ハ善良ニシテ合式ナル催告書若クハ
要決書ニ因リ或ハ法律又ハ合意ヲ以テ明カニ定メアルトキハ定期
ノ到來ノミニ因リ或ハ諸約者カ期滿後ノ履行ハ最早要約者ニ有益
ナルヲ得サルコトヲ知リテ其期滿ヲ經過セシメタルノ所爲ニ因リ
遲滞ニ付セラル（第千百三十九條、第千百四十五條、第千百四十
六條）

報告委員ニテ遲滞ニ付セラルトアルヲ遲滞ニ付ストス（清岡）
善良ニシテ合式ト云フハ宜シカラズ（村田）善良ナルノ四字ハ
關ルベシ（委員長）重ルハ宜シカラサルモ別ニ害モナキコト故
起案者カ合式ニテモ不善良ナレバ之ヲ許サ、ル意思ナレバ關ル
ベカラズ（栗塚）此點ハ當然適合ナルノ意ナルカ尙ホ反譯局ニ

協議スベシ（松岡）引渡月日ヲ極メナガラ之ヲ受取人ニ渡スヲ
得サルトキ其際他出ノ爲メ類焼シタルトキハ如何（栗塚）要約
者ノ損ナリ何トナレバ所有權移轉シタルヲ以テナリ然ルニ催告
シタルニ之ヲ引渡サ、ルトキハ要約者ノ損ニアラス（松岡）書
面ヲ送ラサルモ申入ニテハ不都合カ（南部）他日證據立スルニ
困難ナルヲ以テ書面ナラサルヘカラス（松岡）明カニ定アルト
ハ催告書ハ送ラズシテ通滞ニ付スルコトトスルナラン（南部）
然リ（松岡）此ノ定規ハ日本ノ習慣ニハ背馳セリ（栗塚）松岡
委員ノ説ハ催告ハ爲サ、ルモ期限ヲ過キタトキハ之ヲ通滞ニ付
スヘシト云フ意カ（松岡）然リ日本ノ習慣ハ期限ハ催告スルノ
効アルニアラスヤ（栗塚）人ハ遺忘ト云フコトモアレバ期限到
來シタルトキハ一應催告スルハ宜シキニアラスヤ（南部）權利
ハ期限到來シ始マルモ頗ル偏理ナリト云フベシ

第三百五十七條 爲シ又ハ爲サ、ルノ義務ヲ持スル合意ノ効力ハ第

四百二條ニ之ヲ規定ス

（松岡）義務ヲ持スルトハ如何（栗塚）有スルト云フカ如シ（鶴
田）爲シ又爲サ、ルノ義務トハ如何（南部）事ヲ爲シ又事ヲ爲
サ、ルノ義務ナリ（栗塚）註ニハ義務ヲ持スルノ字ナシ尙ホ此
點ハ反譯ニ協議シタシ原按ニ決ス

第三百五十八條 合意ハ當事者ノ相續人及ヒ其他ノ一般ノ承繼人ヲ
利シ又ハ之ヲ害ス但法律又ハ合意ヲ以テ格別ニ定メタル場合ハ此
議ニ在ラス（第千百二十二條）

（委員長）法律又ハ合意ヲ以テト云フハ如何仰モ但以下ハ不用
ニアラスヤ何トナレバ合意ノ利害ハ相續人ニ傳ハルヘキモノナ
レハナリ（南部）例ハ貸主ニモ利害アリ借主ニモ利害アリト云
ヘバ但書ハ此特別ニ屬スルモノナルコト知ルベシ前段ハ自然ニ

利害ノ存スルヲ云ヒ後段ハ其特別ヲ示シタリ

第三百五十九條 債權者ハ自己ノ債權者ニ關スル權利ヲ主張シ及ヒ物權ト人權トヲ問ハス其訴權ヲ行フコトヲ得

債權者ハ此事ニ付テハ或ハ差押ノ方法ニ依リ或ハ自己ノ債務者ヨリ又ハ自己ノ債務者ニ對シテ行ハレタル訴ニ於ケル參加ノ方法ニ依リ或ハ民事訴訟法ニ違ヒ得タル裁判上ノ代位ニ選レル第三者ニ對スル間接ノ訴ニ依リテモ處辨ス

然レトモ債權者ハ自己ノ債務者ニ關スル單純ナル適法ノ權能又ハ專ラ債務者ノ一身ニ留保セラレタル權利ヲ行フコトヲモ又法律又ハ合意ヲ以テ差押フルコトヲ得サルモノト宣言セラレタル財產ヲ差押フルコトヲモ得ス（第一千百六十六條）

（清國）自己ノ債務者ニ關スルノ關ハ關スルニアラスヤ（果塚）否ナ債務者自身ノ權利ヲ云フ（尾崎）裁判上ノ代位トハ如何（果

塚）數債主ヲ代表シテ訴訟スルコトナリ（委員長）差押ノ方法ハ直接ニ債務者ニ關セサルカ（果塚）債務者ニ關スルハ勿論ニシテ此ニハ其點ヲ示シタルニアラズ第三者ニ關スル點ヲ定メタリ（尾崎）第三者ニ關スルトハ如何ナル譯カ（果塚）乙ナル者丙ノ債務者ナリ然ルニ辨濟ヲ果ス能ハサルトキ乙ハ尙ホ甲ニ對スル債權アリシモ此債權ヲ行フタルモ直チニ丙ニ取去ラル、チ以テ乙カ甲ニ對シテ其債權ヲ行ハサル際丙直チニ甲ニ對シテ直接ニ其債權ヲ行フコトヲ得ルモノナリ（尾崎）丙ト甲トハ不知ノ人ナルニ何故ニ直接ニ債權執行スルヲ得ヘキヤ（果塚）此ハ法律ニ於テ規定スルモノナルヲ以テ不都合ナシ凡ソ債務者ノ身代ヲ知ラスシテ貸金スルモノニアラサレバ差押ノ方法ヲ以テ執行スルヲ得又自己ノ債務者ニ對シ他債主アリ訴ノ起リシトキハ自己モ債權アルヲ以テ其訴ニ參加シ依テ以テ代位スルヲ得ベシ

(委員長) 一項ノ債權者ハ債務者ノ物權ト人權トヲ問ハス云々
スルヲ得ヘキ譯ナルモ債務者ニ屬スル權利ヲ主張シト云フト權
利及ヒ物權人權ト二種アルカ如シ(栗塚) 此所ハ債務者ノ財產
ニ付キ物權ト人權トヲ問ハズ云々スルノ意ナリ(渡) 債權者ハ
物權ト人權トヲ問ハズ自己ノ債務者ニ屬ス云々トシテハ如何(栗
塚) 其修正ニテハ佛文ヲ成サズト初ノ之ヲ修正シテ債權者ハ物
權ト人權トヲ問ハス自己ノ債務者ニ屬スル權利ヲ主張シ及ヒ其
訴權ヲ行フコトヲ得トセシガ妥當ナリト思惟セラレス(清岡)
此ノ如ク物權ト人權トヲ問ハズ自己ノ債務者ニ屬スル權利ヲ主
張シト云ヘバ權利ハ物權人權ニ限ルヲ以テ末項然レトモ以下ノ
取除カ其薄弱ナルニアラスヤ(南部) 原案ノ債權置キタシ(栗
塚) 物權ト人權トヲ問ハスヲ刪ルベシ(松岡) 負債者ハ財產外
ニ債權者ノ權利ヲ及ホサル、譯ナシ皆財產内ノモノナルベシ依

テ權利ヲ主張シノ文字モ物權人權モ共ニ財產タルヲ免レズ(委
員長) 然リ財產内ノモノタルベシ物權人權ノ外ニ權利ト云フモ
ノアル如クナルトキハ人ノ私權ニ侵入スルニ至ルヲ以テ不可ナ
リ故ニ三項ノ取除アリ(渡) 然ラハ三項ハ不用ナルカ(委員長)
然ラス三項ハ後見人カ幼者ノ財產ヲ管理スルカ如キモノヲ押ユ
ルヲ得サル規定ナレバ肝要ナリ只物權ト人權ノ外ニ權利アル如
ク見ユルカ不都合ナリ遂ニ物權ト人權トヲ問ハスノ數字ヲ刪ル
ニ決ス

第三百六十條 右ノ反對ニテ債權者ハ自己ノ債務者ノ承諾シタル義
務、拋棄及ヒ移付ノ効力ヲ受ク但債權者ノ權利ノ許容ニ於テ爲シ
タル所爲ハ此限ニ在ラス

債務者其所爲ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ自己ノ側方ヲ減シ又
ハ自己ノ受方ヲ増シタルトキハ被害アリトス(第千百六十七條)

報告委員ニテ初項但ノ下へ債務者其ノ四字ヲ挿入ス(栗塚)此
點ハ羅馬ノフレテユースト云フ人ノ發明シタル訴權ナリ前條ハ
債權者ノ所爲ニ付キ示シタルカ此條ハ義務者ノ所爲ニ付キ權利
者ヲ害セサル以上ハ債務者他人ニ義務ヲ負フモ物ヲ拋棄スルモ
或ハ他人ニ移付スルモ權利者ハ之ニ從ヒ不服ヲ云フベカラズ(委
員長)効力ヲ受クト云フハ妥當ナルカ(栗塚)仕方ナク受クル
ノ誤ナリ(委員長)繼承ストハ云ヘサルカ(松岡)債務者ノ所
爲ノ自己ノ處分權ヲ以テスルモノナレバ之ヲ咎ムベカラズ(委
員長)同接ニハ認容ストアリ默受トカ認承トカ云フ字ヲ用ヒタ
シ即チ此點ハ報告委員ノ修正ニ附ス(松岡)前條ハ債務者ノ不
行爲ノトキハ債權者其權ヲ行フベクト云ヒ本條ニハ債務者ノ行
爲ニ付キ咎ムベカラサルコトヲ示シタルモノナレバ不都合ナカ
ルベシ(委員長)自己ノ債務者カ第三者ニ對シ云々シタシ可決

ス(委員長)拋棄ノ字ハ權利ノ拋棄移付ハ權利ノ移付ト云フコ
ト何レノ場合ト雖モ相違ナタンバ可ナリト雖トモ否ラサレバ冠
字ヲ置カサルヘカラス各員曰權利ト云フコト明了ナルベシ(鶴
田)圖方ニ減シ又ハ自己ノ受方ヲ増ストハ如何(栗塚)權利ヲ
減シ義務ヲ増スト云フコトナリ

第三百六十一條 債權者ノ詐害ニ於テ爲シタル所爲ノ取消ハ次條ニ
記載シタル區別ニ從ヒ債務者ト約定シタル者ニ對シ又轉得者ニ對
スヘキトキハ之ニ對シ債權者ノ方ヨリ廢止訴權ニ依テ裁判所ニ請
求セラル

若シ債務者カ詐害ノ意ヲ以テ被告トシテ敗訴シ又ハ原告トシテ請
求ヲ却下セラレタルトキハ債權者ハ民事訴訟法ニ據ヒ第三者故障
ニ依テ訴フ

如何ナル場合ニ於テモ債務者ヲ訴訟ニ參カシムルコトヲ要ス

若シ所爲ノ廢棄カ其儘ニ被告ヨリ得ラル、コトヲ得サルトキハ被告ハ債權者ニ對シ損害賠償ヲ言渡サル

本條ハ報告委員修正アリ第一項ハ債權者ノ、下ニ權利ノ二字ヲ入レ又轉得者ニ對ノ下「スヘキトキハ之ニ對」ト云テ劃リ債權者ノ方ヨリトアルノ方ノ二字ヲ除キ請求セラルトアルチ之ヲ請求スト修正ス第二項被告トシテ又ハ原告トシテトアルチ被告ニテ又ハ原告ニテトシ故障ニ依テトアルチ故障ノ方法ニ依テト修正ス第三項ハ訴訟ニ參加カシムトアルチ訴訟ニ參加セシムトシ第四項ハ若シ所爲ノトアルチ若シ被告ヨリ所爲ノトシ廢棄カトアルチ廢棄トシ其儘ニ被告ヨリ得ラル、コトヲ得サルトキハトアルチ其儘ニ得ル能ハサルトキハトシ損害賠償ヲ言渡サルトアルチ損害賠償ノ言渡ヲ受クトス（鶴田）其儘得ル能ハサルトキハト云フハ如何（委員長）其儘廢棄スルチ得サルトキナルベ

民草二ノ三四

シ（南部）一項ハ債務者ト第三者ト約定若クハ轉得シ債權者其害ヲ受ケタルトキハ其裁判ハ廢棄ヲ訴フルコトヲ得ト云フ譯ナリ（村田）此裁判ハ本案決定後ニ於テセサレバ爲スベカラサルナラン（南部）決定前ノコトハ參加訴訟ヲ以テスベシ（清岡）其儘ト云フハ如何（栗塚）起案者ニ問フタルニ廢棄自ラト云フ譯ナリ（清岡）廢棄カ疵付カズニナスチ得レバ可ナルモ其廢棄ニ疵アレバ亦タ損害賠償ヲ受クベカリシナラン（栗塚）然リ

第三百六十二條 攻擊セラレタル所爲ノ如何ヲ問ハス債權者ハ自己ノ債務者ノ詐害ノ證ヲ供スルコトヲ要ス其他有債名義ノ所爲ニ關シテハ債權者ハ債務者ト約定シ又ハ之ト訴訟セシ者ノ方ニ通謀又ハ詐害ノ關係アリタルコトヲ證スルコトヲ要ス

移付ノ廢棄訴權ハ有債又ハ無債ノ名義ノ轉得者カ最初ノ得取者ト約定スルニ當リ債權者ニ對シテ行ハレタル訴權ヲ知リタルトキニ

アラサレハ其轉得者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス
 報告委員ニテ一項冒頭ニ債權者ニハノ四字ヲ加ヘ攻撃セラレタ
 ルヲスルトシ間ハスノ下債權者ハノ四字ヲ削リ通譯又ハチ即チ
 トシ二項ノ對シテノ下行ハレチ爲シト修正ス（清岡）攻撃スル
 所爲トハ何ソ（栗城）債務者ノ詐害セシ所爲ナリ（委員長）所
 爲ハ債權者ノ所爲ナル如クナルニアラスヤ（松岡）所爲ノ上ニ
 債務者ノ、字ヲ加テハ如何又自己ノ二字ハ不用ナルニアラスヤ
 （栗城）否此場合ハ債權者ノ二重ニ存スル場合ヲ想像シタリ故
 ニ直接ノ債務者ヲ顯ハサン爲メ自己ノ字ヲ用ヒタリ（清岡）
 報告委員修正ハ可ナリ可決ス（委員長）轉得者ハ之ヲ知ルヲ得
 ヘキナレハ何程ニモ及フカ（南都）惡意カ存續セス中間ニ良意
 ノ轉得者アレバ中断セラル

第三百六十三條 廢止ハ債權者ノ中ニテ訴訟所爲ノ以前ニ權利ヲ得

タル者ニアラサレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ廢止力得ラ
 レタルトキハ其廢止ハ區別ナリ總テノ債權者ニ利ス但其債權者ノ
 間ニ於テ優先ノ違法ノ原因存スルトキハ此限ニ在ラス
 本條ハ報告委員ニテ廢止力得ラレテ廢止ヲ得ト總テノ債權者ニ
 ト云フチヲト改ム可決ス

第三百六十四條 廢止訴權ハ詐害ノ所爲アリタル時ヨリ三十年ヲ經
 過スルニ因テ時効ニ係ル然レトモ其廢止訴權ハ債權者カ詐害ヲ發
 見シタル當時ヨリ起算シテ二年ニ短縮セラル

右ト同一ノ規定ハ第三者故障ニ適用セラル

本條ハ報告委員ニテ係ルノ二字ヲ削リ因リ之ヲ失フノ六字ヲ挿
 入ス然レトモノ下其廢止訴權ハノ六字ヲ削リ發見シタルノ下ヘ
 「トキハ其廢止訴權發見ノ、」數字ヲ加ヘ起算シテノ四字ヲ削
 ル二年ニノ下「之ヲ」ヲ挿入シ短縮セラルラストス二項規程ノ

字ハ反譯上ニテ時効ト修正シ又タ報告委員ニテ故障ニノ下ヘ之
チノ二字ヲ入ルヘ尾崎ニ二年間ニ起訴セサルベカラサルハ余リ
短縮ニ過クヘ要環ニ債權者ハ發見シタルトキハ早速訴出ルチ欲
スルモノナシニ二年ノ猶豫アレバ可ナルヘキユアラスヤ(南部)
取消訴權ヲ五年間ニ行フ得ヘキモノトシタレバ此二年ハ其不權
衡ナリ殊ニ日本ノ如キハ交易不便人文未開ナルチ以テ期限ハ成
ル丈ケ長カラサルヘカラス(渡)之チ知りシトキハ假令交通不
便ナルモ民度開ケサルモ二年ノ猶豫アレバ可ナルユアラスヤ(尾
崎)實者ノ如キハ早ク訴フルチ得ルモノニアラズ元來三十年チ
經過セサレバ期滿効ノ生セサルモノナレバ二年ノ猶豫ハ短縮ナ
リ(委員長)債權者チ怠ラシノサル爲ノナリ(村田)三年トシ
テハ如何原案通二年トス

第二則 合意ノ第三者ニ對スル効力

第三百六十五條 合意ハ一般ニ契約者間及ヒ其承權人ニ對スルニア
ラサレバ効力ヲ有セス又合意ハ法律ニ定メタル場合ニ於テシ且法
律ニ定メタル條件ニ從フニアラサレバ第三者ニ利セス又之ニ對抗
スルコトヲ得ス(第千六百六十五條)

第二則 報告委員ニテ合意ノ三字ヲ對スルノ下ニ換
置ス

本條ハ報告委員ニテ第三者ニ利セスチ第三者チ利セストス(鶴
田)合意ハ當事者ニアラサレバ有効ナラサルハ已ニ規定シタル
ニ付キ爰ニ此點ヲ示スニ及ハサルヘシ(委員長)承權人ハ第三
者ナルベキニアラズヤ(要環)此原則ハ規定ノ點ヲ再示セリ(尾
崎)承權人ハ第三者ト見ルヘカラサルカ(村田)承權人ハ第三
者トハ異ナリ(鶴田)此條ハ必意「又合意ハ」以下入用ナルヘ
シ(委員長)承權人ハ第三者ニアラスシテ契約者ノ一人タルカ

(果塚)然リ(委員長)法律ニ定メタル場合ト條件トハ別ナル
カ同一ナルカ(果塚)同一ナルベシ實ハ法律ニ定メタル場合ハ
此限ニアラスト云フカ如シ

第三百六十六條 然レトモ若シ有體ノ動産カ所有者ノ方ニテ異別ナ
ル二人ト爲シタル二箇ノ與フルノ合意ノ目的タリシトキハ其二人
中ニテ動産ノ現實ノ占有ヲ爲ス者ハ證書ノ日附ハ後ナリトモ優先
トセラレテ其所有者タリ但其者カ自己ノ合意ヲ爲ス當時ニ於テ最
初ノ移付ヲ知ラス且最初ノ合意ヲ爲シタル者ノ財産ヲ管理スルノ
責任ナキコトヲ要ス(第千四百四十一條)

此條例ハ所持人式債權證書ニ適用スルコトヲ得
報告委員之ヲ修正シ然レトモ若シトアル下ニ所有者カ一個ノト
云フヲ挿入シ有體ノ動産カトアルヲ有體ノ動産ヲトシ所有者ノ
方ニテト云フヲ刪リ二人ト爲シタルトアルヲ二人ニ與フルトシ

二箇ノ下「與フルノ」ト云フヲ刪リ目的タリシトキハトアルヲ
目的ト爲リシトキハトシ「動産ノ現實ノ」トアルヲ現ニ其トシ
優先トセラレテトアルヲ優先トシテトス(果塚)所持人式債權
證書ハ無記名式トシタトキモ商法ニ關スルヲ以テ決スル能ハス
(委員長)此無記名ノコトハ商法ニ差圖式トシタルカ尙ホ證據
ノ節ヲ報告委員ニ委置シタルヲ以テ追テ之ヲ定ムヘシ(鶴田)
本條ハ如何(果塚)假令ハ己レノ馬ヲ二人ニ賣ルコトヲ約シタ
ルトキハ日附ハ後チナルモ現物占有シタル者ニ與フルモノト云
フニアリ(鶴田)然レトモ云々ハ正明了ナラズ(果塚)最初然
レトモ若シ所有者カ一個ノ有體ノ動産ヲ異別ナル二人ニ與フル
二箇ノ合意ノ目的ト爲シタルトキハト修正セシモ之ヲ廢止セリ
各員曰其修正率口可ナリ(松岡)二箇ノ字ハナクモ異別ナルニ
テ二箇タルチ知ルベシ(果塚)二箇ハ要用ナリ異別ノ字ハ二人

ニ關スルヲ以テナリ動産ヲト云フテノ範圍ニツチ要スルニ有体ノ動産ヲ云々トハ文理明カナラス（清岡）合意ノ目的ト云フコトハアルモ合意ヲ爲シタルト云フコト明カナラス（委員長）云々異別ナル二人ニ與フル二個ノ合意ノ目的トスレバ可ナリ（清岡）目的トナリシハ目的タリシトキトセサレバ不都合ナリ（栗塚）然リ報告委員ノ修正ハ適當ナラス却テ原案ヲ可トス先原案ニ決ス（松岡）最初ノ合意ヲ爲シタル者トハ如何（栗塚）實ニ占有シタル人ヲ云フ（松岡）財産ヲ管理云々ハ如何（栗塚）其占有セシ者ノ財産ヲ管理セサル場合ナリ若シ其財産ヲ管理セルモノナレバ之ヲ知ルヲ得ベキナレバナリ

第三百六十七條 記名債權證書ノ讓受カ被讓債務者ニ合式ニ告知セラレ又ハ被讓債務者カ公正證書若クハ確定日附ノ證書ヲ以テ其讓渡ヲ受諾シタル當時以後ニアラサレハ其讓受人ハ自己ノ權利ヲ以

テ讓渡人ノ承權人又ハ被讓債務者ニ對抗スルコトヲ得ス（第一千六百六十五條）

被讓債務者ノ受諾ハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ總テノ抗辨又ハ拒却ノ理由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ妨ク又讓受ノ單純ナル告知ハ被讓債務者ヲシテ其告知後ニ生シタル抗辨ヲ失ハシムルノミ（第一千二百九十五條）

前記ノ所爲ノ一アルマテハ債務者ノ辨濟若クハ義務免除ノ合意又ハ讓渡人ノ債權者ヨリ爲シタル拂渡差留即チ拂渡故障又ハ合式ニ告知シ若クハ受諾セラレタル債權ノ新ナル得取ハ總テ善意ニテ爲サレタルモノト推定セラレ懈怠ナル讓受人ニ對抗セラル、コトヲ得（第一千六百九十一條）

當事者ノ惡意ハ其自白ニ因リ又ハ裁判所ニ於ケル宣誓ノ拒絕ニ因ルニアラサレハ證セラル、コトヲ得ス然レトモ讓渡人ト共謀シタ

ル詐欺アリシトキハ其通譯ハ總テノ通常ノ證據方法ヲ以テ證明セ
ラル、コトヲ得
裏書ノ方法ヲ以テスル商ヒ證券ノ讓渡ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以
テ之ヲ定ム

(委員長)記名債權モ商法ニ關スヘキヲ以テ共ニ一定シタシ又
受方ヲ修正シタルハ皆之ヲ修正スルカ類クハ原文ノ意ヲ用ヒタ
シ(栗塚)分ル丈ハ備キ掛ニシ分ラサル處ハ原文ノ儘ニスルツ
モリナリ(委員長)修正セサルモ宜シカルヘキ處ニ其備方ニ修
正シタルヲ以テ不都合アリ(栗塚)意味ノ異ナラサル處ハ分リ
易キ様ニスルヲ可トスト云フニアリ(委員長)之ヲ歐洲文ニ反
譯スルトキニ當テ万一間違ヒアルヤモ知ルヘカラサルヲ以テ分
ラサル處ハ備キ掛ニスルモ分リサヘスレバ原文ノ儘ニスベシ(南
部)此後ハ左様スルツモリナリ(松岡)歐文ニアル備方ヲ日本

文ニテ受身ニスルトシテ分リ易キハ最モ希望スヘシ(委員長)
讀ムニハ讀ミ易キモ間違ヒアルヲ以テナリ(松岡)成ル丈耳目
ニ慣レタル様ニシタシ(委員長)記案者ノ受方トシタル處ヲ備
方ニスル^ニハ皆然カスルニアラズ受方ナル所モアルベキヲ以テ其
間ニ或ハ間違ヒナキニシモアラズ(栗塚)平素分リ易キ辭アル
ニ法律ニテハ之ヲ捨テ使用セサルハ不可ナリト思考ス(委員長)
視易キ所ハ三人稱トシ視易カラサル所ハ二人稱トスレバ間違ノ
度ガ少ナカルベシ(松岡)先ツ此儘ニシ差支ヲ惹起シタルトキ
ハ之ヲ改ムヘシ(委員長)然カスベシト雖トモ其差支アルトキ
ハ受合人ノミ其責ヲ任スルニ過キズ外國人ト法律ノ解釋ヲ異ニ
シテ他日ノ心配ヲ惹起セサルヘカラス(栗塚)律テ斷リ置キタ
ル通り原後ノ「ラレ」「ラル」ノ修正ハ本修正ニアラスト領承
アリタシ(村田)一項ノ讓受ト云フ下ニ人ト云フ字ヲ脱セシニ

アラスヤ(栗塚)譲渡ノ意味ニ見ラレタシ(鶴田)被讓債務者トハ何ソ(南部)證書ニ記載ニアル借主ナリ(栗塚)乙者カ甲ニ債權アル證書ヲ丙ニ譲リタルトキハ乙ハ讓渡人ニシテ丙ハ讓受人ナリ而シテ甲ハ被讓債務者ナリ(南部)記名債權證書ノ讓渡ハト云フ意味ナリ(委員長)告知シト云フハ譲レヨリスルカ(栗塚)讓渡人及ヒ讓受人ヨリス鬼モ角モ被讓債務者ニ知ルレハ足レリ(栗塚)讓受ハ反譯上讓渡ハト修正スルツモリニ付キ左様領承ヲ乞フ(村田)告知セラレテ告知シト修正シ又受諾シタルトアルハ告知セラレ受諾セラレトスルヲ可トス(松岡)被讓債務者ハ第三者ニ當ルニ被讓ト云フヲ妥當トスルヤ(栗塚)原被ノ被ハ兩人間ナレトモ此被ハ第三者ナリ(清岡)訪トハ如何受諾力之ヲ訪タルモノニシテ對抗スルヲ得サルモノトス(尾崎)初ノ被讓渡人債權者ノ渝ルヲ欲セサル旨ヲ留保シ置ケバ格

別己ニ被讓債務者カ受諾シタルトキハ讓受人ニ對抗スルヲ得スト云フ譯ナルベシ(栗塚)然リ(松岡)單純ト云フモ合式ノ告知ナルベシ(南部)然リ(松岡)受諾ナキモ告知アレハ單純ノ告知ナリ(栗塚)單純ナル告知アリタルトキハ被讓債務者ハ其告知後ニ生シタル抗辨及拒却ノ理由ヲ失フベシ(栗塚)前記ノ所爲ノ一トハ告知カ又ハ受諾アル迄ハト云フ譯ナリ(委員長)抗辨モ前記ノ所爲ノ一ニ入ラサレバ告知前ノ抗辨ヲ爲スコトアレバナリ(栗塚)告知又ハ受諾アル點ハ對抗スルコトヲ得ヘキモノニシテ抗辨ハ其中ニ入ラサルナリ(松岡)宣誓ハ別ニシテ自白ニシテ惡意ナシトスルヲ得ベキヤ(栗塚)宣誓ハ他日證據篇ニ於テ報告委員ヨリ刪除ノ意見ヲ呈出スルカモ知ルヘカラズ(委員長)宣誓ノ方法ハ鬼モ角モ存置スルヲ可トス(栗塚)他日此點ニ立戻リ議スルコトヲ要スルコトアルヘキトキハ許容ア

リタシ（委員長）然リ

第三百六十八條 左ノ書數ハ財産所在地ノ戸長役場又ハ郡區役所ニ備ヘタル特別ノ帳簿ニ其全文ヲ登記ス

第一 公正證書ト私署證書ト之間ハス又有債名義ト無債名義ト之間ハス不動産所有權又ハ其他ノ不動産物權ノ移付ヲ記載シタル生存者間ノ總テノ證書

第二 右同一ノ權利ノ改換又ハ拋棄ヲ記載シタル總テノ證書

第三 前記ノ目的ノ一ヲ有スル口頭ノ合意ノ成立ヲ證明シタル總テノ判決書

第四 不動産差押ノ上ノ公賣落札ノ總テノ判決書

第五 公用ニ因由スル所有權徵收ヲ宣告シタル裁判上又ハ行政上ノ證書（千八百五十五年三月二十三日佛法律第一條、第二條伊
民第千九百三十二條）

民事二ノ四一

不動産ノ抵當及ヒ先取特權ノ公示ニ特別ナル規則ハ第四編ニ之ヲ定ム

本條ハ報告委員ニテ戸長役場又ハ郡區役所ノ數字ヲ制リ區裁判所トス其全文ヲ之トス（委員長）商ヒ證券ハ商法ト能ク照合シタルカ（南部）然リ（村田）生存者間ニ限りシハ如何（南部）合意ノ効力ノ所ヘハ遺囑ノ點ヲ記スルヲ得サルニ付キ其點ハ相續篇ニ於テスベシ又判決書ハ裁判書ト改メタシ可決ス

第三百六十八條第二 登記ハ一個ノ規則ニ憑リ公示スヘキ證書ノ同様ナル二個ノ原本ヲ登記役所ニ納ムルコトヲ以テ之ニ代フルコトヲ得其二個ノ原本ハ之ヲ複合シ相同シト認メタル後各葉毎ニ其双方ノ縁邊ニ登記ノ制印ヲ付ス

其原本ノ一ハ其要旨ヲ特別ノ帳簿ニ記載シテ右ノ役所ニ之ヲ保有シ他ノ原本ハ其納付ヲ爲シタル場所ト時日トヲ縁邊ニ記載シテ當

事者ニ還付ス

登記ニ關スル其他ノ法式ハ特別ノ規則及ヒ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ定ム

(樂塚) 現ニ登記法アルヲ以テ一項二項ハ之ヲ删除シ末項ハ登記ニ關スル其他ヲ總テノトシ三百六十九條ノ末項ニ附置スベシ可決ス

第三百六十九條 登記ハ合式ノ辨明ノ後當事者ノ請願ニ因リ其費用ヲ以テ之ヲ爲ス

請願者ニハ登記セラレタル證書ノ主タル項目ノ抜抄シテ記載シタル登記ノ保證書ヲ交付ス

又何人ニテモ自己ノ指定シタル不動産ニ關スル登記帳簿ノ抜抄ヲ自費ニテ要求スルコトヲ得(同上第五條、佛民第二千九十六條以下)

民草二ノ四二

本條報告委員ニテ登記セラレタル證書ノ下ア主タル項目ノ抜抄シテ記載シタルニ付キテ挿入ス

第三百七十條 上ニ掲ケタル所爲ノ効力ニ因リ得取セラレ改様セラレ又ハ取回サレタル物權ハ其登記ニ至ルマテハ仍ホ其表見ノ本主タル當事者ト右ノ權利ニ付キ約定シ又ハ本主ヨリ若クハ其權利ニ依テ右ノ權利ト相容シサル權利ヲ得取シタル承權人ニ對抗セラル、コトヲ得ス但右二個ノ場合ニ於テ其承權人ハ善意ニシテ且其證書ノ登記又ハ記入ヲ要スルトキハ自ラ之ヲ爲サシノタルコトヲ要ス(同上第三條伊民第九百四十二條)

惡意及ヒ通謀ハ第三百六十七條ニ從ヒ證セラル、コトヲ得(佛民第七十一條、千八百五十一年十二月十六日白耳義法律第一條) 報告委員ニテ所爲ヲ證書トシ本主タル當事者トアルヲ所有者トシ約定シノ下ヘタル承權人トシ又ハ本主ヨリトアルヲ又ハ約定

セスシテ法律トシ若クハ其權利ニ依テトアルヲ若クハ裁判ニ依
リトシ對抗セラル、トアルヲ對抗スルトシ第三百六十七條ニ從
ヒノ下ヘ之ヲト云フ二字ヲ挿入シ證セラル、コトヲ得トアルヲ
證スルコトヲ得ト修正ス（委員長）表見ノ所有者ハ本所有者ニ
アラスヤ（栗塚）所有者ヲ移シタル舊所有者ナリ（委員長）登
記モ承權人ニ移リタルニ之ヲ表見ト云フハ如何（南部）表見シ
タルトキハ前者カ所有者ナリ（委員長）承權人カ未タ登記セサ
ルトキハ舊所有者カ表見ナルモ承權人モ已ニ登記シタルトキハ
舊所有者ハ表見ノ所有者ニアラス（清岡）相續者不在ニ付キ第
二ノ相續者之ヲ相續シタルニ業ユ不在ノ相續者歸來シタルトキ
ハ如何（松岡）否ナ證書ニ依テ得ルモノナレバ相續トハ別ナリ
（南部）得取セラレ改換セラレトアルハ皆「シ」ト云フニシテ
ハ如何（委員長）宜シカルヘキカ但書以下ハ如何（栗塚）爲サ

民事二ノ四三

シノタルニテ不都合ナシ自ラ登記官ニ登記セシムレハナリ（委
員長）此等ノ文字ヲ修正スルヨリ表見ト如キ大切ナル文字ヲ修
正セラレタシ（松岡）相容レサル權利トハ言ハサルトモ權利ニ
二種アルナシ（栗塚）然ラス所有者ト賃借リトノ如キ所有者ト
用收權トノ如キモノアレハナリ（松岡）登記ニ付キ權利ノ争ハ
其衝突シタルトキニアリ然ルニ相容モノナレハ争ノ起ルヘキ理
由ナシ（村田）相容ル、モノハ所有權ト用收權トニ過キス其他
ハ皆相容レサルモノナリ（栗塚）相容レサル權利ト云フモ證書
ニアラス故ニ言ハスシテ可ナリト云ヘ可ナルベキモ丁寧ニ示シ
タルモノナリ（鶴田）登記ヲ要セサルモノハ自ラ對抗ヲ防キヘ
キモ其要セサルモノハ何ソ（松岡）相續ノ如キハ直チニ登記ス
ルヲ要セサルモノナリ

第三百七十一條 登記ヲ關無ハ法律裁判又ハ合意ニ因リ最初ノ登記

ヲ爲サシムルコトヲ任セラレタル次後ノ得取者又ハ譲受人カ許意
タリトモ此等ノ者ヨリモ又其相續人又ハ一般ノ承權人ヨリモ最初
ノ得取者ニ對抗セラル、コトヲ得ス（第九百四十一條、伊民第千
九百四十四條第三項）

本條ハ報告委員ニテ最初ノ登記ヲ爲サシムルコトヲ任セラレタ
ルトアルヲ最初ニ登記ヲ爲スノ義務アルト修正ス（栗塚）最初
登記ヲ爲スベキ義務アル者カ其登記ヲ爲サ、ルトキハ次後之ヲ
得取シタル其者モ又其相續人ヤ承權人モ最初ノ所有者ニ向テ對
抗スルヲ得サルナリ（松岡）最初登記スヘキ義務者カ登記セス
シテ次後自分カ之ヲ得取セントスルモ得サルヘシ（栗塚）法律
裁判又ハ合意ニ因リ最初ニ登記ヲ爲スノ義務アルモノ之ヲ爲サ
スシテ次後ノ得取者又ハ譲受人トナリタルトキハ善意タリトモ
此等ノ者ヨリ又ハ其相續人若クハ一般ノ承權人ヨリ登記ノ欠缺

ヲ以テ最初ノ得取者ニ對抗セラルコトヲ得ストスヘシ（清岡）
承權人ヨリノ下モノ字ハ存スベシ（松岡）「モ」ヲ除キ此等ノ
者ヨリヲモ除テハ如何（栗塚）此條ニテハ甲者無登記ニテ所有
セル財産アリ乙之ヲ登記スベキ管理ノ義務アル際之ヲ爲サス自
ラ之ヲ得取シ登記シタルトキ其登記シタル者ハ最初甲ノ登記ア
ラサル故余ハ正當ノ所有者ナリト云フヲ得ス又曰義務アルモノ
之ヲ爲サスシテト云フハ語弊アリ（清岡）然リ（南部）何レ登
記ヲ爲サ、ル以前ヲ云ヒシナラン（委員長）栗塚ノ説明ノ如ク
ナレバ合意ニ因リノ下へ他人ノト云フ字ヲ加ヘサレバ不可ナリ
（栗塚）例ハ郡長某アリ未タ郡長タラサル前政府カ或ル地所ヲ
買上タリ其後郡長某ハ此地ニ未タ登記ナキ場合ナレバ職務上登
記スヘカラサルニ之ヲ爲サズ自ラ買取シタルトキ之ヲ登記シテ
直チニ政府ノ買上シトキハ登記ナカリシヲ以テ後ニ買得セシハ

不都合ナシト云フヲ得ス故ニ之ヲ爲サスシテト云フハ語弊アリ
トス（委員長）他人ノ爲メヲ挿入セサレバ意味不明ナリ（南部）
他人ヲ入ルレバ其他人ト云フハ最初ノ得取者ナリト云フコトハ
罷ノサルベカラズ遽ニ合意ニ因リノ下ニ他人ト云フ字挿入スル
ニ決ス

第三百七十二條 登記セラレタル移付ノ解除、銷除又ハ廢棄ヲ主旨
トスル訴權カ善意ノ取得者ノ害ニ於テ行ハル、コトヲ得サル場合
ニ在テハ裁判所ニ於ケル請求ハ原告ニ對抗スルコトヲ得ヘキ登記
又ハ記入ヲ止ムル爲メ其攻撃セラレタル證書ノ登記ノ縁邊ニ披抄
シテ記載セラル

若シ前記ノ訴權カ區別ナク總テノ轉得者ニ對シテ行ハル、コトヲ
訴サル、トキハ請求ハ攻撃セラレタル證書ノ登記ノ縁邊ニ記載セ
ラレサル間ハ裁判所ニ於テ受理セラレヌ（白耳義法律第三條及ヒ

第四條

所爲ノ取消ヲ宣告スル判決ハ亦假ノ執行タリトモ之ヲ執行ニ付ス
ル以前請求ノ登記ノ末ニ記載スルコトヲ要ス又如何ナル場合ニ於
テモ其判決カ攻撃スルコトヲ得サルモノト爲リタル時ヨリ一個月
内ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス若シ之ニ違ヒタルトキハ其判決ヲ得
タル者二十圓乃至百圓ノ罰金ヲ科ス（千八百五十五年佛法第四條）
若シ請求カ却下セラレ又ハ其手續ノ失効ヲ宣告セラレタルトキハ
其却下又ハ其手續失効ノ判決カ攻撃スルコトヲ得サルモノト爲リ
タルトキニ至リテ實行セラル、爲メ裁判所ハ職權ヲ以テ其請求ノ
記載ノ抹消ヲ命ス（伊民第千九百三十三條、第千九百三十四條）
若シ原告カ取下ヲ爲ストキハ當事者ノ請願ニ因リ請求ノ記載ノ抹
消ヲ爲ス

本條ハ報告委員ニテ第一項ヲ「裁判所ニ於ケル請求ハ原告」ト

云フ文字ヲ削リ原告ハ自己ト四字ヲ挿入シ縁邊ニ抜抄シトアル
ヲ縁邊ニ裁判所ニ於ケル請求ヲ抜抄シトス第二項ハ「許サル、
トキハ請求ハ」ト云フヲ削リ得ル場合ニ在テハト云フ字ヲ挿入
シ登記ノ縁邊ニ記載セラレサルトアルヲ登記ノ縁邊ニ請求ヲ配
載セサルトシ、裁判所ニ於テ受理セラレストアルヲ裁判所ニ於
テ之ヲ受理セストス第四項ハ亦假ノトアル亦ヲ削リ「之ヲ執行
ニ付スル」トアルヲ其執行トシ登記ノ末ニノ下ヘ亦之ヲト云フ
字ヲ加ヘ十圓乃至百圓ノ罰金ヲ科ストアルヲ五圓以上五十圓以
下ノ罰金ヲ科ストス第四項ハ「若シ請求力却下セラレトアルヲ
若シ請求ヲ却下シトシ宣言セラレトアルヲ宣言シトシ宣言シタ
ルトキハノ下ヘ、裁判所ハト云フヲ加ヘ其ノ下「却下又ハ其手
續失効ノ」ト云フヲ削リ「爲リタルトキニ至リ」ノ「テ實行セ
ラル、爲ノ裁判所ハ職權ヲ以テ」ト云フヲ削リ其請求ノ記載ノ

トアルヲ削リ抹消ヲ命ストアルヲ抹消スヘキ爲ノ職權ヲ以テ
預ノ之ヲ命スト修正ス（委員長）轉得者ノ審ニ於テトハ如何（栗
塚）轉得者ノ審トナル場合ニ於テト云フコトナリ（鶴田）攻撃
セラレタル證書ノ登記ノ縁邊トハ如何（南部）解除銷除又ハ廢
止ノ證書ナリ（栗塚）乙ハ甲ノ之ヲ丙ニ賣リシ物ト云フヲ知ラ
ズ自ラ之ヲ購買セリ丙ハ又之ヲ丁ニ賣リ丁ノ登記セントスル際
乙ハ丙ノ所有中ハ其賣買ヲ取消スタ得ルモ既ニ丁ノ登記ヲ爲シ
タル以上ハ之ヲ取回スタ得サルニヨリ其豫防手段ノ爲ノ自ラ丙
ヲ攻撃スヘキ證書ノ登記ノ縁邊ニ裁判所ニ於ケル請求ヲ抜抄シ
テ記載スルト云フコトナリ（鶴田）二項ハ如何（栗塚）此場合
ハ買戻シ契約ノ際往々見ル所ナリ（委員長）一項ノ轉得者ノ審
ニ於テハ轉得者力審スル如ク見ルヲ以テ審トナリ行ハル、コト
ヲ得サルトシテハ如何（南部）宜シカルベシ（栗塚）攻撃セラ

レタルヲシタルトスベシ（清岡）二項ハ如何（栗塚）何人ニ轉
スルモ之ヲ訴フベシト雖トモ請求ノ旨ヲ登記ノ縁邊ニ記示セサ
レバ不都合ナレハナリ（鶴田）三項ハ如何（南部）解除ノ訴立
テ元ノ證書取消トナルトキ其判決ハ假令假ノ執行タリトモ最初
ノ請求ノ登記ノ末ニ亦其旨ヲ記載スルヲ要ス（清岡）宣告スル
判決云々ハ裁判所之ヲ爲ス如ク見ユルニ付キ宣告シタルト云ハ
サレバ不可ナリ（南部）罰金ヲ科スハ過料ニ處ストスベシト可
決ニ屬ス（清岡）登記セサルモノ、過料ハ高キニアラスヤ（南
部）此場合ニ登記セサルヘカラサルヲ以テナリ

第三百七十三條 登記セラレタル證書ノ解除、銷除又ハ廢棄力熟議
ニテ承諾セラレタルトキハ其解除、銷除又ハ廢棄ハ總テノ場合ニ
於テ任意ノ廢棄ト看做サレ第三百六十八條乃至第三百七十一條ヲ
以テ命シ及ヒ定メタル登記ニ付セラル

民事二ノ四七

前記ノ登記ハ帳簿ノ保管人取消サレタル證書ノ登記ノ縁邊ニ職權
ヲ以テ之ヲ記載ス

（栗塚）登記ノ帳簿ノ保管人ハ佛國ニ於テハ保管人ト云フモ日
本ニ於テハ今日ノ所ニテハ治安、裁判所トシテモ宜カラシ報告
委員ノ修正ニテハ登記ノ主管者トス（清岡）三百六十八條ハ其
儘テ可然ヤ（栗塚）條ノ改正ハ追テ之ヲ爲スヲ以テ其儘テ宜シ
第三百七十四條 帳簿ニ爲シタル登記及ヒ縁邊記載ハ之ニ付キ利害
ヲ有スル總テノ者ヨリ抹消シ又ハ改正スル爲メニ裁判上ニテ之ヲ
争フコトヲ得

請求及ヒ判決ハ第三百七十二條ニ記載シタル如ク且其條ニ掲ゲタ
ル罰ヲ以テ其争ハレタル證書ノ登記ノ縁邊ニ記載セラル
能力アリ又ハ合式ニ名代セラレ若クハ輔佐セラレタル當事者ハ熟
議ニテ抹消又ハ改正ヲ承諾スルコトヲ得

裁判上ニテ合式ニ命セラレ又ハ熟慮ニテ承諾セラレタル抹消又ハ
改正ハ正シク登記セラレ又ハ記入セラレタル権利ヲ有スル者ヲ其
抹消又ハ改正ニ付キ異議ヲ爲シ又ハ承服スル爲メ召喚シタル上ニ
アラサレハ之ニ對抗セラル、コトヲ得ス

(渠塚) 且其條ニ掲ケタル罰ヲ以テト云フハ三百七十二條ノ五
圓以上五十圓以下ノ處ニアタルモ且ツ其條ニ掲ケタル罰ヲ以テ
ト云フニテハ右ニ當ルヲ知ルヲ得ス依テ報告委員ハ之ヲ修正シ
テ登記ノ縁邊ニノ下ヘ之ヲノ二字ヲ入レ記載セラレト云フヲス
ルコトヲ要ス違ウ者ハ何條ノ過料ニ處セラルトシ二項ノ能力ア
リ云々ヲ能力アル當事者云々トス又反譯上ニテ權利ヲ有スル者
ヲトアルヲカトシ異議ヲ爲メ下「シ又ハ承服スル」ヲ罰リ異議
ヲ爲ス爲メトシ召喚ノ下「シタル」ヲ罰リ召喚セラレ又ハ承服シ
タルト修正ス原文ニテハ承服スル爲メ召喚セラレタル如ク見ユ

レバナリ(尾崎)末項ハ稍晦澁ニ屬ス更ニ修正シテ命セラレテ
命シ附セラレテ諸シ權利ヲ有スル者「カ」ヲ「チ」トシ召喚セ
ラレテ召喚シ又ハ其者カトシ其者ニ對抗ト云修正ヲ原文ノ通り
之レトシ對抗セラル、ヲスルコトト改ム(松岡)一項、抹消又
ハ改正スル爲メヲ改正ハトスルヲ可トス(村田)英文ニテハ合
式ニ名代セラレハ無能力ノ名代トシアリ(渠塚)否ナ不在ノ際
ニモ名代セラル、ヲ得ヘキモノナレバ無能力ニ限ラサルモノナ
リ(鶴田)末項ノ意ハ裁判上ニテ合式ニ裁判シタルモノヲ抹消
又ハ改正スルニ付キ更ニ此手續ヲ要スルカ(渠塚)然リ(南部)
第三者ニ對スル場合ナレバナリ

第三百七十五條 帳簿ノ保管人ハ或ハ前數條ニ掲ケタル登記又ハ記
入、抹消又ハ改正ニ於ケル或ハ帳簿ノ形狀ヲ知ラシムルニ供シタ
ル保證書ニ於ケル漏脱又ハ不精確ニ付キ請願人又ハ當事者ニ對シ

其實ニ任ス

本條帳簿ノ字ヲ登記ト修正ス（松岡）登記ノ保管人或ハト云フ
或ハ、削除シタシ（栗塚）如此文例ハ特ニ本條ニ止マラサルヲ
以テ刪ルトセバ最初ヨリ刪ルヘシ（清岡）保證書ニ於ケル漏服
ト云フハ晦澁ナリ（栗塚）漏脱又ハ不精確ハ上ノ全体ヲ受クベ
シ（松岡）帳簿ノ形狀トハ如何（栗塚）帳簿ニ記載セシ都合ナ
リ

第四款 合意ノ解釋

第三百七十六條 合意ノ解釋ニ付テハ裁判所ハ當事者ノ用ヒタル語
辭ノ文字ノ儘ノ意義ニ據ランヨリ事口當事者ノ共通ノ意思ヲ推求
スルコトヲ要ス

本條ハ報告委員ニテ文字ノ儘ノトアルヲ文字上トス（尾崎）文
字ノ儘ト云フカ宜シキニアラスヤ（松岡）據ランヨリハト云フ

民華二ノ四九

ハ文字上ニ作ルハ至當ナルモ之レニ拘泥スルハ宜シカラスト云
フ意味ナレバ何ソ妥當ノ字ナキヤ（栗塚）固着又ハ粘着ト云フ
原字アルヲ以テナリ此文字上ノトセシムハ如何（渡）儘ト云フ
方宜シカラシニ報告委員修正ニ決ス

第三百七十七條 一個ノ語句カ總テノ場所ニ於テ同一ノ意義又ハ同
一ノ範域ヲ有セサルトキハ契約者雙方カ其住所ヲ有スル場所ニ於
テ慣用スル意義ヲ擇ムコトヲ要ス又其住所カ同一ノ場所ニ在ラサ
ルトキハ契約ヲ爲シタル場所ニ於テ慣用スル意義ヲ擇ムコトヲ要
ス

一個ノ語句カ其レノミニテ二様ノ意義ニ解セラル、コトヲ得ルト
キハ其語句ハ合意ノ本性及ヒ目的ニ最も適スル意義ニ解セラル、
コトヲ要ス

（松岡）又其住所カ同一ノ場所云々トハ例ヘハ東京人ト長崎人

トカ大坂ニ於テ契約セシトキハ如何(南部)大坂ノ慣用ニ從フ
モノナリ(清岡)末文ノ解セラル、ハ解スルコトト修正スヘシ
可決ス(栗塚)初ノ解セラル、モ解スルトスヘシ(南部)初ハ
自然ニ解セラル、ト云フコト故原文ノ通りニテ可ナリ(渡)同
一ノ意義ト云フ字アルヲ以テ又同一ノ範圍ト云フ字ヲ除クヘシ
(栗塚)此點ハ例ヘハ擧ト云ヘバ東京ノ人ハ板擧ト感スルモ大
坂ノ人ハ連擧モ入ルト云フ感アルヲ以テナリ意義ト云フモ範圍
ト云フモ強テ具ル所ナシ述ユ「又ハ同一ノ範圍」ヲ刪除ス

第三百七十八條 合意ノ總テノ條目ハ其各條目ニ證書ノ全體ト最モ
善ク一致スル意義ヲ與ヘテ相互ニ解釋ス

若シ一ノ條目カ二様ニ解釋セラル、コトヲ得テ其一ノミカ之ニ有
益ナル効ヲ與フルトキハ之ニ有益ナル効力ヲ與フル様ニ解釋スル
コトヲ要シ之ニ何等ノ効力ヲモ與ヘサル様ニ解釋セサルコトヲ要

ス

(松岡)之ニ何等ノ効力云々ハ不用ナリ(清岡)刪ルベシ(栗
塚)有益ナル効力ヲ與フル様ニ解釋シトセバ明カナリ(鶴田)
之ニ有益ナル効力トハ如何(栗塚)無効ナル意味ニ解セサルヲ
云フ(渡)有益ナル様ニトシテハ如何(村田)効力ノアル様ニ
ト云フ譯ナラン有益ノ上之ニ何等ノ上之ニノ二字ハ刪除スベシ
トナリシ(委員長)有益ノ上ニ代名詞アラサレバ甚不明ナリト
アリシカ先ツ刪除ニ決ス其一ノミカ之ニ有益ナルトアル之ニテ
條目ニト修正ス

第三百七十九條 合意ノ語辭カ如何ニ廣泛ナルモ其語辭ハ當事者ノ
契約スルニ付キ企圖シタル目的ニアラサレバ包含セサルモノト推
定セラル

又假令當事者カ合意ノ天然若クハ適法ノ効力ノ一又ハ特別ノ場合

ニ於ケル其適用ヲ明言シタリトモ當事者ハ其レノミニ因テ慣習又ハ法律カ其合意ニ付スル他ノ効力又ハ合意カ當サニ受クルコトヲ得ヘキ他ノ適用ヲ排除セント欲シタルモノト推定セラレス

(栗塚)二項ハ不明ニ付キ報告委員ニテ効力ノ一ノ下「テ明言シ」ノ四字ヲ挿入シ其適用トアルヲ合意ノ適用トシ慣習又ハ若クハトス(渡)包含セサルモノトハ如何(栗塚)目的カ包含セサルモノト推定セラル、ノ意味ナリ(清岡)推定セラレストハ推定スト云テ宜シトス可決ス(鶴田)他ノ効力ノ他ノ字習慣若クハ法律ヲ以テ効力ヲ附シタルノ意ナレバ之ヲ除クベシ(栗塚)他ノ字ハ存在セシムベシ慣習法カ明言シテ取除ケアル効力ヲ保護シテ失効タラシメサルノ意味ナレバナリ(委員長)合意カ當サニ受クルコトヲ得ベキノ他ノ適用トハ如何(栗塚)假令ハ合意ニテ明言シタルコトヲ云々スルノミナラズ尙ホ合意外ノ

コトヲ以テ云々スルコトヲモ得ベシト云フニアリ

第三百八十條 總テノ場合ニ於テ當事者ノ意思ニ疑アルトキハ合意ハ要約者ノ不利ト爲リ諾約者ノ利ト爲ル様ニ解釋セラル
若シ合意カ雙重ナルトキハ此規則ハ曖昧ナル又ハ多義ナル各條目ニ付キ各別ニ適用セラル

(鶴田)雙重ハ双務ト云フヲ得サルカ(栗塚)兩方共同ノ義ナリ双務ノミニヌレバ双務トハ云フベカラサルニ至ラン(清岡)曖昧トカ多義トカ云フ字ヲ用ヒズ何ソ恰當ノ字ヲ擇取シタシ(委員長)要約者ノ不利ト爲リハ反對ヨリ云フトキハ不利トナルベキ故不利トセンカ(栗塚)要約者ニ逆フテ諾約者ノ利ト爲ル様ニト云フ譯ナリ(委員長)佛文ニハ要約者ニ對シテトアリ要約者ノ不利トナル様ニト云フト語弊アルヲ免レズ(栗塚)當事者ノ意思ニ疑アルトキハ其利益ヲ要約者ニ歸スルカ將タ諾約者ニ

歸スルカト云ヘバ諾約者ニ歸スルモノナリ（松岡）恰モ弱者ヲ助クト云フカ如シ（委員長）弱者ヲ助クルハ可ナルモ爲ノニ強者ヲ奪スルト云フハ甚シキニアラスヤ（栗塚）疑ヒアルトキハ合意ハ要約者ノ損失ナリ諾約者ノ利トナル様ニ解釋スベシト云フニアリ何レカ勝敗ヲ決セサルヲ得サルトキハ權利者ヲ敗セシムル様ニスベキモノナリ

第二節 不當ノ利得即チ准契約

第三百八十一條 何人ニ限ラス有意ナルト無意ナルトヲ問ハス又錯誤ニ出ルト故意ニ出ルトヲ問ハス正當ノ理由ナクシテ他人ノ財産ニ付キ利ヲ得タル者ハ其不當ニ自己ノ利益ニ歸シタルモノ、取戻ニ從ハセラル

此條例ハ下ノ區別ニ從ヒ主トシテ左ノ諸件ニ適用ス

第一 他人ノ事務ノ管理

第二 負擔セラレタルニアラスシテ辨濟セラレタル物即チ或ハ處妄又ハ不法ノ理由ノ爲ノ或ハ成就セス又ハ成立スルコトヲ止メタル理由ノ爲ノ供給セラレタル物ノ收受

第三 贈遺又ハ其他遺贈ノ負擔アル相續ノ受諾

第四 第三編第一部第二章ニ記載シタル如ク所有者ニ付キ他人ノ物ノ附添ヨリ又ハ他人ノ勞力ヨリ生スル増加

第五 他人ノ物ノ占有者カ不違法ニ收取シタル果實、產物並ニ其他ヲ利益及ヒ占有者カ其占有セル物ニ加ヘタル改良但第二百六條乃至第二百十條ニ定メタル區別ニ從フ

（清岡）取戻ニ從ハセラルヲ報告委員ニテ受クト改メタルモ之ハ取戻ニ從フトスルヲ可トス（村田）第三ハ英文ニ依ルトキハ甚ダ不明ノ點アリ（栗塚）之ヲ第三者ニ贈遺スベシト云ハレ其相續シタルモノヲ第三者ノ爲メニ利セシムヘキ受諾ナリ第二ノ

即ち或トアルハ第三百八十二條ニ於テ不都合ヲ見タルヨリ報告委員ハ又ハト云フヘキ所ナリト思惟セリ(鶴田)負擔セラレタルニアラズト云フヲ負擔ニアラスシテトシタシ(栗塚)負擔スヘキニアラズトスベシ(鶴田)止ノタル理由ノ爲ノトハ止ノタル爲ニ贈與シタル如クナルニアラズヤ(栗塚)否贈與スベキモノヲ贈與スルニ及ハズトナリタルヲ知ラスシテ贈與シタルトキハ取戻サル、ナリ供給セラレタルハ供給シタルト修正ス(委員長)不合法ト不當トハ何ノ差アルヤ(栗塚)法ノ許否ヲ問ハス權利ナキニ權利アリトシタル如キハ不當ナリ不合法ハ法律ノ許サ、ルコトナリ

第三百八十二條 合意、適法又ハ裁判ノ委任ナクシテ不在者又ハ其他ノ人ニシテ其財産ニ恩寄アリト見ユルモノ、事務ノ全部又ハ一分ヲ好意ニテ管理スル者ハ其本主ノ物ヨリ收メタル總テノ利益ヲ

返還シ且前記ノ管理ニ際シ自己ノ名ニテ得取スルコトヲ得タル權利及ヒ訴權ヲ其本主ニ轉移スルノ實アリ
 管理者ハ本主又ハ其相續人カ自ラ管理ヲ爲シ得ル時ニ至ルマテ之ヲ繼續スルノ實アリ
 管理者ハ其過愆又ハ懈怠ニ因リ本主ニ加ヘタル損害ノ實ニ任ス但管理者ヲシテ其管理ニ任スルニ至ラシメタル狀況ヲ酌量スルコトヲ要ス

(栗塚)報告委員ニテ買領ノ合意適法又ハ、裁判ノ委任ナクシテトアルチ一分チノ下ニ轉置セリ(南部)裁判上トスルチ宜シトス可決ス(松岡)得取シタルコトヲ得ト云フハ如何(栗塚)得取シタナラバト云フ譯ナリ權利訴權ハ程度得ルニ極ラス若シ之ヲ得タルトキハト云フ意ナリ(鶴田)然レバ下文ニ附セサルベカラズ(清岡)得取シ得タルトスベシ(栗塚)然バ原案ノ儘

ニ附サレタシ可決ス（委員長）恩害アリト見ユルモノ、ト云フ見ユルノ字妥當ナリヤ（栗塚）例ハ不在者ノ其家宅ヲ預リシ際將サニ其家宅ニ恩害アラントスルヲ見テ云々スト云フコトナリ

第三百八十三條 本人ハ自己ノ方ニ在テハ管理者カ管理ノ爲ノニ爲シタル必要又ハ有益ナル總テノ出費ニ付キ之ニ賠償シ且管理者カ管理ノ名義ニテ自身ニ負擔シタル約務ニ付キ之ヲ免カレシメ又ハ擔保スルコトヲ要ス

本條ハ報告委員ニテ「自己ノ方ニ在テハ」ノハ字ヲ刪リ之ニテ之ヲト修正ス（栗塚）之ヲト云ヘバ出費ヲ指スニ當ルヲ以テ之ニト云ヘバ管理者ヲ指スモノトナレバ之ニトシタシ即チ管理者ヲ指シタルナレバナリ故ニ之ヲトシタル報告委員ノ修正ハ可決ス

第三百八十四條 債權者ニアラスシテ辨濟ノ名義ヲ以テ給付ヲ受ケ

民事二ノ五四

タル者ハ其善意ナルト惡意ナルトヲ別タス又辨濟シタル者ノ錯誤ニ出ルト故意ニ出ルトヲ別タス其取戻ニ從ハセラル

（栗塚）本條ノ從ハセラルモ受クト修正セントス可決ス

第三百八十五條 若シ辨濟ヲ受ケタル者カ債權者タルモ債務者ニアラサル他ノ者ヨリ之ヲ受ケタルトキハ辨濟ヲ爲シタル者カ錯誤ニテ之ヲ爲シタルトキニアラサレハ取戻ヲ許サス

又取戻ハ債權者カ辨濟アリタルニ因リ善意ニテ其債權ノ證書ヲ毀滅セシトキモ止ム

右二個ノ場合ニ於テ辨濟シタル者カ事務管理ノ辨權ニ依リ又ハ辨濟ノ事項ニ於テ掲ゲタル如ク代位ノ利益ニ依リ眞ノ債務者ニ對シテ有スル求償權ヲ妨ケス

（委員長）二項ハ如何（栗塚）錯誤ニテモ債權者證書ヲ毀滅シタルトキハ取戻シスルヲ得サルナリ（尾崎）代位ノ利益ト云フ

モ代位ニアラズ直接ナルヲ以テナリ（南部）代位ノ庇護ニ依テ
ト云フコトナリ（委員長）利益ニ依リハ外ニ尙ホ妥當ノ字アレ
バ改ムベシ（栗塚）然ルヘシ

第三百八十六條 若シ辨濟カ眞ノ債務者ヨリ眞ノ債權者ニ爲サレタ
ルトキハ債務者カ其負擔シタル物ヨリ他ノ本性ノ物又ハ自己ニ關
セサル物ヲ錯誤ニ因テ辨濟トシテ與ヘタルトキニアラサレハ取戻
ハ存立セス

若シ辨濟カ或ハ期限前ニ於テ爲サレ或ハ辨濟ヲ實行スヘキ場所ヨ
リ他ノ場所ニ於テ爲サレ或ハ約束シタル品質價格又ハ良度ヨリ他
ノ品質價格良度ノ物ヲ以テ爲サレタルトキハ取戻ハ存立セス但當
事者ノ一方ニ錯誤アリタルトキハ其者カ自己ノ爲メ生シタル損失
ヲ他ノ一方利益ノ限度ニ於テ賠償セシムルコトヲ妨ケス
報告委員ニテ第二項約束シタルノ下品質價格又ハ良度ヨリノ字

民事二ノ五五

ヲ割リ物ヲト云フ字ヲ挿入ス又他ノ一方ノ下ヨリ其ノ三字ヲ入
ル（鶴田）當事者ノ一方云々ハ如何（栗塚）假令ハ仙臺米ヲ渡
スヘキトキ肥後米ヲ渡シタルトキハ肥後米ニ付キ幾干ノ利益ア
ルヘシ其利益ニ付キ賠償ヲ爲サシムルニ妨ケナシ（委員長）限
度ハ限度内トハ云フヘカラサルカ（栗塚）是迄限度ト爲シタル
ナリ（委員長）利益ノ限度ト云ヘバ假令ハ金額拾圓ヲ受取り過
キタルトキ其拾圓ヲ運用シテ設ケシ利子モ包含セルカ（栗塚）
否ナ其利益ヲモ返サシムルニアラズ只損失ヲ賠償セシムルナリ
英文ニハ利益ヲ贈ヘカラズトアリ（鶴田）損失ハ幾干ナルモ利
益高丈ケテ償ハシムヘシ（委員長）或ル輻物ヲ自分ニ所持セシ
トキハ拾圓ノ價ヒナルニ之カ骨董商ノ手ニ移リシ爲メ二十圓ノ
價トナリシトキハ如何（栗塚）二十圓ヲ償ハサルベカラズ（委
員長）拾圓ニ止ルベシ（松岡）不當ノ利八十圓トナルベシ殘額

拾圓ハ骨蒸商ノ働キナリ(栗塚)其金額二十圓ハ離レニ賣ルモ
 代價二十圓ナレバ即チ二十圓ノ不當ノ利益ナリ(鶴田)第二ノ
 利益ニ屬スル分ハ返済スルニ及ハサルヘシ(栗塚)此ニ原被兩
 造アリ原告ノ損失百圓ニシテ被告ノ利益百圓ナレバ即チ百圓ヲ
 償テ足レリ原告ノ損失百圓ニシテ被告ノ利益七十圓ナレバ原告
 ハ七十圓ノ償ヒニ忍バサルベカラズ原告ノ損失百圓ニシテ被告
 ノ利益百二十圓ナレバ二十圓ハ被告之ヲ返スニ及ハズ遂ニ他ノ
 一方ノ利益云々ハ此儘ニ決ス辨濟カト云フヲ辨濟ヲトシ爲サレ
 タルヲ爲シト修正ス(鶴田)他ノ本性ト云フト他ノ品質ト云フ
 トノ差如何(栗塚)麥ト米トハ本性異ルモ米ノ中ニテ品質ノ同
 シカラサルモノアリ

第三百八十七條 第三百八十一條第二項ニ定メタル他ノ給付カ辨濟
 ノ性質ヲ有セサルトキハ第三百八十四條之ニ適用ス

然レトモ不法ノ理由ノ爲メ與ヘラレタル物又ハ有價物ノ取戻ハ若
 シ其理由カ之ヲ與ヘタル者ノ方ニ於テ不法ナルトキハ許サレヌ
 (栗塚)反譯上ニテ第二項トシタルハ第二號ノ誤リニシテ第三
 百八十一條第二ノ又ハ以下ヲ指ス(委員長)如是ハ反譯局ニ委
 附スルチ宜シトス幾ニ商法ニ於テ著作氏ノ語アリタレバナリ(松
 岡)著作氏ノ語ハ委員長ヘノ投込訴訟ニシテ委員會ハ之ヲ改メ
 サリシ(栗塚)歐文ニハ項ノ字ナルモ此點ハ號ノ所タルベシ(委
 員長)歐文ヲ變セサレバ號トスベカラズ(清岡)商法ニハ號ノ
 字チ入レサルニ決ス(委員長)商法ハ歐文ニ項トアルチ號ト改
 正セシニ付キ著作氏ヨリ項ト改メタシト云フ語アリシカ此所ニ
 於テハ歐文ヲ變ヘサレバ歐文ト反譯字ト異義ニ屬シテハ不可ナ
 リ(栗塚)起案者ニ質問シタルニ號ノ字ナリト云フ返答ナリシ
 モ幾ニ委員會ニ於テ種々議論モアリシヲ以テ報告委員ニ於テハ

此儘ニ呈出シタルカ向後號ト云フ字ノ必要アルナラント思考セ
 リ(渡)商法ニテ項ヲ號トセシトキ著作ノ異論アリシハ歐文ト
 反譯字ト異ナルヲ以テナリシ元ト反譯字ノ當否ハ反譯局ニ委タ
 ルナルニ委員會ノ之ヲ鑒シタルハ委員會力能權ニ涉リタルヲ以
 テ委員會ハ異議スベキニアラズ(尾崎)意義ニ關セサルヲ以テ
 此所ハ號トスベシ(委員長)然リ(清岡)不法ノ原由云々ハ如
 何(栗塚)例ハ或ル人ヲ殺スベシトテ與ヘタル刀劍ノ如キハ取
 戻スヘカラス然ルニ人ヲ殺ス爲ノニ受ケタル刀劍ノ如キハ與ヘ
 シ人之ヲ命セサル以上ハ取戻スコトヲ得(委員長)他ノ給付ノ
 他ノ字ハ除テハ如何(栗塚)必要ナルベシ第三百八十一條第二
 項ノ内ニ於テ今迄配示シタル外ニト云フコトナリ(鶴田)許サ
 レスハ之ヲ許サストスベシ可決ス(委員長)他ノ字ハ何分解釋
 ニ苦ム(著作)此所ハ云々給付ニシテ辨濟ノ性質ヲ有セサルモ

ノモ亦第三百八十四條ヲ適用ストセハ可ナリ

第三百八十八條 第三百八十一條第二號ニ定メタル給付ヲ惡意ニテ
 受ケタル者ハ訴ノ日ニ不當ニ利ヲ得テアリシモノ、外元金ヲ受ケ
 タル時ヨリノ其適法ノ利息、確定物ノ果實及ヒ產物ヲ收取スルコ
 トヲ怠リタルトキト雖モ其果實產物及ヒ自己ノ過愆又ハ懈怠ニ因
 リ生シタル滅失又ハ毀損ハ勿論意外又ハ抗拒スルコトヲ得サル原
 由ニ出ツル滅失又ハ毀損ト雖モ若シ其滅失又ハ毀損カ物ヲ引渡シ
 タル者ノ方ニ於テ生スヘカラサリシトキハ其價金ヲ返還スヘシ
 本條ハ報告委員ニテ之ヲ修正シ第三百八十一條第二號ニ定メタ
 ル給付ヲ惡意ニテ受ケタル者ハ訴ノ日ニ不當ノ利ヲ得テアリシ
 モノ、外左ノモノヲ返還スベシ第一元金ヲ受ケタル時ヨリノ適
 法ノ利息第二確定物ノ果實及ヒ產物但其收取ヲ怠リタルトキト
 雖モ亦同シ第三自己ノ過愆又ハ懈怠ニ因リ生シタル滅失又ハ毀

損ノ償金然ノミナラス意外又ハ毀損ト雖トモ其滅失毀損カ物ヲ引渡シタル者ノ方ニ於テ生スヘカラサリシトキハ其償金トス(村田) 訴ノ日ニト云フハ如何(今村) 先ニ不當ニ得タル金額後ニ至テ訴ノ起リシ日ハ利息ヲ二重ニ拂フモノ、如ク思惟アラル、ヲ以テ起案者ニ問フタルニ起案者ノ答ニ曰ク文字ニ拘泥スルトキハ如是ナルモ決シテ其意味ニアラサルナリト然ルニ此點ハ寧ロ惡意ニテ受ケタル者ハ不當ニ利ヲ得タルモノ、外トスレバ明了ナルベシ(栗塚) 不當ノ所得ハ已ニ返還スベキモ訴日ニ至テ猶ホ利益ノ殘額アルトキハト云フ譯ナリ(今村) 最初不當ニテ得タル金額モ訴ノ日ニ至テ損失アリシトキハ即チ利ヲ得タルモノト云フベカラズ故ニ訴ノ日ハ歸ルベシ(清岡) 訴ト訴ヘサルトニ關セズ返償スベキモノタルチ免レズ(渡) 歸ルベシ(松岡) 不當ニ利ヲ得タルモノ、外トスベシ(栗塚) 不當ニ得タル物ノ

外トシテハ如何(尾崎) 可ナリ遂ニ其議ニ決ス

第三百八十九條 若シ不當ニ受ケラレタル物カ不動産ニシテ且其不動産カ移付セラレタルトキハ之ヲ引渡シタル者ハ自己ノ選擇ヲ以テ或ハ第三占有者ニ對シテ其回收ヲ訴ヘ、或ハ之ヲ移付シタ者ニ對シテ其取戻ヲ訴フルコトヲ得

惡意ノ場合ニ於テハ取戻ハ不動産ノ評價額タリ善意ノ場合ニ於テハ其不動産ニ付キ得タル代價又ハ其代價ノ事ニ關シテ存スル訴權タルノミ

(栗塚) 若シ不當ニ受ケラレタルチ受ケタルトスベシ可決ス且其不動産カノ下ニ第三者ニト云フチ挿入シ之ヲ引渡シタルノ上ニ最初ニト云フチ加フ(尾崎) 評價額ハ必ラズ高價ナリト云フチ得サルニ何故ニ惡意ノ者ハ評價額ニ作ルカ(南部) 惡意者ハ往々低價ニ賣買スル場合アルチ以テナリ(松岡) 惡意ニテ賣リ

シトキハ高價ナルモ償還スヘキトキハ安價タルモノナラシノバ
 悪意者ハ其間ニ利益アルニアラスヤ(栗塚)悪意ニテ取得シタ
 ル當時ノ評價額ナリ(鶴田)評價額ナリ取得ノ代價ナリ其償
 ハ所有者ノ擇ム所ニ任スルヲ得セシメサルベカラズ(尾崎)評
 價額ト云ヘバ却テ悪意者ニ利益アラシムレバナリ(鶴田)善意
 者ト雖トモ現ニ得タル代價ヲ償還スルモノナレバ悪意者ハ現ニ
 得タル代價ハ勿論尙ホ當時ノ評價額ニ於テ上騰セル場合ナレバ
 其評價額ヲモ償還セサルベカラズ(栗塚)特ニ悪意者ノ働キヲ
 以テ得タル利益ヲモ償還セシムルモノトセバ所有者ハ却テ亦タ
 不當ノ利益タルモノトナルベシ(松岡)評價額ハ悪意者力第三
 ノ人へ移付シタル當時ノ代價タルベシ若シ之ヲ今日ノ代價トセ
 バ悪意者ハ賠償ノ利益ヲ得取セサルニ天然ノ代價騰貴シタルカ
 爲ノニ不當ノ利益ヲ得ベケレバナリ(南部)前時ノ評價額トセ

別章二ノ五八

民草二ノ五九

バ其趣旨ヲ特示セサルベカラズ遽ニ尙ホ其主意ヲ起案者ニ質議
 スルニ決ス

第三節 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪

第三百九十條 自己ノ過愆又ハ懈怠ニ因リ他人ニ損害ヲ加ヘタル者
 ハ之ヲ債フノ責アリ

若シ害ト爲ルヘキ所爲力有意ナルトキハ其所爲民事ノ犯罪ヲ成シ
 無意ナルトキハ准犯罪タルノミ

犯罪及ヒ准犯罪ノ責任ノ輕重ハ次章ノ第二節ニ記載シタル如ク合
 意ノ執行ニ於テ行ヒタル誹謗及ヒ過愆ノ責任ト同様ニ之ヲ規定ス

異議ナシ

第三百九十一條 各人ハ自己ノ所爲又ハ懈怠ニ付キ其實ニ任スルノ
 ミナラス尙ホ自己ノ威權ノ下ニ在ル者ノ所爲又ハ懈怠ニ付キ及ヒ
 自己ニ屬スル物ニ付テモ下ノ區別ニ從ヒ其實ニ任ス

第三百九十二條 父權ヲ行フ尊屬親ハ己レト同居スル未成年ノ卑屬
親ノ加ヘタル損害ノ責ニ任ス

後見人ハ其受後見人ノ加ヘタル損害ニ付キ又夫ハ其婦ノ加ヘタル
損害ニ付キ同一ノ責ニ任ス但右ニ同シク同居ノ條件アルコトヲ要
ス

瘋癲者又ハ白痴者ヲ看守スル者ハ此等ノ者ノ加ヘタル損害ト爲ル
ヘキ所爲ノ責ニ任ス

教師、師長及ヒ工場長ハ未成年ノ生徒、徒弟及ヒ職工カ自己ノ監
督ノ下ニ在ル時間ニ此等ノ者ノ加ヘタル損害ノ責ニ任ス

此條ニ指定シタル人ノ責任ハ若シ其人カ害ト爲ルヘキ所爲ヲ防止
スル能ハサリシコトヲ證スルトキハ止ム

(今村)本員ハ夫ハ其婦ノ加ヘタル云々ヲ刪除セント云フニア

リ此點ハ人事篇ニ示定セル所ナルベケレバ其權限モ區別生スベ
キガ此所ハ婚姻サヘ爲シタルトキハ如何ナル婦カ如何ナル時ニ
爲シタルコトモ夫其實ニ任スト云フ蓋一法ヲ立ツルハ不可ナリ
婦ト雖トモ性々夫ニ勝ルモノナキニアラス(栗塚)普通法ハ如
此ナラサルベカラス日本ノ習慣ハ家族ノ過失ハ戶主ノ責ニ任セ
リ特ニ婦女ハ從來三從ト云フ風習モアレバナリ又刑法ニモ婦女
ハ瘋癲白痴ト列記セラレタリ(今村)人ノ所爲ニ付キ責ニ任ス
ルト云フハ余程理由ナクンバアラス佛國ノ如キハ幼者ニ對シテ
之ヲ權禁スルヲ得ベキコトアルト共ニ又其實ニ任スベキカ夫婦
ノ如キニ於テハ然ルコトヲ得サルナリ又條約改正ノ曉ニハ外國
ノ女性ヲ娶ル如キアルベシ其場合ニ於テハ此法ヲ以テスレバ充
分ニ其妻ヲ取締ラサルヘカラス充分ノ權力ヲ加ヘサレバ取締リ
ヲ得サルベシ(栗塚)日本ノ習慣ニ於テハ婦ノ所爲ハ夫其實ニ

任セサレバ夫ハ社會ニ立テ得サル場合アリ殊ニ日本ノ婦ノ如キ
 財産アルモノ少ナシ勢ヒ夫ノ責ニ歸セサレバ其償ヲ得サルモノ
 ニシテ夫ハ又其實ニ任セサルベカラズ（渡）婦ニ財産ナキヲ以
 テ其賠償ヲ爲スヲ得サルヲ以テ婦ハ悉ク夫ノ下ニ立タサルベカ
 ラズト云フ譯ナシ財産アル婦モ譯山アルベケレバナリ（松岡）
 凡テ財産上ノ關係ニ由ラサルベカラズ從來ノ婦ニハ財産モアラ
 サルヲ以テ實際夫ノ妻ノ過愆ニハ責任ヲ負ハサルベカラス人事
 篇ニ於テ規定立ツニアラサレバ此ニ確定スベカラス（南部）此
 點ハ過愆ノミナラズ故意ニ損害ヲ與ヘタルモノナリ下等輩ニ至
 テハ婚姻モ簡易ノ間ニ成立ツモノナレバ充分其女ノ身元ヲ詮議
 スルニ違アラサルコトアリ如此妻女カ尙險シタル爲ノニ夫其實
 ノニ任スヘキハ斷ナリ違ニ此點ハ刪除ニ決ス

第三百九十三條 主人及ヒ親方工事、運送又ハ其他ノ給務ノ企作人

公私ノ事務所ハ其召使人職工、使用人又ハ職員カ己レニ委任セラ
 レタル職務ヲ行フニ付キ又ハ之ヲ行フニ斷シニ加ヘタル損害ノ責
 ニ任ス

本條ハ報告委員ニテ親方トアル下へ又ハノ二字ヲ入ル運送ノ下
 又ハノ二字ヲ刪ル（清岡）給務ト云フハ如何（栗塚）此所ハ主
 人ト召使人ト親方ト職工工事運送其他ノ給務ノ企作人ト使用人
 公私ノ事務所ト職員ト總稱スルナリ（渡）兵士カ野外ノ演習ニ
 損害ヲ與ヘタル田野ハ官衙ヨリ之ヲ償却セリ即チ此條ノ精神ニ
 恰當ス

第三百九十四條 動物ノ加ヘタル損害ノ責任ハ其所有者又ハ損害ノ
 當時ニ於ケル其使用者ニ歸ス但意外ノ事變又ハ不可抗力ニ出ツル
 モノハ此限ニ在ラス

（委員長）不可抗力ノ取除ハ通則ヲ以テ示スベキニ各條ニ記示

セルハ如何(南部)此條ハ騎兵ノ如キ上手ノ者ト雖トモ其實チ免ル、チ得サルモノニシテ明記セサルヲ得ス

第三百九十五條 建物、露臺又ハ其他ノ築造シタル工作物ノ所有者ハ此等ノ工作物ノ墮倒力修繕ノ調無又ハ建築ノ瑕疵ノ結果ナルトキハ其墮倒ニ因リ加ヘタル損害ノ責ニ任ス但此等ノ場合ニ於テ企作人ニ對スル求償權アルトキハ之ヲ行フコトヲ訪ケス

堤ノ破潰ニ因リ又ハ樹木、柱竿、目隠、看板、屋瓦及ヒ建物ノ墮率ヲ缺キタル其他ノ部分ノ墮倒ニ因リ加ヘタル損害ニ付テモ又投舖又ハ繫纜ノ宜キヲ失ヘル船舶又ハ小舟ニ因リ加ヘタル損害ニ付テモ亦同一ノ責任アリ

(栗塚)柱竿ハ竹竿ノコトナリ(鶴田)其他ノ部分ハ建物ノ上ニ置カサレバ不明ナリ(尾崎)此點ハ漠然例示シタルニ付キ原案ノ儘ニテ可ナリ其他ヲ建物ノ上ニ轉置スレバ樹木ノ墮率ヲモ

欠キタルト云フ如クナルベシ遂ニ其他ノト建物トチ互ニ轉置スルニ決ス

第三百九十六條 既脱後見ナルト否トヲ問ハス未成年者ハ其有意又ハ不注意ニテ加ヘタル不正ノ損害ノ全部又ハ一分ニ付テハ刑事上ノ責任ヲ免ルヘキトキト雖モ民事上責任アリト宣言セラル、コトヲ得

其未成年者ハ亦其召使人若クハ屬員又ハ自己ニ屬スル物ノ加ヘタル損害ニ付キ民事上其實ニ任セシノラル但後見人ニ對スル求償權アルトキハ之ヲ行フコトヲ訪ケス

本條ハ報告委員ニテ其未成年者ノ上ニ又ノ字ヲ入レ其下ノ亦ノ一字ヲ刪ル(栗塚)不正ノ損害ト云フハ刑事上ニ屬スルヤノ嫌ヒナキニアラサルモ決シテ然ラサルニ付キ掛念アリトセバ之ヲ改置セラレタル(清岡)宣言セラル、コトヲ得ト云フハ宜シカ

ラズ（栗塚）裁判所カ責任アリトモ無シトモ宣言スルヲ得ベシ
 依テ宣言セラル、コトアリトシテモ可ナリ（委員長）セラル、
 コトアリト云フモ裁判所カ立入ルヘキヤ否ノコト不明ナリ（栗
 塚）宣言スルコトヲ得トシテハ如何（松岡）未成年者ノ有意云
 ヲ宣言スルヲ得トセサレバ不可ナリ然ルニ宣言セラルコトアリ
 トス（鶴田）職員ト云フ字アルモ如是ハ如何ナル場合カ（栗塚）
 工業所トカ云フモノヲ所有セシコトアルベケレバナリ（渡）第
 二項ハ未脱後見ヲテ意味スヘキモ此等ハ相當ニアラサルヘシ（栗
 塚）権限中ノ乳兒カ娯傳ノ過失ニ付キ其實アリト云フ結果アル
 ニ於テハ不都合ナルカ此點ハ十五六歳ノ者ヲ想像シタルモノナ
 リ其實ニ任セシノラルトアルハ任セシノラル、コトアリト修正
 ス

第三百九十七條 前數條ニ定メタル場合ニ於テ若シ害ト爲ルヘキ所

爲テ爲シタル者カ其所爲ニ付キ自身ニ責任アリト看做サル、コト
 ヲ得ルトキハ裁判所ハ其者ニ對シ主タル裁判ヲ言渡シ且民事上責
 任アル人ノ從タル義務ノ廣狹ヲ定ム但民事上責任アル人ヨリ犯罪
 者ニ對スル求償權アルハ當然ナリ
 他人ノ所爲ニ付キ民事上責任アル人ハ法律ヲ以テ特ニ定メタル場
 合ニアラサレハ犯罪者ニ對シ言渡サルコトアルヘキ罰金ノ責ニ任
 セス

（栗塚）但民事上責任アル人ヨリ云々ハ從タル義務者ヨリ主タ
 ル責任アル人ニ求償權アルヲ示セリ又二項ハ假令バ家僕カ賭博
 シタル爲メ罰金權ニ處セラル、コトアルモ主人ハ其刑ニ付キ責
 任ヲ被ラシノラレサルヲ云フ（鶴田）犯罪者ハ民事犯罪者ナル
 カ（栗塚）民刑包含セル犯罪者ナルカ損害賠償ノ點ヨリ瞰下シ
 タルトキハ民事犯罪ノモノトナレリ

第三百九十八條 此節ニ定メタル總テノ場合ニ於テ若シ數人カ同一ノ所爲ニ付キ實ニ任シ各自ノ過愆又ハ懈怠ノ部分ヲ知ルコト能ハサルトキハ其義務ハ連帶ナリ

具議ナシ

第三百九十九條 若シ民事犯罪又ハ准犯罪カ同時ニ刑法ヲ以テ罰セラル、犯罪ヲ成ストキハ犯罪者其者ニ付テモ又民事上責任アル人ニ付テモ刑事訴訟法ヲ以テ定メラレタル如キ民事ノ訴ノ管轄及ヒ時効ニ關スル規則ヲ遵守ス

報告委員ニテ末文ノ守ストアルヲ罰リ規則ニ違フト改ム可決ス
又定メラレタルノラレテ罰ルニ決ス

第四節

第四百條 或ル義務ハ現時ノ所爲ニ拘ハラヌ法律ニ依リ負ハシノラル即チ左ノ如シ

民事二ノ六四

或ル親屬及ヒ姻屬ノ間ノ養料ノ義務

宥恕又ハ免除ヲ許サ、ル場合ニ於テ後見ヲ爲スノ義務

共有者ノ間及ヒ相隣者ノ間ノ義務カ地役ヲ爲サ、ルトキ其義務

此等ノ義務ハ之ニ特別ナルモノニ付テハ其關係アル事項ニ於テ之

ヲ定ム

(果塚) 宥恕即チハ報告委員ニテ之ヲ罰ルベシト云フ説アリ佛

國ノ如キハ宥恕モ免除モ同一ニシテ二種ナケレバナリ然ルモ別

ニ修正案ヲ呈出セサルニ付キ先ツ原案ノ儘ニ附セラレタシ(清

國) 共有者ノ間ノ義務云々ハ如何(果塚) 之ヲ日本文ナレバ共

有者ノ間ノ義務相隣者ノ間ノ義務トシテ但シ其地役ヲ成サ、ル

トキト記スヘキナリ(鶴田) 地役ノ義務ニアラサルトキト云フ

コトカ(果塚) 然リ物權タラサル義務ニシテ地役ヨリ生スル人

權ヲ云フ(鶴田) 免除ヲ許サ、ル場合ニ於テ後見ヲ爲スノ義務

トハ如何(果塚)之ヲ日本文ニスレバ後見ヲ爲スノ義務但シ免
 除ヲ許サルトキト記スヘキナリ然ルニ斯ク修正セバ限ルトカ
 云フ文字ヲ置キタシ即チ三項四項ハ果塚説明委員ノ説明ノ儘ニ
 可決ス(清岡)此等ノ義務ハ之ニ特別ナルモノニ付テハ云々ト
 云フハ宜シカラズ(委員長)之ニ特別ナルヲ其特別ナルモノト
 スベシ可決ス(委員長)第四節法律ト云フハ一般ヲ云フナレバ
 法律ト云フベキカ義務ノ内ノ法律ナル故法律上ノ義務トテモ爲
 サ、レバ宜シカラズ(果塚)此點ハ三百十六條ノ第四ヨリ出タ
 ルモノニシテ其所ニ法律ノ條例トアレバ此節ニハ法律ト云フテ
 可ナルニアラスヤ(南部)法律上ノ義務ト云ヘハ不當ノ利得ノ
 如キモ不當ノ利得ノ義務ト云ハサルヲ得サルニ至ラン(委員長)
 此點ハ人カ命シタル義務ニアラズ法律カ命シタル義務ト云フコ
 ト知り難ニアラスヤ(渡)法律ト云フノミニテハ解シ易カラサ

民草二ノ六五

ルヲ以テ意義ヲ寄セサル以上ハ舊案ノ如クシタシ(鶴田)第三
 百十六條ニ法律ノ條例トアレバ此所モ法律ノ條例トシタシ各員
 同可ナリ(清岡)第三百十六條ニアル法律ノ條例ト云フ條例ノ
 字ヲ刪リ此所モ法律トシタシ(委員長)可ナリ(清岡)第三百
 十六條ニアル法律ノ條例ト云フ條例ノ字ヲ刪リ此所モ法律トシ
 タシ(委員長)法律ニ依リ負ハシメラルヲ負ハシムトスベシ可
 決ス(委員長)或ル親屬云々ノ義務ノ字ヲ後項ト等シキ例ニシ
 タシ(果塚)原案ノ通りニテ可ナルベシ

第二章 義務ノ効力

前置條例

第四百一條 義務ノ主タル効力ハ下ノ第一節第二節及ヒ第三節ニ記
 載シタル區別ニ從ヒ其義務ノ直接ノ履行ノ爲ノ又不履行ノ場合ニ
 於テハ從トシテ損害賠償ノ爲ノノ訴權ヲ債權者ニ與フルニ在リ

右ノ外義務ノ前記ノ効力ニハ第四節ニ定メタル如キ義務ノ種類ノ
様體ニ隨ヒテ廣狹アリ

(松岡)契約ノ効力ト云ヘバ可ナルモ直接ニ義務ノ効力ト云フ
ハ如何(栗塚)然ルトキハ契約ノミニ義務ノ生スルコトナリ不
當ノ利益杯ヨリハ義務ノ生スルヲ見ルベカラサルニ至ラン又曰
此以下ハ義務ノ履行ト若シ不履行ナル場合ニハ損害賠償
ヲ得ルトノ二種ニ付キ配示セリ且ツ様體ハ反譯上ニテ様體トナ
ルベシ(松岡)様體ハ當ラズ(松岡)第三百二十八條ニ於テハ
様體トアリ(栗塚)此兩形ハ大ニ差異アリ

第一節 直接ノ履行ノ爲メノ訴權

第四百二條 義務ノ方式及ヒ實旨ニ從ヒ其義務ノ履行力債權
者ヨリ求メラレ且債務者ノ身體ヲ拘束セスシテ得ラル、コトヲ得
ル總テノ場合ニ於テハ裁判所ハ其直接ノ履行ヲ命スルコトヲ要ス

引渡スヘキ有體物ニシテ債務者ノ財産中ニ在ルモノニ關シテハ裁
判所ノ威權ヲ以テ之ヲ差押ヘ債權者ニ引渡ス

行フヘキ所爲ニ關シテハ裁判所ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之
ヲ行ハシムルコトヲ債權者ニ許ス

爲サ、ルノ義務ニ關シテハ債權者ハ義務ニ背キ爲サレタルモノヲ
亦債務者ノ費用ヲ以テ毀滅セシメ及ヒ將來ノ爲メ適當ナル處分ヲ
爲スコトヲ許サル

總テノ此等ノ場合ニ於テ損害アルトキハ其賠償ヲ爲サシムルコト
ヲ訪ケス

債務者ニ對スル強制執行ノ方法ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス
本條ハ報告委員ニテ第四項爲サ、ルノ上ニ又ノ一字ヲ加ヘ債務
者ノ上ノ亦ノ一字ヲ刪除セリ(松岡)方式トハ何ヲ指スカ(栗
塚)契約ノ公正證書ヲ要スヘキアリ又双方ニ證書アルベキヲ要

スベキアリ即チホルムニ從ヒト云フコトナリ(鶴田)此四項ノ
末文許サルハ許ストスベキニアラズヤ(南部)然カスレバ義務
ニ背キ爲サレタルモノヲ爲シタルトセザルヘカラズ遂ニ其修正
ヲ可トシテ尙ホ處分ヲ爲スコトヲ下ヘ債權者ニノ四字ヲ入ル
(鶴田)實旨トハ何ソ(栗塚)契約書面ニアル主旨ト云フコト
ナリ

第三百二十九條 本條ハ舊ニ起案者ヘ質議ニ附シタルカ即チ其改正
案ナリ(南部)二項ハ改正案可ナリ(清岡)三項ハ如何(松岡)
明示及ヒ默示ニテ與ヘタル期間満了シタルトキハ取消スヲ得サ
ルナリ(清岡)四項ハ實ニ究屈ナルモノナリ假令ハ申越サレタ
ル繼承知ス暫時勸考ノ次第アルニ付キ何日間待タレタシト云フ
返書ヲ發シタルトキハ彼ノ提供者ヘ之ヲ他賣スルヲ得サルナリ
(委員長)此四項ノ暗示トアルハ默示トスベシ可決ス(栗塚)

一項ノ末文ハ之ヲ受諾スルコトヲ得トシタシ(清岡)提供者カ
受諾スルコトヲ得トナルニアラスヤ(栗塚)其者之ヲ受諾スル
コトヲ得トシテハ如何(委員長)其者ト云フハ受諾者ヲ指スカ
明カナラス受諾者之ヲ受諾スルヲ得ト云バ精明了ナルベシ(村
田)原案ノ儘ヲ可トス遂ニ其者之ヲ受諾スルヲ得トス二項ハ云
々之ヲ取消スコトヲ得トス三項ハ許與セラレテ許與シタルトス
(鶴田)四項ノ其受取トアルハ如何(南部)提供ノ受取リナリ
(清岡)其受取リハ不必要ナリ(栗塚)承知シタト云フコトヲ
云ヒ送ルコトニシテ受取書ヲ發スルコトニアラズ又曰受取ヲ出
シト云フ中ニ即チ云々述ヘタルトキハテ包含セルモノニアラズ
事口即チ以下云々述ヘタルトキ迄ヲ圖ルベシ圖ラサレバ即チハ
又ハトセザルヘカラズ遂ニ其受取ヲ出シタルトキ即チノ數字ヲ
刪除ス(松岡)五項ノ即チ書込ノ四字ヲ圖ルベシ提供ヲ爲シタ

ル者カトシテ明了ナレバナリ可決ス

第二節 損害賠償ノ訴權

第四百三條 債務者ノ義務履行ノ拒絕又ハ其實ニ歸スヘキ義務履行ノ不能ノ場合ハ勿論履行ノ遲延ノミノ場合ニ在テモ債權者ハ強制執行ノ圖無ニ於テハ債務者ニ對シテ損害賠償ノ言渡ヲ得
法律ヲ以テ損害賠償ヲ定メタル場合ノ外當事者ノ之ヲ定メサリシトキハ下ノ區別及ヒ條件ニ從ヒ裁判所ヨリ之ヲ定ム

(鶴田) 執行ノ欠無トハ如何(栗塚) 執行シ得サルトキナルヘキモ其場合ト云フニハ執行スルコト能ハサルト之ヲ爲シ得ルモ爲サ、ルトアルベシ故ニ執行シ能ハサルトモ言雖キ故欠無ト云シナルベシ(委員長) 損害賠償ノ言渡ヲ得トアルハ債務者之ヲ得ルカ如キ雖ヒアルニアラズヤ(清岡) 裁判所カ債務者ニ對シ其言渡ヲ爲スタ云フモノナリ(栗塚) 英文ニテハ債務者ニ對ス

民事二ノ六八

ル損害賠償ノ言渡ヲ得トセルカ此所ハ債務者ヲシテ損害賠償ヲ言渡サルコトヲ得トシテハ如何(松岡) ソハ裁判所ニ命令スル様ニナルベシ違ニ債務者ヲシテ損害賠償ノ言渡ヲ爲サシムルヲ得トス(清岡) 損害賠償ノ言渡トハ場合ヲ云フカ金額ヲ云フカ(栗塚) 場合ヲ云フナリ

第四百四條 損害賠償ハ債務者カ第三百五十六條ニ從ヒ遲滞ニ付セラレタル後ニアラサレハ之ヲ負擔ス

然レトモ若シ義務カ爲サ、ルモノナルトキハ債務者ハ當ニ當然遲滞ニ在リ

(鶴田) 爲サ、ルハ不爲ノ義務ナルヘシ不爲トシテハ如何(栗塚) 所爲無爲ト云フ字ハ用ヒサルコトニ決セリ(南部) 爲サ、ルト爲シ來レリ

第四百五條 一般ニ損害賠償ハ債權者ノ受ケタル損失ノ價金ト失ヒ

タル利補トヲ包含ス

然レトモ若シ不履行又ハ遲延カ讒議ナク即チ惡意ナクシテ債務者ノ懈怠ノミニ出ツルトキハ損害賠償ハ當事者カ合意ノ時ニ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得タリシ損失又ハ利得ノ喪失ノミヲ包含ス惡意ノ場合ニ於テハ損害カ不履行ノ避クルコトヲ得サル結果タルトキハ豫見セラレサルモノト雖トモ債務者其賠償ヲ負擔ス（鶴田）不履行ノ避クルコトヲ得サル結果タルトキハ云々トハ如何（栗塚）履行セザルトキハ現當ニ損害アルベキモノナルモ履行スルチ得サル場合ノ結果ト云フ譯ナリ（村田）間接ノ損害賠償ハ如何（栗塚）間接ト云フト損害賠償ノ程度ヲ明ニスルコトヲ得サル故起業者ハ間接トハ云ハサルナリ（清岡）豫見シ豫見スルコトヲ得タリシト云フハ等シク豫見シタルコトナルベシ故ニ豫見スルコトヲ得ベカリシト云ハサルベカラズ（栗塚）豫

見セントスレバ豫見スルコトヲ得ベキモノト云フコトナルカ其意味ヲ失ハサレバ修正スルモ可ナルベシ（鶴田）豫見セラレサルモノト云フ所ハ豫見スルチ得ベカラサルモノマテモト云フ譯ナラサルベカラズ（栗塚）惡意ノ場合ハ豫見スベカラサルモノモ豫見スベクシテ豫見セサルモノト云フニ意味スベシ原文ニテハ豫見シテナカリト云フ字ナリ（委員長）二項ニハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトシタルヲ以テ三項ニ於テモ豫見シ得サルトシテハ如何（栗塚）此點ハ得ル得サルノ點ヲ云ヒシモノニアラズ（委員長）豫見セラレサルト云フニ豫見スルチ得サルノ意味モ包含セルモノトハ思惟シ難シ（村田）例ハ植木師ニ命シテ芭蕉ノ霜除チ爲サシム植木師已ムチ得サル事故ヲ以テ之ヲ爲サ、ルトキハ其芭蕉ハ霜氣ニ枯葉スト云フハ豫見スルチ得ヘキモノナリ又其植木師惡意ヲ以テ其手入チ爲サ、ル爲ノ芭蕉枯敗シ其腐

液ヨリ他ノ植木マテモ枯敗セシムルニ至テハ所謂豫見スルヲ得
サル場合ナリ三項即チ悪意ノ際ハ其場合マテモ損害賠償ノ負擔
ヲ免ルヘカラサルモノトス（清岡）豫見セサリシト修正スベシ
（栗塚）愈修正スヘクンバ反譯局ヘ附セラレタシ可決ス

第四百六條 損害賠償カ主タル訴ノ目的タルトキハ裁判言渡ハ金額
ニテ其高チ定ム

若シ損害賠償カ直接ノ履行ノ爲ノノ訴又ハ解除ノ爲ノノ訴ノ從ト
シテ請求セラル、トキハ裁判所ハ主タル請求ヲ決スルニ當リ不足
ノ損害賠償ヲ給與スルコトヲ得其請算ハ差出スヘキ證明ニ依リ日
後爲サル、爲ノニ之ヲ留保ス

又裁判所ハ債務者ニ直接ノ履行ヲ命スルニ當リ其履行ノ爲ノ極度
ノ期間ヲ定メ若シ此期間ヲ過クレハ確定、裁判ヲ爲スヘシトシテ
遲延ノ各日又ハ各月毎ニ條件附ノ償金ヲ債權者ニ給與スルコトヲ

得

此終ノ場合ニ於テハ債務者ハ當ニ即時ノ清算ヲ促カスコトヲ得

（栗塚）報告委員ニテ三項ノ確定裁判ヲ爲スヘシテ確定ニ決ス
ベシト修正セシハ原案ノ通りニテハ確定裁判アル如ク見ユルヲ
以テナリ（委員長）一項ハ異議ナカルベシ（輪田）日後爲サル
、爲ノニ之ヲ留保ストハ如何（清岡）日後清算スルヲ得ベキモ
ノト爲シ置クト云フコトナリ（委員長）第二項ノ給與スルコト
ヲ得トアルハ妥當ヲ得タルヤ（栗塚）賠償スベシト云フ譯ナリ
（委員長）裁判所カ給與スル如クナルニアラスヤ（栗塚）不定
ノ賠償ナルヲ以テ裁判上ニテ之ヲ給與スルモノナリ（南部）給
與ノ字ヲ言渡シトスレバ可ナリト可決ス又日後爲サル、ハ爲ス
ヘキト修正ス（松岡）直接履行ヲ命スルモノヲ履行セサルトキ
ハ裁判所之ニ猶豫ノ期限ヲ置キ損害賠償ヲ與フベシト云フベキ

モノニアラズ直接ニ履行スヘキモノ即チ物品引渡ノ如キモノハ
必ラズ直接ニ履行セシメサルベカラズ償金ヲ給與シテ現物ノ引
渡ヲ止ムルカ如キコトアルニ至テハ社會ノ契約ハ甚薄弱ナル力
ヲニ隔ルベシ故ニ此點ハ審判ニ審テ依頼シタルカ如クナルベキ
モノカトモ想像セラル(南部)此場合ハ從タル損害賠償ノ請求
ニ關スルヲ以テ本件ノ履行不履行ニ關セサルナリ(栗塚)四項
ハ行フベキ義務ニ關スベキナリ然ルニ三項ハ行フベキ義務ニ止
マラズ總テノ義務ヲ指シタルモノナリ(松岡)此點ハ尙ホ起案
者ニ質問シタシ(栗塚)然リ(清岡)遲延ノ各日云々ハ期間後
ノ事ト思惟セシニ期間内ト云フ解釋アルハ如何(栗塚)期間内
ナリ假令ハ今日ヨリ十日限りニ爲スベシ今日ヲ過キタレバ償金
ヲ要求スベシト約セシニ其十日ヲ過キテ爲サ、ルニ至テ其期間
内ノ各日ニ當ル損害賠償ヲ求ムルモノナリ(南部)三項ニ給付

民事二ノ七一

スルヲ得トアルハ給與スルノ旨渡ヲ爲スコトヲ得トセサレバ前
項ト約合ハズ違ニ三項ハ給與スルノ旨渡ヲ爲スコトヲ得トシ前
項ハ給與ヲ旨渡スコトヲ得トス(委員長)各日各月ハ毎日毎月
トスベシ可決ス

第四百七條 若シ當事者ニ遲延又ハ不履行ニ關シ互相ノ非理アルト
キハ裁判所ハ損害賠償ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

原案通

第四百八條 當事者ハ豫メ通知約款ヲ設ケ不履行又ハ遲延ノミテ豫
見シテ損害賠償ヲ規定スルコトヲ得

(松岡)ノミト云フ字ハ遲延ノミノノミカ(栗塚)然リ單純ノ
遲延ノミト云フ譯ナリ故ニ又ハ單ニ遲延ノミテ豫見シトスルヲ
可トス(南部)ソレニテハ豫見力不履行ヘ關セサルナリ(栗塚)
然レハ單ニ遲延ヲ云々トシノミノ二字ヲ除テ可ナリ(橋田)過

怠約款ハ商法ニ於テハ損害賠償ニアラズ此所ハ過怠約款ノ註解
カ損害賠償ナリ

第四百九條 裁判官ハ決シテ過怠約款ヲ増スコトヲ得ス又履行カ一
部分アリシトキ又ハ不履行若クハ遲延カ債務者ノ過怠ノミニ出テ
サルトキニアラサレハ過怠約款ヲ減スルコトヲ得ス

(栗塚) 裁判官ノ字ハ反譯上ニテ判事ト改正ス(清岡) 一部ノ
履行アリシモ不明ニ屬スルコトアルカ其時ト雖トモ過怠約款ヲ
減スルヲ得ルカ(南部) 得ズトアリ(栗塚) 品ニ依ルベシ假令
ハ賣ハ人首ノミ出シモ用ヲ爲サ、ルカ米拾俵ヲ收ムベキニ或ハ
一俵ヲ得タルトキハ其一俵ハ之ヲ減スルヲ得ベシ

第四百十條 雙務即チ雙務ノ契約ノ場合ニ於テ義務ノ不履行ノ爲ノ
過怠ヲ要約シタル債權者ハ其解除ノ權利ヲ失ハス但債權者カ明確
ニ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

民事二ノ七二

債權者ノ過怠ノミノ爲ノニ過怠ヲ要約シタルトキニアラサレバ解
除ト過怠トヲ併ハスコトヲ得ス

(委員長) 雙務即チ雙務ト云フ加キハ總体ニ最初ニ詳示シタル
トキハ其他ハ之ヲ推シ及スコトヲ得ル様ニシタシ(尾崎) 損害
賠償ヲ得タルトキハ之ヲ解除スルヲ得ルカ(栗塚) 遲延ノ爲ノ
過怠ヲ要約シタルトキニアラサレハ解除スヲ得サルナリ(鶴田)
不履行ノ爲ノ過怠金ヲ出シタルトキハ契約ノ解除モ受ケサルヲ
得ス其時解除セサルトキハ如何(栗塚) 解除スルヲ以テ不履行
ナリニ獨クヲ得ベシ(松岡) 馬匹賣買ノ契約ニ於テ馬ヲ賣ラサ
ルトキハ如何(栗塚) 其時ハ罰金ヲ得ヘキ筈ナルモ其罰金ヲ要
ノスシテ契約ヲ解除スルコトヲモ得(松岡) 馬正ヲ賣ラサルト
キハ買者ハ賣者ニ對シテ罰金ヲ取ルヲ得ヘキヲ以テ契約ヲ済了
シタルニアラズヤ其時ニ至テハ最早解除ト云フベキコトナシ(

果塚一契約不履行ノ時ハ罰金ヲ取ルコトモ得又罰金ヲ得ス其契約ヲ廢止スルコトヲモ得（松岡）罰金ヲ得ス契約ヲ廢止スルハ權利者全損タルニアラスヤ（南部）過怠金ヲ收ノス契約ヲ解除シタルトキハ損害賠償ヲ得ル能ハサルヘシ（果塚）過怠金ヲ要セズ最初ヨリ契約ナキモノトナル然ルニ其契約アリシ爲ノニ他ヨリ馬ヲ買フヲ得サル爲メ損害アルニ付キ契約執行ニ關スル訴ハ之ヲ爲スヲ得サルモ爲ノニ損害ヲ被リシ點ハ別ニ損害賠償ヲ得ルヲ妨ケサルナリ（村田）此點ハ債權者カ過怠金ヲ得取スルモ又解除シテ損害賠償ヲ得ルトスルモ豫山所ニ從テ得ベシ（松岡）二者其一ヲ豫ムカ如キハ債權者ハ利益アルヘキモ債務者ハ實ニ困迷ナル場合ニ遭遇スベシ（南部）不動産賣買ノ契約ノ際代金ヲ請取ラサル場合其不動産買者ノ名ヲ以テ登記セラレタルトキハ些少ノ過怠金ヲ取り登記上取戻シテ配セザレバ其不動産第三

民事二ノ七三

者ノ手中ニ移ルヲ以テナリ（委員長）合意上此契約不履行ノ時ハ過怠金ヲ取ルト云フ確然タルモノアルニ其過怠金ヲ取ラス契約ヲ解除シテ損害賠償ヲ得ヘシト云フコトヲ爲シ得ルカト云テ極ノサルベカラズ（松岡）南部委員ノ舉例ニ於テ不動産賣買ノ論アリシカ稍確實ノ例ナリト雖トモソレモ最初ニ契約未タ履行シ了ラサル趣チ附記セサルベカラズ故ニ最初得取シタル罰金ヲ以テ第三者ニ移轉シタル不動産ヲ取戻スベキ權利アリト云ハザルベカラズ（南部）賃貸借ニ於テ之ヲ見ルニ賃借人大ニ違約シタルトキハ過怠金ヲ取ルヲ得又解除スルヲモ得ヘシトセサルベカラズ（果塚）解除權ヲ失ハシムル如キ結果アルニ至テハ驚愕ニ堪ヘサルナリ（委員長）後段過怠金ヲ取ル時ニシテモ解除スルコトヲモ得ヘキニ付キ解除ニ屬シタル契約即チ損害賠償ヲモ爲スヘキニ至ラン然ラバ過怠金ト損害賠償ト併得スルニ至ルノ

不都合アリ(栗塚)過怠金ヲ得テ契約ヲ解除スルコトモ得ベシト云フニ過キズ(委員長)然レバ前段ニ於テ解除スレバ損害要債ヲ得ヘシトハ認ムベカラサルニアラスヤ(南部)後段ノ解除ハ過延ニ關セズ解除ト云フハ履行ト不履行トニ關スルモノナレバ即チ不履行ノ解除ト云ハザルベカラズ(委員長)然レバ債務者ニ對シテ過延ニ於ケル過怠ト尙ホ不履行ナル場合ニハ解除スルヲ得ト云フ二段ノ請求ヲ爲スベキニ至レバ過延ノ過怠金ト不履行ノ爲ノ解除シテ損害賠償ヲモ要請セラル、ハ苛酷ナルニアラスヤ(栗塚)過延ト不履行ト二種ノ不都合アレバナリ(鶴田)然レバ後段ハ文章不明ナルベシ(南部)解除ハ不履行ニ關スルト云フコトハ原則アルヲ以テ混雜セサルナリ遂ニ再議ニ附スルトナリ未決ニ止ム

第四百十一條 義務カ金額ヲ目的トスルトキハ過延ノ爲ノノ損害賠償

民事二ノ七四

債ハ裁判所ニ於テ利息ヲ適法ノ割合ト異ナル高ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス但法律ヲ以テ取除キタル場合ハ此限ニ在ラス
若シ當事者カ自ラ損害賠償ヲ規定スルトキハ當事者ハ合意上ノ利息ノ最上限ノ割合ヨリ以下ノ高ヲ定ムルコトヲ得然レトモ其以上ノ高ヲ定ムルコトヲ得ス

(鶴田)適法ノ割合トハ標準ナクンバアラス(栗塚)起業者ハ六朱ノ割合トセリ合意上ハ千圓以上ハ一割ノツモリナリ(委員長)過延ノ爲ノノ損害賠償トアルモ不履行ノ場合ハ如何(栗塚)金額カ其目的タルトキハ不履行ナシ假令身代限ニ至ルモ之ヲ得取スルヲ以テナリ(渡)以下ノ高ヲ定ムルコトヲ得ト云フハ不用ナルヘシ復言セシニ過キサレバナリ(清岡)然レトモノ字ノ如キハ尙ホ不用ナリ然ルニ違ニ原案ニ決ス

第四百十二條 此等ノ損害賠償ヲ得ル爲ノニハ債權者ハ何等ノ損失

チモ證明スルノ責ニ任セス又債務者ハ意外ノ事又ハ不可抗力ヲ證スルコトヲ許サレヌ

(果塚) 又以下ハ債務者ニハ意外ノ事又ハ不可抗力ヲ證スルコトヲ許サストセハ更ニ明了ナルベシ(村田) 物品ナラバ不都合ナキモ金額ナルヲ以テ其情實ヲ許サ、ルナラン違ニ債務者ノ下ヘ「ニー」ノ字ヲ挿入スルニ決ス

第四百十三條 遲延ノ利息ヲ生セシムル爲ノ必要ナル付遲滞ハ右利息ノ裁判所ニ於ケル請求又ハ債務者ノ特別ナル追認ノミヨリ生スルコトヲ得但法律方當然此利息ヲ生セシムル場合及ヒ法律力備告ノミニ因リ又ハ之ニ等シキ所爲ニ因リ此利息ヲ生セシムルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

(南部) 右利息ノ裁判所ニ於ケルト云フハ裁判所ニ於ケル其利息ノ云々トスルニ決ス

第四百十四條 要求スルコトヲ得ヘキ元金ノ利息ハ増補ノモノナルト遲延ノモノナルトヲ問ハス滿期ト爲リタル一今年ノ後ニノミ爲シ且此ノ如ク年毎ニ爲シタル特別ノ合意又ハ裁判所ニ於ケル請求ニ憑リ及ヒ其時ヨリ後ニアラサレバ利息其モノニ利息ヲ生セシムル爲ノ之ヲ元金ト爲スコトヲ得ス

然レトモ家屋又ハ土地ノ借賃、無期又ハ終身ノ年金權ノ利子、果實又ハ產物ノ返還ノ如キ滿期ト爲リタル入額ハ一今年未滿ニ於テ負擔セラレタルトキト雖モ請求又ハ合意ノ時ヨリ利息ヲ生スルコトヲ得

債務者ノ免責ノ爲ノ第三者ヨリ拂ヒタル元金ノ利息ニ付テモ亦同シ

(果塚) 本條第一項ハ要求スルコトヲ得ヘキ元金ノ利息ハ増補ノモノナルト遲延ノモノナルトヲ問ハス利息其モノニ利息ヲ生

セシムル爲ノ之ヲ元金ト爲スコトヲ得ス満期ト爲リタル一
 年ノ後ニ爲シタル合意又ハ裁判所ニ於ケル請求且此ノ如ク年毎ニ
 爲シタル請求ノ爾後ニアラサレバ利息ヲ元金ニ組入ル、ヲ得ス
 (村田)一年分ノ利子ニアラサレバ元金ニ繰込ムヲ得スト云フ
 譯カ(松岡)六ヶ月分ノ利息ニテモ一年間ヲ經過スレバ元金中
 ニ算入スルヲ得ベシト云フ譯ナリ(栗塚)昨年一月一日ノ貸金
 ハ其年十二月卅一日ハ其利子ヲ元金ニ組入ル、ヲ得サルモ今年
 ノ一月一日ヨリ元金ニ入ル、ヲ得ベキナリ(南部)中間一年ヲ
 經過スルニアラサレバ元金ニ繰入ル、ヲ得ス(委員長)然ルベ
 シ(栗塚)此點ハ歳ノ終リニアラサレバ爲スベカラズ六月トカ
 七月トカニハ組入ヲ爲サス一年ノ終リナルヲ要ス(清岡)然リ
 故ニ二項ニ於テハ此等ハ一周年未滿ニ於テモ利息ヲ生スヘシ民
 法履論ニ更ニ一周年ノ後ト云フニアラズト云フコトアルヲ以テ

民事二ノ七六

中一周年ヲ過キサルモ可ナリ(委員長)満期一周年ノ後ト又年
 毎ニト云フ二様ニハアラズヤ(栗塚)歐文ニテハ毎年裁判所ニ
 請求スルカ否ノ點不明ナリ(清岡)合意ハ毎年々々之ヲ爲サ、
 ルモ最初一度之ヲ爲シ置ケハ足レルニアラスヤ若シ其合意ヲ肯
 ンセサレバ度々裁判所ニ訴ヘサルヲ得スト云フハ甚煩累ニ關ス
 ヘシ(栗塚)此ハ高利貸ヲ制スルマテニシテ必要ナリト云フベ
 シ且借人ヲシテ成ルヘク返金ヲ意ラシメサルヲモ保護スルモノ
 ナリ遂ニ一項ハ「満期ト爲リタル」ヲ刪リ一周年ノ上ニ毎ノ一字
 ヲ置キ毎一周年ノ後ニノ下半年毎ニマテヲ刪リ及ヒテ且ツト修正
 ス(鶴田)負擔セラレタルトキト雖ハ負擔シタルトキト雖トモ
 トシタシ(栗塚)一周年未滿ノ負擔タルトキト雖トモトスベシ
 可決ス

第三節 擔保

第四百十五條 何人ニテモ物權ト人權トヲ問ハス一箇ノ權利ヲ付與シ又ハ付與セント約シタル者ハ讓渡以前ノ原由又ハ讓渡人ノ責ニ歸スヘキ原由ニ基キタル總テノ追奪又ハ權利ノ總テノ妨礙ニ對シ其權利ノ完全ナル行用及ヒ自由ナル收益ヲ保シ即チ擔保スルノ責アリ

擔保ニ二箇ノ目的アリ即チ第三者ノ主張ニ對スル讓受人ノ防禦即チ擔保及ヒ防止スルコト能ハサリシ妨礙並ニ追奪ノ償金はナリ
(委員長)二項ノ意義ハ如何(果塚)讓渡人ハ讓受人ヲ保護セサルベカラサルノ義務アルヲ以テ第三者ノ主張ヲ拒止シタルモ
第三者ノ理由ニ屈シタルトキハ追奪ノ償金ヲ出サ、ルヲ得サルナリ

第四百十六條 擔保ハ有價名義ノ所爲ニ於テハ特別ノ要約アラサルトキハ當然負擔セラル又擔保ハ無價ノ所爲ニ於テハ之ヲ約束シタルトキニアラサレハ存セス

民草二ノ七七

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル要約ノ爲ノニモ讓渡人自ラ讓受人ニ妨礙ヲ加ヘサルコトヲ要ス又讓受人ハ擔保ナクシテ爲シタル讓渡ノ以前ト雖モ己レノ付與シタル權利ニ憑リ第三者ノ加ヘタル總テノ妨礙又ハ追奪ノ擔保人タリ
讓渡人ノ相續人ハ右ニ均シキ義務ニ服ス

本條ハ報告委員ニテ又ノ下擔保ハノ三字ヲ刪ル(鶴田)要約アラサルトキハト云フハ要約アルニアラサレバトシタシ(果塚)歐文ノ意ハ反對ノ要約ナキトキハト云フ譯ナリ即チ反對ノ要約ナキトキトス(果塚)二項ノ己ノ付與シタル權利ニ憑リ云々トス
甲者自己ノ家屋ヲ丙者ニ讓渡シタルニ其讓渡前己ニ之ヲ乙者ニ其權利ヲ附與シタル場合ヲ云ヒシナリ其場合ハ乙者ヨリ丙者ニ加フベキ妨害又ハ追奪ニ對シテハ甲者其擔保人タラサルヲ得

サレナリ(渡)譲渡後ニ其權ヲ第三者ヘ付與シタルトキハ如何
(栗塚)其際ハ讓渡人之ヲ擔保スルコト勿論ナリ又曰己レノ、
字ヲ副リ第三者ニノ字ヲ押増シ權利ニ憑リノ下ヘ其ノ字ヲ加ヘ
テハ如何可決ス

第四百十七條 買主及ヒ質借人ノ爲ノ賣主及ヒ質貸人ノ擔保並ニ共
同派分者ノ互相ノ擔保ニ特別ナル規則ハ其擔保ヲ生スル契約及ヒ
所爲ノ事項ニ於テ之ヲ定ム

異議ナシ

第四百十八條 他人ト共ニ又ハ他人ノ爲ノニ義務ヲ負擔スル者ハ保
證連帶及ヒ不可分ノ事項ニ於テ規定セラレタル如ク他人ノ免責ノ
爲ノ辨濟シタルモノニ付キ擔保ノ求償權ヲ有ス
又債權者ノ一人カ連帶又ハ不可分ノ義務ノ全キ高チ受ケタルトキ
ハ他ノ債權者ハ他ノ特別ナル訴權ノ缺無ニ於テハ其一人ノ收メタ

民事二ノ七八

ル利益ノ分與ニ付キ之ニ對シテ擔保ノ訴權ヲ有ス

(栗塚)本條第一項ハ日本人ノ感情ニ於テハ裏面ニ出ツルノ情
況アルモノ、如シ假令ハ甲者アリ乙者ニ負債アルトキ丙者其保
證人ナリシニ丙者ハ甲者ニ代テ之ヲ乙者ニ辨濟シタルトキハ甲
者ハ丙者ニ對シテ擔保ノ責任ヲ有スヘシ故ニ丙者ハ甲者ニ對シ
テ擔保ノ求償權ヲ有スルモノナリ(鶴田)二項ノ闕無ト云フハ
如何(栗塚)假令ハ甲乙丁戊數人連帶又ハ不可分ニテ丙者ニ債
權ヲ有スルトキ丙者債權者ノ一人ニ對シテ負債ノ全部ヲ償却シ
タルトキハ債權者中其償還ヲ受ケサル一人ハ他ノ償還ヲ受ケサ
ル徒ノ代理權等ノ訴權ヲ以テ請求スルヲ得サルトキハ擔保ノ訴
權ヲ以テ請求スベシト云フニアリ(清岡)二項他ノ特別ナル訴
權云々ハ負債者ニ對スル訴權ノ如ク思惟セラル、ニアラスヤ(栗
塚)然レバ他ノ特別ナル訴權ノ闕無ニ於テハト云ヘルヲ之ニ

對シテノ下ニ轉置スレバ如何可決ス（委員長）一項ノ意義ハ字面上ニテハ不明了ニアラスヤ（栗塚）爾後ハ總テ字面上ノミニテハ決シテ明了ナラス惟他ノ關係ヲ照應シテ了解スルニ過キズ

第四百十九條 擔保ニ付キ權利ヲ有スル者ハ其訴ヘラレタル當時ニ於テ民事訴訟法ニ定メタル方式ニ從ヒ擔保人ノ訴訟參加ヲ請求スルコトヲ得

保證人債權者ニ對シテ辨濟シタルニ付キ債權者ハ保證人ニ對シテハ擔保人ナリ即チ擔保ニ付キ權利ヲ有スルモノハ其保證人ナリ（渡）保證人ハ債權者ノ辨濟ヲ保證スルカ（栗塚）日本ノ現行法ニテハ債權者債權者ニ對シテ身代限りトナラサレバ保證人ハ其實ニ任セサルモ佛國ニ於テハ債權者返濟期限ニ返濟セサルトキハ直チニ保證人ニ係ルヲ得ベシ（渡）夫故債權者ハ其保證人ニ擔保者トナルカ（栗塚）然リ

民事二ノ七九

第四百二十條 若シ擔保人カ訴訟ニ參加セシメラレサリシトキハ追奪ヲ受ケ又ハ他人ノ債務ヲ辨償シタル者ハ主タル辨權ヲ以テ擔保ノ訴ヲ爲スコトヲ得但擔保人カ請求ヲ却下セシムルニ有効ナル方法ヲ有セシコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

（清岡）擔保人カト云フチ擔保人ヲトセサルヘカラズト即チ擔保人ヲトシ又ラレノ二字ヲ刪ル（尾崎）擔保人カ請求ヲ却下セシムルニ有効ナル方法云々トハ如何（南部）參加人自分ニ於テ其訴訟ニ參加シタルトキハ其訴訟ハ云々ノ次第ヲ以テ被告ノ敗訴トナル理由ナシト證明シ被追奪者ノ請求ヲ拒否スルヲ得ヘキナ云フ（委員長）追奪ヲ受ケトハ如何（栗塚）例ハ家宅ノ買主カ第三者ニ其家宅ヲ追奪サレタルトキハ賣主ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スヲ得ヘキモノナリト云フニアリ

第四節 義務ノ諸種ノ種類

第四百二十一條 義務ノ効力ハ下ノ諸款ニ記シタル如ク義務ニ左ノ區別アルニ從ヒテ改様セラル

第一 義務ノ成立ニ關シテ單純ナリ有期ナリ又ハ條件付ナルトキ

第二 負擔シタル目的ニ關シテ單一ナリ擇一ナリ又ハ任意ナルト

キ

第三 債權者又ハ債務者ノ數ニ關シテ單一ナリ又ハ複合ナルトキ

第四 義務ノ本性又ハ其履行ニ關シテ可分ナリ又ハ不可分ナルト

キ

備方並ニ受方ノ連帶ノ効力及ヒ合意上ノ不可分ノ効力ハ債權ノ抵保トシテ第四編ニ之ヲ規定ス

(清國)上文ニナリ々々トアリテ結尾ユナルトキト云フハ宜シ

キヤ(南部)文例アリ(松岡)義務ハ原因ニシテ効力ハ結果ナ

リトシ原因異ルニ從テ其結果同シカラスト云フ意ナルカ(南部)

然リ(清國)贊成者ナキモ本員ハ「ナリ」「ナル」等ハ皆ナル

トキト一定シタシ式ハナリ々々ヲ除テ單純トシ有期トシテ切點

ヲ附シタシ遂ユナリヲ劃リ切點ヲ附ス

第一款 成立ニ關シテ單純ナリ、有期ナリ又ハ條件付

ナル義務

第四百二十二條 義務ノ成レル當時ヨリ其成立カ保セラレ且其要求

スルヲ得ヘキコトカ即時ナルトキハ其義務ハ單純ナリ

(栗塚)保セラレトハ確カナリト云フ意ナリ確的ニシテ未來ニ

關セサル義務即チ條件附ニアラス期限ナシト云フモノナリ的確

トセサルハ現知スルト云フニ了解セラレンコトヲ恐レテナリ

第四百二十三條 債權者カ成ル時期前又ハ到來期節ハ不確實ナルモ

到來スルニ相違ナキ定マリタル事件前ニ履行ヲ求ムルコトヲ得サ

ルトキハ其義務ハ有期ナリ

期限カ當事者ニ因リ定メラレ又ハ法律ニ因リ與ヘラレタルトキハ
其期限ハ權利上ノ期限ト稱セラル

若シ債務者カ自己ノ爲シ得ヘキ時又ハ自己ノ欲スル時ニ辨済スベ
シト言ハレタルトキハ裁判所ハ債權者ノ請求ニ因リ狀況及ヒ當事
者ノ推定セラレタル意思ニ從ヒ履行ノ爲ノ期間ヲ定ム但當事者カ
無期ノ年金權ヲ設ケント欲シタル場合ハ此限ニ在ラス

(果塚)本條三項言ハレタルトキトアルハ報告委員ニテ定メア
ルトキト修正ス(南部)末項ノ狀況ノ下ヘ推定シタル當事者ノ
意思ニ從ヒト修正シタシ可決ス(松岡)權利上ノ期限ト云ヒシ
ハ如何(果塚)意思上ノ期限ニアラサルヲ區別セリ(果塚)第
四百二十一條改竊セラルハ改竊ストシテ可ナリ本條ノ期限ト稱
セラルヲ稱スト修正ス又辨済スベシト言ハレタルトキト云ヘバ
債務者カ云々言ハレタルト云フ辨ヒアルヲ以テ定メアルト修正

民草二ノ八一

ス何トナレバ書面ニ云々記シアルトキハト云フ意ナレバナリ(一
清岡)但書ハ必要アルカ(果塚)必要ナルヘシ(委員長)推定
シトハ何カ推定スルカ(南部)裁判所カ推定スル意義ナリ(委
員長)事柄ハ國ヨリ裁判官ノ推定スベキコトハ明カナリト雖ト
モ何分裁判官ノ推定トハ認メ難シ佛文ニテハ裁判官ノ推定シタ
ル意思トアルカ當事者ノ推定シタル意思トセサレバ意思ハ當事
者ノ意思ニシテ推定ハ裁判官ノ推定ト云フニハ認メ難シ(果塚)
推定シタルノ文字ヲ除テ之ヲ讀メバ當事者ノ意思ト云フコト判
然スベシ又曰但以下ノ意義ハ甚タ明了ナラサルモ無期ノ年限ハ
元金ヲ請求スルヲ得サルモノニシテ例ハ公債證書ハ政府ニ向テ
元金ヲ返償スベシト云フヲ得サルモ債務者ノ方ヨリ之ヲ返償ス
ルヲ得ベキモノナレバ債務者ヨリ返償スベシト云フトキハ格別
ナルベシト云フ意ナリ故ニ債權者カ此期限ヲ定メシコトヲ望ム

ヲ得サルモノナレハ裁判所ニ向テ期限ヲ定ムルコトヲ請求スル
ヲ得ス又裁判所モ其期限ヲ定ムルヲ得サルモノナリ

第四百二十四條 債務者ハ期限ノ利益ヲ拋棄シ滿期前ニ其義務ヲ履
行スルコトヲ得但契約ニ因リ又ハ事實ノ狀況ニ因リ期限ハ當事者
雙方ノ利益又ハ專ラ債權者ノ利益ノ爲メ定メラレタルコトカ證セ
ラル、トキハ此限ニ在ラス此終ノ場合ニ於テハ債權者モ亦期限ヲ
拋棄スルコトヲ得

當事者ガ錯誤ニ因リ滿期前ニ辨濟シタル場合ハ第三百八十六條ニ
之ヲ規定ス

(清岡) 此終ノ場合ハ如何(栗塚) 債權者ノ利益ノ爲メト云フ
點ヲ指セリ

第四百二十五條 債務者ハ左ノ場合ニ於テ權利上ノ期限ノ利益ヲ失
フ

第一 若シ債務者カ破産シ又ハ顯然無資力ト爲リタルトキ

第二 若シ債務者カ其財産ノ多分ヲ移付シ又ハ其多分カ他ノ債權
者ヨリ差押ヘラレタルトキ

第三 若シ債務者カ自己ノ供シタル特別ノ抵保ヲ毀滅シ若クハ減
少シ又ハ自己ノ約束シタル抵保ヲ供スルコトヲ缺キタルトキ

第四 若シ債務者カ填補ノ利息ヲ拂フコトヲ缺キタルトキ
(栗塚) 本條ハ日本ニ必要ニシテ債權身代限ノ爲メニ損失ヲ受
クルカ如キ憂ヲ免レシメントス(委員長) 特別ノ抵保ト云フハ
如何(南部) 起案者ノ註示ニテハ例バ山林地面ヲ書入レシトキ
其山林地面ニアル材料ヲ採伐シタルトキノ如キヲ云フト(栗塚)
特別ノ字ニハ別ニ意義ナカルヘシ(南部) 前項ハ一般ニ屬シ此
項ハ特別ニ屬スル差アリ(村田) 第三ノ場合ニ於テ債務者天災
ノ爲メ其抵保ヲ毀滅シタルトキハ如何(南部) 更ニ之ヲ填補セ

シムレバ可ナリ（栗塚）此所ハ天災ノ毀滅ハ包含セサルナリ（清岡）無期ノ年金ノ如キハ債務者ノ此境遇ニ陥リタルトキハ如何（栗塚）年々ノ利息ヲ領收スルモノハ如是場合ハ債務者期限ノ利益ヲ失フモ其元金ニ對シテハ仕方ナシ（南部）其點ハ第千三百八十八條ニ示セリ（清岡）例バ三年ノ期限アルトキニ於テスラ其期限ヲ失スルモノナレバ無期限ノ場合ハ固ヨリ其利益ヲ受ケサルベカラズ（松岡）然ルベシ（南部）無期ノモノハ期限ノ利益ヲ得ル云ハシ（栗塚）請求ノ爲セルト否トハ格別期限ナキモノハ此期限ノ利益ヲ受クベキ理由ヲ見サルナリ（松岡）無期ノ際ト雖トモ裁判所へ出訴シタルトキハ裁判所ハ其請求ヲ可認セサルヘカラス（南部）然リ破産ノ場合ニ至テハ其分配ヲ受クルニ差支ナシ（栗塚）債權者カ裁判所ニ向テ期限ヲ定メンコトヲ請求スルヲ得ヘキニ無期限ノモノト雖トモ破産ノ際ニ至

民草二ノ八三

テハ其利益ヲ受ケ得ラレサル云ハレナシ（委員長）無期年金ノ件ハ第千三百八十八條ニ示セルヲ以テ足レルカ第四百二十三條若シ以下ノ際ハ本條ノ支配ヲ受ケサルベカラズ（南部）期限ト云フモノハ裁判所ニ請求スルニアラサレバ期限ノ生スルモノニアラズ期限未ダ生セサルモノニシテ此條ノ支配ヲ受クベキ理由ナシ

第四百二十六條 權利上ノ期限アルト否トヲ問ハス又執行力アル證書アルトキト雖モ若シ債務者ノ不奉及ヒ善意ナルトキ且債權者カ猶豫ノ爲メ顯實ナル損害ヲ受ケサルヘキトキハ裁判所ハ債務者ニ相應ノ恩惠期間ヲ許與スルコトヲ得
又裁判所ハ右ト同一ナル條件ニ從ヒ債務ノ一分ヅ、ノ履行ヲ許スコトヲ得

右ニ反スル總テノ要約ハ無効ナリ

(編田) 要約ヲ無効トスルハ如何(南部) 裁判所ニ於テ恩惠期
間ヲ得ルモ之ヲ受クベカラサルベシト云フ約東アルモ其約束ハ
無効ナルベシ(栗塚) 此條アルニ依リ債務者ハ恩惠ノ保護ヲ被
ルモノナリ(松岡) 顯實ナル損害ヲ受ケサル證據ヲ立テサルヘ
カラサルカハ實ニ迷惑ト云フベシ(村田) 損害ノ有無ヲ債權者
ニ問フベシ(栗塚) 然リ(渡) 債務者ノ延期ヲ顯出テタルトキ
裁判官ハ債權者ヲ召シテ其損害ノ有無ヲ問フベシ其時債權者損
害アル旨ヲ申立テタルトキハ如何(栗塚) 其時ハ裁判官ニ於テ
情況ヲ看察セサルベカラス(渡) 看察ニ依テ裁判官ハ損害ナシ
ト認ムルトキハ債務者ニ恩惠期限ヲ與フルハ其得失如何ソヤ(一
清岡) 不幸ト轉意トニ依テ恩惠期間ヲ與フルハ亦タ弊害ナシト
セズ凡ソ人情ハ弱者ヲ助クルノ傾キアルモノナレバ自ラ裁判官
ニ愛護心ヲ生セシムルニ至レバナリ(南部) 本頁ノ大阪神戸ノ

間ニ在リシ際外國人カ日本ノ裁判所ハ原告ニ自該セヨト云フ
コトアルモ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ爲サシノサルハ如何ト云フ
疑團ヲ□ノルコトアリ且ツボアソナードハ此點ニ於テ特ニ之ヲ
配示シタルモノナレバ存在セシムベシ(松岡) 起案者ハ佛國民
法ノ不足ナル點ヲ補シタリト云ヘルカ此條ハ可ナルベシ

第四百二十七條 恩惠期間ヲ得タル債務者ハ第四百二十五條ニ定メ
タル理由ノ爲メ且其他左ノ場合ニ於テモ其恩惠期間ヲ失フ

第一 若シ債務者カ逃亡シ又ハ其住所ヲ去リテ債權者ニ其居所ヲ
隱秘スルトキ

第二 若シ債務者カ一年又ハ更ニ長キ禁錮ニ處セラレタルトキ

第三 若シ債務者カ判決ヲ以テ負ハシノラレタル條件ノ一ヲ行フ
コトヲ缺キタルトキ

第四 若シ債務者カ適法ノ相殺力爲サレ得ヘキ場合ニ於テ自ラ其

債權者ノ債權者ト爲リタルトキ

恩惠期間ハ裁判所ニ因リ延ハサル、コトヲ得ス

(要塚)本條ハ第四百二十五條ト共ニ其制裁ヲ示シタリ(渡)恩惠上ノ期間云々ハ如何(要塚)一度延期シタルトキハ再ヒ延期スルヲ得ス(鶴田)第四ハ如何(要塚)恩惠期間アレバ相殺ハ爲ヌヲ得サル如ク見ユルモ之ヲ爲スニ差障ナシト云フニアリ其際會ニハ恩惠ノ期間ハ消滅スルモノナリ遽ニ相殺カチ相殺ヲト修正ス

第四百二十八條 當事者又ハ法律カ義務ノ起生又ハ其解除ヲ未來ニシテ且不断的確ナル事件ニ關セシムルトキハ其義務ハ條件付ナリ第一ノ場合ニ於テハ條件ハ停止ト稱セラレ又第二ノ場合ニ於テハ解除ト稱セラル

又主タルト從タルト之間ハス物權ハ停止又ハ解除ノ條件ニシノラ

ル、コトヲ得

(要塚)本條ハ報告委員ニテ二項主タルノ上ニ物權ハノ三字ヲ挿入シ間ハスノ下物權ハノ三字ヲ刪ル可決ス又停止ト稱セラルヲ稱シトシ解除ト稱セラルヲ稱ストシ條件ニ從ハシノラル、ヲ從ハシムト修正ス(尾崎)金圖ヲ得タルトキハ他日之ヲ買フベシト云フハ停止ナルモ之ヲ買ハサルトキハ解除ナルベシ(清岡)否ラズ(委員長)又ノ字ヲ刪ルベシ即チ刪除ス

第四百二十九條 預見セラレタル事件カ成就スルトキハ停止ノ條件ハ合意ノ日ニ遡リテ効アリ

解除ノ條件ノ成就ハ當事者ヲシテ合意前ノ互相ノ地位ニ復セシム(要塚)報告委員ニテ停止ノ條件ハ豫見セラレタル云々トセリ可決ス豫見セラレタルハ豫見シタルト修正ス

第四百三十條 停止又ハ解除ノ條件カ成就セサル間ハ當事者ノ各自

ハ合意ノ目的ニ付キ自己ノ權利ト同一ナル條件ニ從フタル權利ヲ
付與スルコトヲ得

然レトモ條件カ第三百六十七條及ヒ其下ノ條ニ記載シタル公示ノ
方法ヲ以テ知ラシメラレタルニアラサレバ當事者ノ一方又ハ其承
權人ヨリ他ノ一方ノ承權人ニ之ヲ對抗スルコトヲ得ス

（果塚）本條第二項ハ報告委員ニテ「及ヒ其下ノ條」ノ六字ヲ
刪リ以下ト修正ス可決ス（南部）付與ノ上ニ第三者ノ字ヲ挿入
スレバ更ラニ明了ナルヘシ（松岡）付與ハ移付ニアラズ（果塚）
譲渡ト云フニ過キズ（清岡）之ヲ對抗スルヲ得ストハ如何（果
塚）條件ヲ對抗スルヲ得サルナリ（委員長）第三者ハ挿入セザ
ルカ（果塚）挿入セサルモ可ナリ即チ挿入セサルコトトス（鶴
田）二項ハ條件ノ上ニ其ノ字ヲ挿入シ條件ノ下カチヲトスヘシ
可決ス（尾崎）當事者ノ一方云々ハ如何（果塚）假令ハ甲乙間

ニ條件付ノ契約アリ乙ハ之ヲ丙ニ譲リ甲ハ之ヲ丁ニ譲リシトキ
ハ乙丙者ハ其條件ヲ丁ニ對抗スルヲ得ズ（尾崎）甲ニ對シテハ
如何（果塚）甲ハ固ヨリ條件ヲ知得セルモノ故之ニ對抗スルヲ
得ズ（委員長）之ヲ對抗スルヲ得スト云フハ之ニト云ハサレバ
不明ナルニアラズヤ（果塚）條件ヲ向附ケルコトヲ得スト云フ
意味ナリ（松岡）之ヲノ二字ヲ置カサルモ條件ヲト云フコトハ
知ルベシ何トナレバ起願ニ其條件ヲト云フコトアレバナリ（果
塚）然ラハ其條件ハト云ハサレバ明カナラス

第四百三十一條 解除ニ從フヘキ權利ヲ有スル者ノ善意ニテ且法律
ニ從ヒ爲シタル管理ノ所爲ハ第三者ノ利益ノ爲メニ維持セラル
第三者ト解除セラル、コトアルヘキ權利ヲ有スル當事者トノ間ニ
爲サレタル判決ハ他ノ當事者又ハ其承權人ニ因テ援唱セラル、コ
トヲ得然レトモ右ノ判決ハ他ノ當事者又ハ其承權人カ異議ヲ述フ

ル爲ノニ召喚セラレサリシトキハ之ニ對抗セラル、コトヲ得ス但
其判決力管理ノ所爲ノミニ關係スル場合ハ此限ニ在ラス

(栗塚)本條ハ稍ヤ文字外ニ想像ヲ及サ、ルヲ得サルモノアリ
例ハ前段ハ甲者解除條件ヲ以テ自己ノ家宅ヲ乙者ニ賣渡シ乙者
ハ其家屋ヲ丙者ニ賃借ス其内甲者ノ解除條件到着セシヲ以テ甲
乙ノ契約ハ解除セラルベシ然ルニ丙者ハ其當時乙者ニ向テ借家
賃ヲ支拂ヒシニ於テハ甲者ハ丙者ニ向テ其利益ヲ支ヘサルベカ
ラズ又後段ハ乙者ノ家屋ヲ丙者ニ賣レリ甲者之ヲ第三者即チ丙
者ニ向テ曰此家ハ乙者ノ所有ニアラズ此契約ハ解除スベシトア
リシトキハ他ノ當事者ナルヘキ乙者及ヒ乙者ノ相續人ハ自己ノ
利益ニ於テハ甲丙者間ニ受ケタル裁判ヲ利用シテ丙者ノ所有ナ
リシト云フヲ得ヘシ然ルニ右ノ判決ハ乙者及ヒ乙者ノ相續人異
議ヲ述フル爲ノニ召喚セラレサリシトキハ乙者及ヒ其相續人ニ

對抗スルヲ得ズ(松岡)前段ニハ解除ニ從フヘキトアリ後段ニ
ハ解除セラル、コトアルベキトアリテ同シカラズ須ラタ一定ス
ベシト即チ前段ヲ解除セラル、コトアルヘキト修正ス(清岡)
之ニ對抗セラル、コトヲ得ストハ如何(栗塚)此點ハ人ヲ指シ
タリト雖トモ充分明了ナラス故ニ其當事者及ヒ承繼人ニ之ヲ對
抗スルコトヲ得ストセバ稍明了ナルベシ(松岡)承繼人カチテ
トシテハ如何(清岡)後段ハ無用ナリ(栗塚)乙者及ヒ其承繼
人ノ爲ノニハ大ニ利益アリ(清岡)若シ必要ナレバ明了ニ修正
ヲ加ヘサルヘカラズ(委員長)之ニ對抗スルヲ得スハ不明ナリ
(南部)前條ノ之ヲノ二字ヲ知ラシメタルノ上ニ釋置スレバ可
ナルニアラズヤ(委員長)前條二項ハ然レトモ其條件ハトスレ
バ下ノ之ヲノ二字ヲ除クモ可ナルベシ(栗塚)之ヲノ二字アラ
サレバ向附ケルト云フ働キヲ示サ、ルヘシ(委員長)此等ノ場

合ニハ之ヲ以テトセザルヘカラズ（栗塚）前條二項ノ然レトモ
其條件ヲハカトシテハ如何（清岡）對抗ノ字ハ向附ケルト云フ
意義ノ妥當ナル文字ヲ採擇シタシ（栗塚）尙ホ詮議スベシ述ニ
本條ハ假ニ栗塚説明委員ノ修正説ノ如ク其當事者又ハ承權人ニ
之ヲ對抗スルヲ得ストス

第四百三十二條 條件カ成就スルトキハ物又ハ金額ヲ引渡シ又ハ返
還スヘキ當事者ノ一方ハ其條件ノ成就セサル時間ニ於テ收取シ又
ハ満期ト爲リタル果實若クハ利息ヲ供給スルコトヲ要ス但當事者
ノ之ニ反スル意思ノ證據カ狀況ヨリ生スルトキハ此限ニ在ラス
（委員長）意思ノ證據カ狀況ヨリ生スルトキトハ狀況證據カ（栗塚）
然リ默示ノ如キ反證ヲ云フ（鶴田）引渡ス義務ハ如何（栗塚）
引渡スベキ停止ノ條件ハ往時ニ溯リ例ヘバ賣解スベキ契約アル
家屋ノ未タ賣附セサル以前領收シタル家賃ノ如キハ引渡ノ當時

民草二ノ八八

後日契約セシ以後ノ家賃ヲ悉皆引渡サ、ルヘカラズト云フニア

リ

第三百八十九條 第二項ハ起業者ニ告聞シタルニ更ラニ改案シ來レ
リ

第四百六條 （栗塚）本條二項ハ松岡委員ノ説ノ如ク行フベキ義務
即チ書工カ書ヲ書ク所ナラント云ハレシ點ヲ以テ起業者ニ告聞
シタルニ起業者ハ意見ハ賣附スベキ契約スルモ或ハ其契約者ノ
財産中ニ存セサルモノモアルベケレハ履行フベキ義務ノミナラ
ズ引渡シノ義務ニシテ其引渡スベキ物件ノ賣者ノ財産中ニアラ
ズト云フ場合ヲモ包含ス

第四百三十三條 若シ合意ノ主タル目的カ不能又ハ不法ノ條件ニ從
フトキハ其合意ハ無効ナリ
條件ハ當事者ノ一方カ或ハ禁セラレタル所爲ヲ行ヒ又ハ本分ヲ封

止スルニ因テ之ニ利スヘク或ハ禁セラレタル所爲ヲ封止シ又ハ本
分ヲ行フニ因テ之ニ害スヘキトキハ其條件ハ不法ナリ

若シ不能又ハ不法ノ條件カ合意ノ從タル効力ノミニ關係スルトキ
ハ之ニ關スル約款ノミ不成立ナリ

(栗塚)本條二項ハ報告委員ニテ「之ニ利スヘク」ヲ「之ニ利
スヘキトキ」ト修正ス(渡)所爲ヲ封止シト云フハ自ラ行ハサ
ルヲ云フカ(栗塚)然リ又曰二項ノ當事者カ或ハ禁セラレタル
所爲ヲ行ヒトハ例ハ政府ノ秘密文書ヲ他人ニ告知スルカ如キ又
ハ本分ヲ封止スルニ因テ之ニ利スヘキトキト云フハ例ハ政府ニ
差出スベキ書類ヲ差出サズシテ自ラ利スルトキヲ云フ(松岡)
或ハ禁セラレタル所爲ヲ封止シトハ例ハ賭博ハ禁制物ナリ其禁
制物ヲ封止シテ爲サ、ルニ依リ害アルトキ即チ之ヲ爲ストキハ
利アルノ結果ニ至ルトキヲ云フナランカ(南部)然リ(清岡)

本分ヲ封止スルト云フハ甚不明ナリ何トナレバ本分ハ自ラ動ク
モノナレバナリ(栗塚)然ラハ本分ヲ行ハサルト修正シテハ如
何可決シテ前段ハ行ハサルトシ後段ハ行ハズト修正ス(松岡)
之ニ利スヘキ之ニ害スヘキト云フハ之ヲト云フカ如クナルニア
ラスヤ(栗塚)外ニモ文例アレバ論議ノ上一定スベシ

第四百三十四條 偶然ノ條件及ヒ全部又ハ一分ニ於テ要約者ノ意ニ
關スル條件ハ其成就ヲ訪ケタル者カ諾約者ナルトキハ成就セシモ
ノト看做サル

(栗塚)要約者ノ意ニ關スルトハ要約者自身カ云々シタトキハ
ト云フコトニシテ本條ハ偶然ノ條件ト又要約者ノ意ニ關スル條
件ノ全部又ハ一部ナルトナリ(南部)一分ニ於テハ一分カトシ
タシ(鶴田)意ニ關スルト云ヘバ心配ト云フ如クニシテ任意ノ
意味ニアラズ(栗塚)意ニ關スルトハ修正スベカラサルカ(尾

崎)意ニ任スルトシテハ如何可決ス(松岡)他ノ條ニ於テモ能ク詮議ヲ盡シ同一ニ修正スヘシ(栗塚)全部又ハ一分ニ於テハチカト云フハ却テ不可ナリ(鶴田)全部又ハ一部トハ如何(栗塚)例バ競馬ノ時ニ馬三疋ヲ出サント云フニ當テ三疋出スヘキハ全部ナリ若シ一疋ヲ出スヘキハ一部ナリ(南部)意ニ任スルノ修正ハ原案ノ儘ニ据置カレタシ(栗塚)全部又ハ一分カ要約者ノ意ニ關スルトスレバ宜シキニアラスヤ(鶴田)意ニ關スルハ如何ニモ不明ナリ任意ト云フ熟字アレバ意ニ任スルトスベシ違ニ云々一分カトシ意ニ關スルハ任スルノ修正ニ決ス又看做サルハ看做スト修正ス

第四百三十五條 若シ條件カ隨意即チ當事者ノ一方ノ意ノミニ關スルトキハ他ノ當事者ハ若シ條件カ成就セスシテ經過スレバ其條件ハ缺ケタリト看做サルヘキ期間ヲ定メント裁判所ニ請求スルコト

ヲ得

(栗塚)本條ノ意ノミニ關スルハ任意ニアラサルベシ例ハ汝チハ網渡リヲ爲スタ得ルカト云ヘハ網渡リハ其人ノ膂力ニ關スルモノニシテ任スルモノニアラサルナリ若シ任意カ妥當ナリトシテ修正セラルベキハ格別意ニ關スルト云フヲ得サルモノトハ云フベカラズ(清岡)前條ノ如キハ意ニ關スルト云ハサレバ何分宜シカラズ(南部)兩條共暫ク未定ニ措クベシ可決ス(渡日)本條ノ意義ハ如何(栗塚)例ハ旅行シタルトキハ自己ノ馬匹ヲ賣讓スベシトシタルニ爾後未ダ旅行セサルトキハ契約ノ期間ヲ定メンコトヲ請求スベシ

第四百三十六條 若シ有爲ノ條件カ或ハ當事者ニ因リ或ハ裁判所ニ因リ或ル定マリタル時期ニ制限セラレタル場合ニ於テ此時期カ事件ノ到來スルコトナクシテ過キタルトキハ其條件ハ缺ケタリト看

做サル又條件ノ成就ノ爲メニ定メタル時期アルト否トヲ問ハス事
件ノ成就スルヲ得サルコトカ的確ト爲リタル時ヨリ其條件ハ缺ケ
タリト看做サル
或ル定マリタル時期ニ制限セラレタル無爲ノ條件ハ豫見セラレタ
ル事件カ其定マリタル時期ニ於テ到來セサルトキハ成就セルモノ
ノ看做サル又其條件カ定マリタル時期ノアルト否トヲ問ハス事件
ノ到來セサルコトカ的確ト爲リタル時ヨリ成就セルモノト看做サ
ル
右何レノ場合ニ於テモ當事者ノ定メタル期間ハ判事ニ因リ延ハサ
ル、コトヲ得ス

(栗塚)末項判事ニ因テ延ハサル、コトヲ得スト云フハ反譯上
ニテ判事之レヲ延ハスコトヲ得スト修正セリ(南部)看做サル
ハ皆一樣ニ看做ストシタシ可決ス(栗塚)本條ハ一項若シ有爲

ノ條件カヲヲトシ或ハチ制リ當事者ノ下「ニ因リ或ハ」チ制リ
「又ハ」トシ、裁判所ニ因リテ裁判所カトシ時期ニ制限セラレ
テ制限シトシ二項ノ制限セラレモ同ク修正シ豫見セラレモ豫見
シト修正スレバ宜シト可決ス

第四百三十七條 若シ當事者ノ一方又ハ雙方共ニ條件ノ成就シ又ハ
缺タル前ニ死亡シタルトキハ合意ハ其相續人ニ對シ備方又ハ受方
ニテ存留ス但條件カ其本性ニ因リ又ハ當事者ノ意思ニ因リ要約者
又ハ諾約者ノ一身ノミニ附着シ又ハ負ハシノラレタルトキハ此限
ニ在ラス

(鶴田)本條ハ相續人ニ對シトアルカ第四百三十條ノ如ク當事
者又ハ相續人ヨリ告知セサルヘカラサルカ(栗塚)然リ(鶴田)
第四百三十條ニハ相續人ハ包含セルカ(栗塚)然ラズ彼ノ場合
ハ承權人ハ矢張當事者中ノ者ト視做セリ(鶴田)然リ四百三十

條ハ當事者ノ死後ヲモ云ヒシニアラズ生存中チノミ云ヒシモノ
ナレバナリ

第四百三十八條 其他如何ニ條件カ完成セラルヘキヤ又如何ナル時
ニ於テ條件ハ成就シ又ハ缺ケタリト看做サレ得ルヤチ知ルコトニ
關スル問題ハ當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ從ヒ決セラル其條件
ノ一分ノ成就カ有スルコトヲ得ル効力ニ付テモ亦同シ

(果塚)本條ハ完成セラルチ完成シトシ看做サレテ看做シトシ
意思ニ從ヒノ下ニ之チノ二字ヲ挿入シ決セラルチ決スト修正ス
レバ可ナリ可決ス(渡)其條件ノ一分ノ成就トハ如何(果塚)
例ハ東京ヨリ東海道ヲ經テ西京ニ至ラントスルニ尾州迄至リシ
如キチ云フ

第四百三十九條 若シ約束セラレ又ハ讓渡サレタル物カ附約者又ハ
讓渡人ノ過愆ナクシテ停止條件ノ成就前ニ其價格ノ全部又ハ其半

ハヨリ多キ部分ニ付キ喪失シタルトキハ合意ハ不成立ト看做サレ
且何レノ方ヨリモ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得ス
之ニ反シテ若シ約束又ハ讓渡カ解除ノ條件ニテ爲サレタルトキハ
右同一ノ喪失又ハ損壞ハ權利ノ確定ト爲リタル要約者又ハ讓受人
ノ負擔ニ歸シ此等ノ者ハ何等ノ返還ヲモ要求スルコトヲ得ス
若シ同一ノ場合ニ於テ喪失又ハ損壞カ價格半ヲ險ヘサルトキハ條
件ノ成就ハ合意セラレタル効力ヲ生ス

(果塚)一項ハ若シ約束セラレトアルチ約束シ又ハ讓渡サレト
アルチ讓渡シトシ看做サレハ看做シトスベシ又二項ノ解除條件
ニテ爲サレテ爲シトシ又三項合意セラレテシト修正スベシ可決
ス(清岡)二項ノ場合ニ於テ買戻ス際ハ例ヘバ半燒ニ係リタル
家屋ノ如キチ前代價ヲ與ヘサルベカラサルハ不都合ナリ如是場
合ハ半燒ノ價直チ減殺セサルベカラス何故ニ半チ險ヘサルトキ

ハ其効アリトスルカ（南部）未必條件ニ屬スルヲ以テナリ一
停止ノトキニハ其物ノ一部分カ喪失シタルトキハ之ヲ不成立ト
視做シ又解除ノ場合ニハ其物ノ一部分カ喪失シタルトキハ之ヲ
解除スルニ故障スルハ不都合ナリ之ニ反シテ若シ利益アリシト
キハ如何必ラズ前代價ヨリ高價ナラサルベカラズ（栗塚）停止
條件ノ場合ハ買受人ノ損失ニ歸シ解除條件ノ場合ハ賣渡人其損
失ニ任セサルベカラズ（清岡）停止條件ノ際ニ於テ目的物半ヲ
贈ヘサル損壞アリシトキ其條件到來シタルトキハ他ノ一方ハ最
初契約ノ代價ヲ以テ引取ラサルベカラサルカ（栗塚）然リ（清
岡）如是ナルトキハ甚不都合ニ屬ス（栗塚）條件附ノ賣買ニア
ラサルトキハ如何（清岡）其時ハ所有權他ノ一方ニ歸シタルモ
ノナレバ無論ナリ（栗塚）然ラバ未必條件ト雖トモ所有權ハ已
ニ他ノ一方ニ移レルヲ以テ其實ニ任スルハ至當ナルニアラズヤ

（清岡）此條ハ全部又ハ其半以上ノ喪失ハ不成立トシ其半ヲ贈
ヘサルトキハ契約ハ成立スルモノナリト云フヲ示シタルニ過キ
ズシテ成立セル以上ハ其通りニテ取引スベシト云フニハアラサ
ルベキナラン（栗塚）伊國ニテハ停止ノ際ハ九步九厘迄損害シ
タルトキト雖トモ之ヲ受取ラサルベカラズトアリ然ルニボアソ
ナードハ目的物カ九步九厘モ喪失セルニ之ヲ受取ラサルベカラ
サルハ甚ダシキナリト云フ意ニテ半ヲ贈ヘサルトセリ（南部）
清岡委員ノ論ノ如キハ頗ル極端ニ涉レリ起案者ハ其中間ヲ取り
シモノナレバ此旨意甚ダ至當ナルベシ（渡）清岡委員ノ説モ一
理アルモ其説ニ從ヘバ未必條件ノ精神ヲ失スベシ先刻ヨリ余程
議論モアリタレバ最早可否ヲ決セラレタシ（栗塚）尙ホ此議論
アリシ趣ハ起案者ニモ告知スベシ（渡）若シ同一ノ字ハ二項ノ
ミニ關スル如ク見ユルニアラズヤ（栗塚）喪失又ハ損壞ノ文字

アルヲ以テ兩項ニ關涉シタルコト知ルベシ（渡）歐文ニハ譯點
アルモ日本文ニハ目標アラサルヲ以テナリ（栗塚）然レバ前二
項ト修正スベシ可決ス

第四百四十條 當事者ノ一方ノ責ニ歸スベキ喪失又ハ損壞ノ場合ニ
於テハ他ノ一方ハ自己ノ損傷ニテ損失ノ賠償ト共ニ合意ノ履行ヲ
請求シ又ハ損害賠償ト共ニ解除ヲ請求スルコトヲ得

（清岡）本條ノ如キ例ヘバ甲者自己ノ家屋ヲ他日乙者ニ賣讓ス
ベキヲ約シタル後暫クアツテ甲者ノ家族其家屋ニ失火シタルト
キ甲者ハ乙者ヨリ損害賠償ヲ請求セラル、如キアルハ甚ダ迷惑
ナリト云フベシ先ツ原案ニ決ス

第四百四十一條 解除ノ條件ハ義務ヲ履行シ又ハ履行スルコトヲ供
スル當事者ノ利益ノ爲メ他ノ當事者カ其義務ヲ全ク履行セサル場
合ニ付キ總テノ雙繫契約中ニ常ニ包含セラル

此場合ニ於テ解除ハ當然成ラズ害ヲ受ケタル當事者ヨリ之ヲ裁判
所ニ請求スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ第四百二十六條ニ從ヒ
他ノ當事者ニ恩惠期間ヲ許與スルコトヲ得

（栗塚）本條一項ハ報告委員ニテ總テノ雙繫契約中ニハ當事者
ノ一方カ其義務ヲ全ク履行セサル場合ニ於テ義務ヲ履行シ又ハ
履行スルコトヲ提供スル他ノ當事者ノ利益ノ爲メ常ニ解除ノ條
件ヲ包含スト修正ス義務ヲ履行シ又履行スベキ提供ヲ爲シタル
トキハ其者ハ他ノ一方ニ對シテ解除スベキ權利ヲ有スト云フニ
アリ（委員長）双務ノ契約ニハ其利益アリト云フコトカ（栗塚）
然リ（委員長）此修正ハ可ナルベシト即チ可決ス（松岡）全ク
ハ全キト云ハサレバ不可ナルユアラズヤ（栗塚）全クハ動詞ニ
使用シタルヲ以テ替フベカラズ全キト云ヘバ名詞ノ場合タラサ
ルヲ得ス（鶴田）全クハ完全ニトシタシ可決ス（清岡）契約中

ノ中ハ必要ナラサルニアラスヤ(村田)中ノ字ハ必要ナリ(鶴田)解除ハ當然成ラストハ如何(栗塚)當然場所ヲ持タズト云フ意ナリ(清岡)當然ニ成ラズトシテハ如何(村田)當然成立セズトシタシ(委員長)成立セストセバ如何(栗塚)成立セズト云ヘバ物ノ成存ヲ論スル如クナルヲ以テナリ(委員長)行ハレズトセバ如何(栗塚)行ハレストセバ敢テ不都合ナシ遊ニ當然ニ行ハレスト修正ス

第四百四十二條 當事者ハ明確ナル合意ヲ以テ前記ノ解除ヲ排除スルコトヲ得

又當事者ハ解除力履行スルコトノ遲滯ニ付セラレタル當事者ニ對シ當然成ルヘキコトヲ明示ニテ合意スルコトヲ得然レトモ遲滯ニ付セラレタル者ハ他ノ當事者カ己レニ對シ其行ハレタル解除ヲ授唱スルトキニアラサレハ之ヲ利唱スルコトヲ得ス

本條ハ報告委員ユテ一項前記ヲ前條ト改ノ二項履行ノ上ノ解除カノ三字ヲ削リ當然ノ上ニ解除カノ三字ヲ挿入シ他ノ上ニ己レニ對シノ五字ヲ挿入シ己レニ對シ其行ハレタルノ數字ヲ削リ其ノ字ヲ挿入スルニ修正ス(松岡)遲滯ニ付セラレタルモノ他ノ當事者ヨリ解除セント云フトキ之ヲ利唱スルハ何ノ利益アルカ(栗塚)他ノ當事者其解除ヲ授唱シタルトキハ遲滯ニ付セラレタル者モ其場合ニ於テハ之ヲ解除スベシト云フヲ得ルナリ(松岡)他ノ當事者カ解除セントスレバ付遲滯者ノ一方ニ於テ解除ヲ要ノサルモ同結果ニ至ルヲ以テ無用ニ屬ス(栗塚)否ナ若シ他ノ當事者解除ヲ言込ムモ或ハ其解除ヲ差扣ントスルヤモ料ルベカラズ其際ニハ付遲者ノ一方ヨリ屢次其解除ヲ促カスヲ得ベシ

第四百四十三條 不履行ニ因リ害ヲ受ケタル當事者ハ默示ノ解除ノ

場合ニ於テ未ダ裁判上ニ其請求ヲ爲サス又ハ明示ノ解除ヲ利唱スルコトヲ述ヘサル間ハ其解除ヲ拋棄スルコトヲ得

(栗塚) 本條ハ報告委員ニテ明示ノ解除ノ下ヘ「」ノ場合ニ於テ未タ之「」ノ數字ヲ挿入ス(松岡) 利唱ハ授唱トセサルベカラズ(清岡) 然リ前條ノ例ニ違テ授唱トスルヲ宜シトス(栗塚) 授唱トスルモ不都合ナシ(尾崎) 默示ノ解除トハ何チ指スカ(栗塚) 第四百四十二條解除ノ條件ヲ包含スト云フカ如キ是レナリ

第四百四十四條 裁判上ニ解除ヲ請求シ又ハ當然ニ行ハレタル解除ヲ授唱スル當事者ハ其他受ケタル損害ノ補償ヲ得ルコトヲ得

(鶴田) 當然ニ行ハレタルハ裁判上ニ於テ解除スベシトナリシコトカ(南部) 裁判上ニアラズ明示ノ未必條件ノ解除ナリ

第四百四十五條 當事者ハ其權利カ停止條件ニ從ヒ又ハ其訴權カ權利上ノ期限若クハ恩惠期限ニ因リ遅延セラル、ト雖モ其間ニ此法

律及ヒ民事訴訟法ニ規定シタル如ク自己ノ權利ノ總テノ保存處分ヲ爲スコトヲ得

(渡) 自己ノ權利ノ總テノ保存處分トハ何ソ(栗塚) 差押ノ如キ云フ(清岡) 停止條件ノ遅延ト云フハ如何(栗塚) 例バ他ノ家屋ヲ購置シタルトキ自分ノ家屋ヲ賣却スベシト云フカ如シ(清岡) ソレハ期限ナキ故遅延ニアラズ(栗塚) 成ル程此遅延ハ訴權ヲ遅延セラル、トキチ指サ、ルヘカラス(委員長) 當事者ハ其訴權カ權利上ノ期限若クハ恩惠上ノ期限ニ因リ遅延セラレ又ハ其權利カ停止條件ニ從フト雖トモ云々トシテハ如何可決ス

第四百四十六條 賣買契約ニ於テ特ニ慣用セラル、隨意ノ停止又ハ解除ノ條件ハ第三編第十二章第六百六十六條乃至第六百六十九條ニ之ヲ規定ス

本條ハ慣用セラル、ヲ慣用スルト修正ス

第二款 負擔シタル目的ニ關シテ單純ナリ、擇一ナリ

又ハ任意ナル義務

第四百四十七條 義務カ或ハ各箇ニ定ノラレタル一箇又ハ數箇ノ物
或ハ數量及ヒ品質ヲ以テノミ定ノラレタル額定物或ハ物ノ聚集又
ハ包括ヲ目的トシテ有スルトキハ其義務ハ單純ナリ

又義務カ或ハ同時或ハ順次ノ別異ナル數箇ノ給付ヲ目的トシテ有
スルトキモ其給付カ唯一ノ合意又ハ連繫ノ合意ニ憑リテ負擔セラ
ル、ニ於テハ尙ホ其義務ハ單純ナリト看做サル

右數箇ノ場合ニ於テハ債務者ハ負擔シタル總テノ物ノ給付ニ因ル
ニアラサレハ其義務ヲ免カレス

(果塚) 本條ハ報告委員ニテ一項ノ名詞ヲ特ニト修正シ目的ト
ノ下シテ有ノ三字ヲ刪リ二項義務カノ下或ハノ二字ヲ刪リ同時
ノ下或ハテ又ハトシ目的トノ下シテ有ノ三字ヲ刪ルト又曰其給

民華二ノ九七

付カテテトシ合意ニ憑リテ合意ニ於テトシ負擔セラル、ヲ負擔
スルトスベシ(鳩田) 唯一ノ合意連繫ノ合意トハ如何(果塚)
家ヲ賣ル契約ハ唯一ナリ遺作モ共ニ賣ルト云フハ連繫ノ合意ナ
リ(清岡) 額定物トハ如何(南部) 額ヲ以テ定ノタル品物ナリ
(栗塚) 量定物ト云フモ同シキナリ然ルニ量定ノ限ニモアラズ
一層範圍ノ汎濶ナルモノナリ

第四百四十八條 義務カ各別ナル二箇又ハ數箇ノ目的ヲ有スルモ債
務者カ其中ノ一箇又ハ數箇ノ給付ニ因リ義務ヲ免ルヘキトキハ其
義務ハ擇一ナリ

與フヘキ物ノ選擇ハ債務者ニ屬ス但其選擇カ債權者ニ許與セラレ
タルトキハ此限ニ在ラス

然レトモ債務者ハ擇一ニテ負擔シタル數箇ノ物ノ一分ヲ受クルコ
トヲ債權者ニ強ヒ又債權者ハ其一分ヲ與フルコトヲ債務者ニ強ユ

ルコトヲ得ス

(果塚) 本條三項ハ報告委員ニテ一分ノ上ニ何レモ各ノ字ヲ加
フ(果塚) 此所ハ各ノ意ニシテ假令ハ米及ヒ麦ノ各一部ヲ與ヘ
タリトシテ義務ヲ免ルベカラズ約束物ノ一タラサルベカラズト
云フニアリ本條許與セラレテ許與シト修正ス

第四百四十九條 撰擇カ債務者ニ屬スルトキ二箇ノ物ノ一カ其過愆
ニ因リ滅失シタルトキハ義務ハ其殘ル所ノ物ニ存シ債務者ハ滅失
シタル物ノ價額ヲ與ヘテ其義務ヲ免ル、コトヲ得ス

若シ二箇ノ物カ債務者ノ過愆ニテ順次ニ滅失シタルトキハ債務者
ハ後ニ滅失シタル物ノ代價ヲ負擔ス

又二箇ノ物カ同時ニ滅失シテ債務者カ其二箇ニ對シ又ハ一箇ノミ
ニ對シ過愆アルトキハ撰擇ハ一又ハ他ノ物ノ價格ヲ得ル爲メ債權
者ニ轉移ス

民事二ノ九八

(清岡) 當事者カテ當事者ノトセザレバ明了ナラス即チ當事者
ハ云々トス(尾崎) 二箇ノ物カ金ク滅失シタルトキハ義務ハ消
ユト云フハ目的物ハ引渡サ、ルモ代金ハ領收スルヲ得ルカ(栗
塚) 契約成立セサル以上ハ所有權他ノ一方ニ移ルヲ以テナリ(栗
松岡) 其場合ハ必ラス特定物ナラサルヘカラス(鶴田) 本條ハ
一項ト三項トニ意外ノ事ト云フヲ置キ二項ニ意外ノ事ト云フコ
トナキニ依リ一項及ヒ三項ハ之ヲ一併ニ附スベシ(南部) 一項
ハ滅失ノ意外ニ關スルヲ云ヒ二項ハ全滅ヲ云ヒ三項ハ變換又ハ
喪失ノ點ヲ云フモノナレバ區別アルベシ(村田) 三項ノ不可抗
力ノ字ハ副ルベシ一項ノ意外ノ事ノ下ニモ不可抗力ナク又意外
ノ事ト云フコトアレバ不可抗力ハ無用ナリ即チ刪除ス(渡) 喪
失ト云ヒ滅失ト云フ殊異ナラシムル必要アルカ(栗塚) 歐文ニ
其區別セルヲ以テナリ(委員長) 此ノ如キ文字ハ能ク意義ヲ紀